

**2024年度
ダイバーシティ科目
講義概要 (シラバス)**



法政大学

科目一覧

〔発行日：2024/5/1〕 最新版のシラバスは、法政大学Webシラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

凡例 その他属性

〈他〉：他学部公開科目	〈グ〉：グローバル・オープン科目
〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目	〈実〉：実務経験のある教員による授業科目
〈S〉：サーティフィケートプログラム_SDGs	〈ア〉：サーティフィケートプログラム_アーバンデザイン
〈ダ〉：サーティフィケートプログラム_ダイバーシティ	〈未〉：サーティフィケートプログラム_未来教室
〈カ〉：サーティフィケートプログラム_カーボンニュートラル	

【A0010】 国際社会と憲法Ⅱ [國分 典子] 秋学期授業/Fall	1
【A0019】 生命倫理と人権Ⅰ [鶴澤 和彦] 春学期授業/Spring	2
【A0020】 生命倫理と人権Ⅱ [洪 賢秀] 秋学期授業/Fall	4
【A0101】 教育法Ⅱ [村元 宏行] 春学期授業/Spring	5
【A0249】 ジェンダー論Ⅰ [中野 洋恵] 春学期授業/Spring	6
【A0250】 ジェンダー論Ⅱ [梅垣 千尋] 秋学期授業/Fall	8
【A0275】 福祉政策Ⅰ [淵元 初姫] 春学期授業/Spring	9
【A0276】 福祉政策Ⅱ [荒木 千晴] 春学期授業/Spring	10
【A0645】 国際協力講座 [本多 美樹] 秋学期授業/Fall	11
【A0664】 グローバル・ガバナンス [本多 美樹] 春学期授業/Spring	13
【A0717】 国際協力論Ⅰ [志賀 裕朗] 春学期授業/Spring	15
【A0718】 国際協力論Ⅱ [志賀 裕朗] 秋学期授業/Fall	17
【A2981】 比較文化論(1) [波戸岡 景太] 秋学期授業/Fall	19
【A3810】 民俗学Ⅱ [室井 康成] 秋学期授業/Fall	20
【A3811】 イスラム世界論Ⅰ [松本 隆志] 春学期授業/Spring	21
【A3812】 イスラム世界論Ⅱ [松本 隆志] 秋学期授業/Fall	22
資格関係科目 【A3860】 民俗学Ⅱ [室井 康成] 秋学期授業/Fall	23
システムデザイン学科_専門科目_展開科目 【B2728】 インクルーシブデザイン(2019~2022年度入学生) [安積 伸、三浦 秀彦] 秋学期前半/Fall(1st half)	24
【C0222】 社会と美術 [稲垣 立男] 春学期授業/Spring	25
【C0233】 ジェンダー論 [佐々木 一恵] 春学期授業/Spring	28
【C0242】 国際文化協力 [松本 悟] 春学期授業/Spring	30
【C0244】 宗教と社会 [佐々木 一恵] 春学期授業/Spring	31
【C0625】 フランス語アプリケーション [ルルー 清野 ブレンダン] 春学期授業/Spring	33
【C0626】 フランス語アプリケーション [ルルー 清野 ブレンダン] 秋学期授業/Fall	34
【C0627】 フランス語アプリケーション [カレンス フィリップ] 春学期授業/Spring	35
【C0854】 現代美術論 [稲垣 立男] 秋学期授業/Fall	36
【C0947】 北米文化論(ケベック講座) [廣松 勲] 秋学期授業/Fall	39
【C0948】 フランス語圏の文化Ⅲ(歴史) [ルルー 清野 ブレンダン] 秋学期授業/Fall	40
【C0952】 カタルーニャの文化Ⅲ(歴史・社会A) [DANIEL FORTEA MUNOZ] 春学期授業/Spring	41
【C0999】 フランス語圏の文化Ⅳ(複言語・複文化社会) [廣松 勲] 春学期授業/Spring	43
【C1031】 宗教社会論Ⅱ [佐々木 一恵] 秋学期授業/Fall	44
【C1032】 宗教社会論Ⅲ(イスラーム思想) [久木 正雄] 春学期授業/Spring	46
【C1044】 人の移動と国際関係Ⅱ [高柳 俊男] 秋学期授業/Fall	47
【C1046】 地域協力・統合 [大中 一彌] 秋学期授業/Fall	48
【C2120】 途上国経済論Ⅰ [武貞 稔彦] 春学期授業/Spring	50
【C2121】 途上国経済論Ⅱ [武貞 稔彦] 秋学期授業/Fall	52
【C2200】 現代社会論Ⅰ [佐伯 英子] 春学期授業/Spring	54
【C2201】 現代社会論Ⅱ [佐伯 英子] 春学期授業/Spring	55
【C2202】 現代社会論Ⅲ [佐伯 英子] 秋学期授業/Fall	56
【C2433】 自然環境論Ⅳ [高田 雅之] 秋学期授業/Fall	57
【C2559】 現代思想と人間Ⅰ [竹本 研史] 春学期授業/Spring	58
【C2560】 現代思想と人間Ⅱ [竹本 研史] 秋学期授業/Fall	60

Advanced Courses／専門科目_Elective Courses／自由科目_Faculty of Sustainability Studies／人間環境学部開 講科目【C3509】Social Development and Sustainability 2 [王 川菲] 春学期授業/Spring	61
展開科目／Disciplinary & Elective Courses_日本社会とサステナビリティ／Japan & Sustainability【C3509】 Social Development and Sustainability 2 [王 川菲] 春学期授業/Spring	63
Advanced Courses／専門科目_Elective Courses／自由科目_Faculty of Sustainability Studies／人間環境学部開 講科目【C3605】Global Society 1 [伊藤 弘太郎] 秋学期授業/Fall	65
展開科目／Disciplinary & Elective Courses_環境総合科目／Environment & Society【C3605】Global Society 1 [伊藤 弘太郎] 秋学期授業/Fall	66
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス【C7258】産業・組織心理学Ⅱ [坂爪 洋美] 秋学期授業/Fall	68
展開科目_選択必修(領域別)_ビジネス【C7259】キャリア開発論 [武石 恵美子] 春学期授業/Spring	69
関連科目【C7710】就業機会とキャリア特講E-働くことと労働組合- [梅崎 修、上西 充子] 秋学期授業/Fall....	70
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(英語分野)【E1809】Intercultural Communication D [石原 紀子] 春学期授業/Spring	72
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【E3603】Intercultural Communication F [ルルー 清野 プレングダン] 春学期授業/Spring	74
【N1116】国際協力論 [佐野 竜平] 春学期授業/Spring	76
【N1117】Community Based Inclusive Development [佐野 竜平] 春学期授業/Spring	77
【N1117】Community Based Inclusive Development [佐野 竜平] 春学期授業/Spring	78
【N1172】Disability and Development in Asia [佐野 竜平] 秋学期授業/Fall	79
Advanced Courses／専門科目_Disciplinary Courses／IGESS科目_IV. Global Issues【N1172】Disability and Development in Asia [佐野 竜平] 秋学期授業/Fall	80
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6129】教養ゼミⅠ [神谷 丹路] 春学期授業/Spring	81
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6130】教養ゼミⅡ [神谷 丹路] 秋学期授業/Fall	82
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6131】クィア・スタディーズA [LETIZIA GUARINI] 春学期授業/Spring	83
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6138】異文化コミュニケーション論B [山本 そ のこ] 秋学期授業/Fall	85
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6431】比較文化A [D. ハイデンライヒ] 春学期授 業/Spring	87
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6605】教養ゼミⅠ [大中 一彌] サマーセッシ ョン/Summer Session	88
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6606】教養ゼミⅡ [大中 一彌] オータムセッシ ョン/Autumn Session	90
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6607】教養ゼミⅠ [ルルー 清野 プレングダン] 春 学期授業/Spring	92
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6608】教養ゼミⅡ [ルルー 清野 プレングダン] 秋 学期授業/Fall	94
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R5279】時事フラン ス語Ⅰ [大中 一彌] 春学期授業/Spring	95
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R5280】時事フラン ス語Ⅱ [大中 一彌] 秋学期授業/Fall	97

LAW300AB (法学 / law 300)

国際社会と憲法 II

國分 典子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

近代立憲主義は西洋の産物です。アジア諸国はそれを受容しつつ、自らの法文化と融合させて独自の憲法を發展させてきました。本講義は、東アジアの立憲主義が歴史的にどのように形成されたか、また国際社会のなかで東アジア地域の憲法がどのような特徴をもつものと考えられるかを比較法的視点をもって分析、理解するとともに近代立憲主義の意味をアジアの視点から考え直すことを目標とします。なお、この講義は、「行政・公共政策と法コース」および「国際社会と法コース」に属するものです。

【到達目標】

日本の近隣地域である韓国、台湾、中国の憲法を学ぶことによって、それぞれの政治体制の特徴を把握するとともに、それがこの地域の抱える特有の法的および政治的問題とどのように関係しているかを理解することができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

歴史的背景を踏まえつつ、東アジア地域の今日の憲法状況を概観します。近代化や今日のアジア地域の変化に触れると同時に、東アジア地域で日本の憲法がどのような位置づけを有すると考えられるかも考察します。

時々、出席を兼ねて感想やわからなかった点等についての簡単なコメントを書いてもらい、わからなかった点に関しては、次の授業の際にお答えるようにします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の概要、教科書、成績の基準等について説明する。
第2回	東アジアの近代国家形成と法	日本を含めた東アジア地域の近代化のなかでの立憲主義の發展について考える。
第3回	韓国の近現代史と憲法	日韓関係をも視野に入れつつ、韓国の憲法史を概観する。
第4回	韓国の憲法の特徴	韓国憲法の特徴と特殊性を検討する。
第5回	韓国の統治機構	韓国の統治機構を概観する。
第6回	韓国の司法と憲法裁判	韓国の法院と憲法裁判所の機能を概観する。
第7回	韓国の違憲審査制	韓国の違憲審査システムの特徴と問題点を考察する。
第8回	台湾の歴史と憲法	台湾の憲法の歴史的背景を概観する。
第9回	台湾の憲法状況	台湾の憲法の特徴と特殊性を概観する。
第10回	台湾の統治機構	台湾の統治機構を概観する。
第11回	中国憲法の形成過程	中華人民共和国の形成過程から中国憲法の特徴を考える。
第12回	中国憲法の特徴	中国憲法前文に見られる特徴を検討する。
第13回	中国の統治機構と人権	統治と人権の観点から中国憲法を概観する。

第14回 東アジアにおける日 戦後補償問題等を素材に東アジア地域における日本・日本法の位置づけを考える。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

日頃から東アジア諸国の政治・社会状況について関心をもつようにします。また日本の憲法についての基礎知識についても復習しつつ授業に参加するようにします。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

中国や韓国の憲法条文を参照するために：

初宿正典・辻村みよ子編『新解説 世界憲法集』第5版三省堂2020年などの憲法集を各自用意してください(図書館等で本講義で扱う国の憲法をコピーするのでも結構です)。韓国と台湾の憲法は、ネット上でも見ることができるので、これについては授業の初日に説明します。中国憲法の2018年改正後の最新版の翻訳が出ているのは、おそらく前記の三省堂の憲法集のみではないかと思われます。

【参考書】

尹龍澤ほか編『コリアの法と社会』(日本評論社、2020年)、鮎京正訓編『アジア法ガイドブック』(名古屋大学出版会、2009年)、稲正樹・孝忠延夫・國分典子編『アジアの憲法入門』(日本評論社、2010年)

【成績評価の方法と基準】

時々出してもらうコメントをもって平常点とし、平常点30%と学期末の筆記試験70%によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

参加者の問題関心を汲み取って説明する必要があると感じています。

【Outline (in English)】

〈Course Outline〉

This course will focus on the constitutional problems of East Asian country from the comparative point of view.

〈Learning Objectives〉

By studying the constitutions of Korea, Taiwan and China, students are exoected to understand the characteristics of each political system and how they relate to the specific legal and political issues facing the region.

〈Learning activities outside of classroom〉

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

〈Grading Criteria〉

Final grade will be calculated according to the following process: comment papers (30%) and term-end examination (70%).

LAW200AB (法学 / law 200)

生命倫理と人権 I

編澤 和彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

生命倫理は、20世紀中葉の非人道的な人体実験を背景にして、今日の形態へと発展してきました。本授業は、このような歴史的な人権問題を考慮しながら、生命倫理の四原則（自律尊重、仁恵、無危害、正義）、三種類の同意概念（インフォームド・コンセント、インフォームド・アセント、代理同意）そして、関連する法規定（法律、ガイドライン、宣言）を学びます。その際、授業内容に関連する医療ドラマを視聴しながら、生命倫理の諸概念や人権問題の理解を深めていきます。なお、本科目は「文化・社会と法コース」にあげられている法的教養を深めるのに適した科目です。また「行政・公共政策と法」の各コースにも配置されています。

【到達目標】

- ①生命倫理と人権思想の連関を把握し、日常生活の出来事から倫理的及び法律的問題を見つけることができる。
- ②具体的な事例に基づいて、生命倫理の土台を成す四原則（自律尊重、仁恵、無危害、正義）を把握することができる。
- ③インフォームド・コンセント、インフォームド・アセント、代理同意という三種類の同意概念、そして、それらに関連する法規定（法律、ガイドライン、宣言）を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

本授業は、対面の形式で行われます。学習支援システムHoppiiを通じて、パワーポイント原稿、解説動画、授業資料、課題を提供します。課題は主に医療ドラマから出され、受講生はこの視聴覚教材を視聴し、課題に答えてください。課題の提出並びに教員からのフィードバックは、Hoppiiを通じて行います。出席、質問、感想は、Google Formを通じて提出してもらいます。質問は次回の授業時に答えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	教員の自己紹介、到達目標、授業内容、授業の進め方について説明します。また、スピッツの「ホスピタリズム」研究から人間の生命について考えます。
第2回	生命倫理と人権思想の歴史的考察①	生命倫理の成立史（ニュルンベルク綱領、ヘルシンキ宣言、ベルモントレポート）を解説します。
第3回	生命倫理と人権思想の歴史的考察②	ロバート・J・リフトンによるナチズムの研究から、生命倫理と人権、とくに差別、抑圧、暴力の問題について考えます。
第4回	終末期医療と患者の人権①	死の概念、患者の自己決定権、インフォームド・コンセント（IC）、パターナリズム、いのちの「終わり」の選択（①セデーション、②自然死、③安楽死、④延命治療）を解説し、それぞれの問題点とそれに関するモラル・ジレンマを明らかにします。

第5回	終末期医療と患者の人権②	がん告知に関する法整備、がん告知についての統計、がん告知の問題、終末期患者への対応、死の受容に関する五段階説（エリザベス・キューブラー・ロス）、医療資源の配分などの問題を考えていきます。
第6回	終末期医療と患者の人権③	第4回と第5回の授業及び課題をふまえて、そのテーマに関してグループディスカッションと全体発表を行います。
第7回	小児医療と子供の人権①	ホスピタリズムと幼児の能力（ヤヌシュ・コルチャック、内藤寿七郎）、幼児の精神的な病気（スピッツ）、インフォームド・アセント（IA）の概念、親の許諾、患児の賛同、IAの適用例、日本におけるIAの実施率について考察します。
第8回	小児医療と子供の人権②	拒血症と宗教的理由から輸血を拒否する事例を取り上げ、パターナリズムと治療の拒否権について考えます。
第9回	小児医療と子供の人権③	第7回と第8回の授業及び課題をふまえて、そのテーマに関してグループディスカッションと全体発表を行います。
第10回	コンピテンスと患者の人権①	判断能力のない患者（生まれながらに判断能力を持ちえない患者と事故や病気で判断能力を失った患者）、リビング・ウィル、成年後見、代理同意とその基準（最高利益と代理判断）及び問題点、臓器移植法改正、家族の範囲について考察します。
第11回	コンピテンスと患者の人権②	自律、コンピテンス、人権との関係、及びコンピテンスの臨床基準について説明します。
第12回	コンピテンスと患者の人権③	第11回と第12回の授業及び課題をふまえて、そのテーマに関してグループディスカッションと全体発表を行います。
第13回	生命倫理の四原則と人権	自律尊重、仁恵、無危害、正義の諸原則を整理し、それらの原則と人権思想との関連をまとめます。
第14回	生命倫理における同意概念と人権	人権との関連でインフォームド・コンセント、インフォームド・アセント、代理同意の概念をまとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：受講生は授業に関連する教科書の該当箇所を読んでおいてください。また、参考書を使って、専門用語の意味等を理解してください（2時間）。復習：授業時に配布された資料（講義原稿と参考資料）を読み直してください。そして、授業支援システムを使って、各授業後に出される課題に答えてください。さらに、ディスカッションでの他の受講生の意見を参考にしながら、そのテーマに関する自分の考えをまとめてください（3時間）。

【テキスト（教科書）】

生命倫理と法編集委員会（編集）『新版 資料集 生命倫理と法』、太陽出版、2860円、ISBN-10:4884695585

【参考書】

- ①樋口範雄・土屋裕子（編集）『生命倫理と法』、弘文堂、3520円、ISBN-10:433535343X
- ②小林亜津子著『はじめて学ぶ生命倫理』、ちくまプリマー新書、780円、ISBN-10:4480688684
- ③トム・L・ビーチャム他著『生命医学倫理』、成文堂、7,560円、ISBN-10:4792360641

【成績評価の方法と基準】

試験方法：定期試験、実施時期：定期試験期間。各課題50%、筆記試験50%の総合評価。筆記試験と毎回の課題は、到達目標に挙げられた以下の基準に従って評価されます。①自分の経験や見聞した知見による例証が、適切に行われているかどうか（40%）。②四原則の内容が、適切に理解され、説明されているかどうか（30%）。③三種類の合意概念が、正しく把握されて、使用されているかどうか（30%）。なお、グループディスカッションで司会（及び「まとめ」の執筆）を担当した受講生には、授業評価点として5点が追加されます。

【学生の意見等からの気づき】

教科書以外の学習教材は、すべて学習支援システムHoppiiにアップロードされていますので、病気などで欠席した方は、これを活用して各自習してください。

【学生が準備すべき機器他】

授業時そして予習や復習の際にも、学習支援システムHoppiiを利用するため、インターネット、パソコンあるいはノートブックを使用します。

【その他の重要事項】

NPO法人ホームケアエクスパーツ協会、日本生殖医療看護学会（第13回実践セミナー）、文部省SSH事業。医療や介護の現場の声を生かしながら、現代の医療・介護問題の本質を明らかにし、生命倫理に即した解決策を考えます。

【Outline (in English)】

Bioethics has evolved from the inhumane human experimentation of the mid-twentieth century to its present-day form. Taking into account these historical human rights issues, this class will study the four principles of bioethics (respect for autonomy, beneficence, nonmaleficence, and justice), the three types of consent concepts (informed consent, informed assent, and proxy consent), and related legal provisions (laws, guidelines, and declarations). Students will watch medical dramas related to the course content to deepen their understanding of various concepts of bioethics and human rights issues. This course is suitable for deepening legal education as listed in the "Culture, Society and Law Course. It also belongs to the course "Administration, Public Policy and Law" courses. In the preparations, Students should read the relevant sections of the textbook related to the class. Students should also use reference books to understand the meaning of technical terms (2 hours). Review: Students should read and review the materials distributed in class (lecture notes and reference materials). Then, answer the assignments given after each class using the class support system. In addition, summarize your thoughts on the topic, referring to the opinions of other students in the discussion (3 hours). Examination method: Written exam, timing: In-class exam. Overall evaluation: 50% for each assignment and 50% for the written exam. These two elements have the following criteria: (1) Whether or not the student can give appropriate examples based on their own experience and knowledge (40%). (2) Whether the four principles are correctly understood and explained (30%). (3) Whether the three consensus concepts are correctly understood and used (30%). Students who moderate the group discussion (and write the "Summary") will receive an additional 5 points for the class evaluation.

LAW200AB (法学 / law 200)

生命倫理と人権 II

洪 賢秀

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命科学技術の進展により、私たちは、「いのちにどこまで人為的な介入を許すべきか」という難題に直面しています。本授業では、生命倫理をめぐる諸課題について社会的・文化的背景を踏まえながら、各社会が新たに登場した生命科学技術をどのように受容し対応しているのかについて、人権及び法的視点からアプローチしていきます。法律学科のコース制との関係では、「裁判と法」「行政・公共政策と法」及び「文化・社会と法」の各コースに属する科目です。

【到達目標】

本授業では、生殖医療技術、遺伝子関連技術、再生医療、移植医療、終末期医療などについて、各社会がどのような規制をもち、どのような議論をしているのか、具体的な事例を検討し、生命倫理に関する基本的情報を習得します。また、他の人との意見交換をとおして、生命倫理に関する多様な立場や価値観への理解を示すととともに、自分の考えを深めていくことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業内容の理解度を確認し、テーマにおける自分の考えを整理していただくために、ミニレポートを課し提出してもらいます。提出されたミニレポートに対して、個人への回答やコメントが必要な場合には、個別に回答・コメントをお送りします。また、全体として共有したほうがよいと思われる内容については、次の講義の際に、おさらいと補足をいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	生命倫理とは何か	人間の欲望と歴史的教訓としての倫理
第2回	生殖医療技術と倫理	生殖医療技術と「生殖医療民法特例法」と諸課題
第3回	遺伝子関連技術と倫理①	遺伝情報と差別
第4回	遺伝子関連技術と倫理②	ゲノム研究とゲノム医療
第5回	遺伝子関連技術と倫理③	ゲノム編集と遺伝子関連検査
第6回	再生医療と倫理①	クローン技術
第7回	再生医療と倫理②	人体組織と再生医療
第8回	エンハンスメントと倫理	エンハンスメントの問題と背景
第9回	移植医療をめぐる倫理①	脳死と臓器移植
第10回	移植医療をめぐる倫理②	いのちの贈物の光と影
第11回	移植医療をめぐる倫理③	移植ツーリズムにおける諸課題
第12回	死をめぐる倫理①	終末期医療
第13回	死をめぐる倫理②	安楽死
第14回	死をめぐる倫理③	死体の研究利用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業において適宜指示します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

準備学習としては、授業内容と関連するテーマについてテキストや参考文献を読んで、授業に臨んでください。毎回のミニレポートの作成は、授業内容の論点整理や理解を確認するための復習の時間となります。

【テキスト（教科書）】

神里 彩子・武藤 香織 編『医学・生命科学の研究倫理ハンドブック』第2版（東京大学出版会、2023年、税込2,640円）
棚島次郎著、『先端医療と向き合う：生老病死をめぐる問いかけ』（平凡社新書、2020年、税込880円）

【参考書】

『ジュリスト増刊 ケース・スタディ 生命倫理と法』、松原洋子・伊吹友秀『生命倫理のレポート・論文を書く』（東京大学出版会）、棚島次郎『先端医療と向き合う：生老病死をめぐる問いかけ』（平凡社新書）

その他、授業において毎回レジュメや資料を配布し、参考文献は随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

評価の配分は、期末レポート50%と、ミニレポートの課題50%とし、総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、提出してもらったミニレポートなどから得られた学生さんからのご質問やご意見について必要に応じてクラス全体で共有し、受講者とのコミュニケーションが活性化できるようにしていきます。

【Outline (in English)】

Advances in the life sciences and technologies are forcing us to confront the difficult question of “How much artificial intervention into life should be permitted?” In this class, drawing on the social and cultural background of a variety of issues surrounding bioethics, we adopt a legal and human rights perspective as we approach the question of how each society accepts and responds to newly emerging life sciences and technologies. With reference to the law school’s course system, this class is affiliated with the following courses: “Courts and the Law,” “Administrative and Public Policy and the Law,” and “Culture, Society, and Law.”

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Instructions will be given in class as appropriate. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. As for preparatory study, please read the textbook and references on the topics related to the class contents before coming to class. The preparation of mini-reports for each class will serve as review time to organize the issues and confirm your understanding of the class content.

【Grading criteria】

Evaluation will be allocated as follows: 50% for the final report and 50% for the mini-report assignment.

LAW200AB (法学 / law 200)

教育法Ⅱ

村元 宏行

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈ダ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

教育法は、「裁判と法コース」「企業・経営と法コース (労働法中心)」「行政・公共政策と法コース」「国際社会と法コース」および「文化・社会と法コース」に位置付けられています。教育法は、憲法26条に規定された「教育人権」を保障するための法体系のあり方について考究することを目的とする現代法学の一領域です。よって、行政による積極的施策が求められる一方で、行政による教育内容統制が教育人権侵害をもたらす危険性も指摘されています。

伝統的に教育法では、国家による教育内容統制から、いかに国民の教育の自由を守るのかといった問題が重点的に研究されてきました。近年ではこのような伝統的な教育法学説に加え、いじめ、体罰やその他の学校災害対策の究明なども求められています。

そのような状況を踏まえて、教育法Ⅱでは、子どもの人権保障の動向と、学校教育における子どもの人権、そして近年の教育政策の動向について取りあげることとします。

【到達目標】

子どもの人権保障の国際的動向や国内の課題について理解を深める。学校内部での子どもの人権保障について、人権侵害事件を具体的に学んで理解を深める。

近年の教育政策の動向と課題について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業はレジュメに沿って講義形式で行います。ただし一方通行にならないためにも、毎回小レポート (リアクションペーパー) を提出してもらい、授業の初めにいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行うなど、授業に取り入れていきます。

この授業は対面を基本とします。万一オンライン等で授業を行う場合には授業支援システムにて前日までに告知するので、毎回確認してください。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	子どもの人権保障の国際的動向	子どもの権利条約に至るまでの国際的動向について
第2回	子どもの権利条約の理念	子どもの権利条約の基本原則について
第3回	国内における子どもの権利保障の動向	子どもの権利条約を踏まえた国内での子どもの権利保障について
第4回	学校における子どもの人権：校則 (沿革、学説)	校則をめぐる法的論点について、沿革、学説などを通じて考察する
第5回	学校における子どもの人権：校則 (判例)	校則をめぐる法的論点について、判例・裁判例などを通じて考察する
第6回	学校における子どもの人権：体罰 (沿革、学説)	体罰をめぐる法的論点について、沿革、学説などを通じて考察する
第7回	学校における子どもの人権：体罰 (判例)	体罰をめぐる法的論点について、判例・裁判例などを通じて考察する

第8回	学校における子どもの人権：いじめ (沿革、学説)	いじめをめぐる法的論点について、沿革、学説などを通じて考察する
第9回	学校における子どもの人権：いじめ (判例)	いじめをめぐる法的論点について、判例・裁判例などを通じて考察する
第10回	学校における子どもの人権：その他学校災害	その他の学校事故、学校災害の救済法制について
第11回	最近の教育政策の動向 (教育政策の形成過程)	教育政策の形成過程と問題点について
第12回	最近の教育政策の動向 (最近の教育政策)	最近の教育政策の特色と課題について
第13回	教育改革と学校参加 (現状)	子ども・親・住民の学校参加についての現状
第14回	教育改革と学校参加 (今後の課題)、まとめと試験	子ども・親・住民の学校参加についての今後の課題

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

テキストや関連文献による予習と復習のほか、授業で取り上げる事柄について新聞や専門誌で最新動向をつかんでおくことが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

『ハンディ教育六法 2024年版』北樹出版、2024年

【参考書】

予習・復習用として推奨するテキスト：姉崎洋一ほか編『ガイドブック教育法 新訂版』(三省堂、2015年)

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (50%)

授業内小レポート (リアクションペーパー) (50%)

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい板書と資料の映示を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ配布は原則として学習支援システムを用います。

【その他の重要事項】

その他履修にあたっての注意事項は開講時に説明するので、初回の授業には出席してください。出席できない場合は、友人などに内容を確認できるようにしておいてください。

【Outline (in English)】

Course outline

The purpose of this lecture is to understand the basic principle that supports the education law and student rights.

Learning Objectives

The goals of this course are to understand the basic principle that supports the education law and student rights.

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%、Short reports : 50%

POL200AC (政治学 / Politics 200)

ジェンダー論 I

中野 洋恵

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業は、政治学科科目の中で現代政治科目群に属する科目で、ジェンダーの視点から政治・政策を考察することを目的としています。ジェンダーは、現代社会を読み解くうえで、極めて有効な概念です。今日では、社会科学や人文科学における鍵概念の一つになっています。ジェンダーの概念とは何か？一言でいえば、権威化され、硬直化した既存の観念を批判し、新鮮かつ柔軟な見方を提示するための「ものの見方」であり、「考え方」と言うことができます。ジェンダーの概念は、これまで主流派政治学が見過ごしてきた社会の周縁や見捨てられた人びと、あるいは生活世界の問題に光を当て、停滞した既存の学問や固定化し融通性を失った通説への挑戦だといっても過言ではありません。本講義は、このような政治学における新しい領域としてのジェンダーの視点に光を当てます。このジェンダー論 I では、ジェンダーとはどのような考え方なのか、その意味や意義、アプローチなどを学びます。言わば、ジェンダー論の基礎編になります。

【到達目標】

授業では、この「ジェンダー」を、現代社会を読み解く分析概念として位置づけ、政治や政策を、従来にはない新しい観点から再考することを目指します。すなわち、既存の理論や考え方、あるいは通説を批判的に検討し、それらとは異なった、そして意外性のある見方や考え方を学びます。そしてそれがそれがどのような政策につながっているのかを理解してほしいと考えます。このような学びを通して、学生にはこれまでの概念を批判的に問い直し、自分自身の解答に到達する能力を身につけることを目指します。政治や政策は机上の理論ではなく、私たちの政策に密接にかかわっています。だからこそ参画して変えていくことが可能になるのです。そのために、ものごとの本質を見抜く、能力を磨くことを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

ジェンダーの視点から政治、政策の中心的な課題を問い直します。

(1) ジェンダー概念

本講義では、政治、政策の課題をジェンダーの視点から検討し、どのような変化がみられるのか、そのそしてその要因はどのような政治的、社会的と関わっているのかを理解します。

この作業の前提として、講義ではまずジェンダーとは何か、ジェンダーに基づく見方や考え方、またジェンダー分析の射程について学びます。従来、ジェンダーは男女の役割や関係を表す用語として用いられてきましたが、今にちでは様々な社会関係に応用され、また性の多様性を表現する概念に発展しています。

(2) 様々な政策からジェンダー問題を理解する

1999年に可決された男女共同参画社会基本法、2020年12月に閣議決定された「第5次男女共同参画基本計画」をもとに様々な分野で推進されている政策を理解することによって、政策決定過程やあらゆるレベルの政策及びシステムをジェンダー平等にするための政策理念「ジェンダー主流化 (Gender Mainstreaming)」概念を明確にします。

(3) ジェンダー平等を進めるために

平等であることに異議を唱える人はあまりいないと思います。また、平等は人権が尊重され、誰もが幸福に生きるため社会的基盤といっても良いでしょう。しかし、いまだに、性別、人種や民族、性的マイノリティ、障がいのある人びとが差別的に取り扱われているという現実があります。

どうすればいいのか、国内の動きや海外の動きを見ることによって考えます。

授業ではパワーポイントの資料や行政で作成されている動画などを随時活用して講義を進めます。課題ごとのレポートを提出していただきます。また、提出していただいた課題ごとのレポートについては授業の初めに、いくつか内容を取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

レポートの提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。

また、対話やグループワークなどを取り入れ、参加型の授業を試みます。

授業は対面で実施します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序：本講義の目的、講義の見取り図	本講義の概要、全体を通して学ぶべきこと、受講の姿勢
第2回	講義の全体像の理解 ジェンダーとは？① ジェンダーについての理解を深める	ジェンダーとは「社会的・文化的に形成された性別」のこと。人間には生まれつきの生物学的性別 (セックス / sex) とは異なる。どうしてジェンダーについて考える必要があるかを理解する。
第3回	ジェンダーとは？② ジェンダーをめぐる最近の動向について考える	現在ジェンダーをめぐる課題が大きく取り上げられるようになっている。多様性をどう考えるか LGBTQ やパートナーシップ制度等に関する法制度の整備も進んでいる。政策の動向についても考察する。
第4回	家族とジェンダー	未婚化、少子化が進んでいる。家族を形成する結婚や子育ての状況が変化している。歴史的な動向を説明すると主に現状の問題を考えると同時に、少子化に対応する子育て支援施策 (異次元の少子化対策) についてジェンダーの視点から考える。
第5回	教育とジェンダー①	一般に教育の場は男女平等だと言われている。問題はないのかを考える。教育の中に潜むジェンダー問題を明らかにする。
第6回	教育とジェンダー②	「理系は男子が得意で女子は文系が得意」という言説について考える。内在しているアンコンシャス・バイアス (無意識の偏見) を理解する。
第7回	労働とジェンダー①	「女性の活躍」が政策課題になっている。女性の継続就労が当たり前になりつつある中の課題について言及する。女性活躍推進法の改正によって、2022年から条件に該当する企業は「男女の賃金の差異」情報の公表が義務付けられることとなった。また、「年収の壁」を意識せず働くことができる環境づくりも進められている。このような動きの中で男女賃金格差問題を考える。

第8回	労働とジェンダー②	男女ともに働きやすい職場環境を作るために「ワーク・ライフ・バランス」の取組が進んでいる。2022年に男性の育児休業取得促進のための子の出生直後の時期における柔軟な育児休業の枠組みの創設させた。男性が育児に関わることの意味と課題を考える。
第9回	メディアとジェンダー	インターネット、テレビ、新聞や雑誌など私たちのまわりは情報にあふれているがジェンダーのステレオタイプを再生産することが少なくない。メディアをジェンダーの視点で分析するとともに「メディア・リテラシー」を理解する。
第10回	女性に対するあらゆる暴力の根絶	女性に対する暴力は重大な人権侵害である。その予防と被害からの回復、暴力の根絶を業来するためにはどうすべきかを考える。改正された刑法について説明し「性的同意」を考える。
第11回	政治とジェンダー	政策・方針決定過程への女性の参画の拡大は現在の日本において大きなジェンダー課題となっている、特に政治分野における女性の参画拡大を進めるためにはどのような方策がとられているかを理解する。
第12回	国内のジェンダー平等政策	ジェンダー平等を進めるためにどのような方策がとられてきたのかを「男女共同参画基本計画」を基に理解する。さらにジェンダー平等に向けた法制度についても概観する。
第13回	国際的に見たジェンダー平等の取組	世界の中でも日本のジェンダー平等のランキングは低い。SDGs、GGGI等の国際的な動向を踏まえ日本の課題を考える。ジェンダー平等が達成されていない分野を明確にし。その要因も考える。
第14回	授業内試験	持ち込み不可

・科学技術振興機構 ダイバーシティ推進

<http://www.jst.go.jp/diversity/index.html>

・初等中等教育における男女共同参画

国立女性教育会館 <https://www.nwec.jp/about/publish/kyoin-program.html>

【成績評価の方法と基準】

内容ごとの課題レポートの提出 (50%)

筆記試験 (授業内試験、持ち込み不可) (50%)

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度に注意を払い、受講へのモチベーションを高めるように努力します。ジェンダー平等に向けてどのような社会を構築することが持て目られるのかは様々な意見があります。現状の何が課題となっているのかをデータや理論から丁寧な説明を心がけます。意見交換の場の充実を検討します。

【Outline (in English)】

Gender is one of the most important concepts in social science discourse. In the lecture, I will critically discuss political phenomena, events and institutions through gender lens.

Course outline

This course introduces gender concept, gender policy and gender issues in Japanese society to students taking this course.

Learning Objectives

The goals of this course are to understand Japanese gender issues and develop the ability to think critically about social phenomena.

Lecture/Exercise (two-credits)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 50%、Short reports : 50%

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

事前の下調べ、授業後のノート整理は不可欠です。また、理解を深めるために、紹介文献等を読むことを薦めます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

毎回レジュメや参考資料を配付する、映像資料も活用する。

【参考書】

・三浦まり『さらば、男性政治』(岩波新書2023年)

・牧野百恵『ジェンダー格差』(中公新書2023年)

・第5次男女共同参画基本計画

http://www.gender.go.jp/about_danjo/basic_plans/4th/index.html

・内閣府「仕事と生活の調和」推進サイト ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて

<http://www.cao.go.jp/wlb/index.html>

・女性に対する暴力

若年層を対象とした性的な暴力の啓発教材

http://www.gender.go.jp/policy/no_violence/index.html

NWEC実践研究第9号「ジェンダーに基づく暴力」

・内閣府男女共同参画局女性活躍推進法見える化サイト

http://www.gender.go.jp/policy/suishin_law/index.html

・厚生労働省女性活躍推進法特集ページ

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000091025.html>

・内閣府男女局 理工チャレンジ (リコチャレ)

<http://www.gender.go.jp/c-challenge/>

POL200AC (政治学 / Politics 200)

ジェンダー論Ⅱ

梅垣 千尋

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業は、政治学科科目の中で現代政治科目群に属する科目です。ジェンダーと政治をめぐる問題を、時間的にも空間的にも射程を広げてとらえ返すことを目的とします。具体的には、おもにイギリス近現代史に焦点を当てながら、ジェンダーの視点からみた政治のあり方について、現代日本に生きる私たちに新たな気づきを与えるさまざまな歴史的事例を学びます。

【到達目標】

- ・現代日本のジェンダーと政治をめぐる問題を、国際的および歴史的視点から相対化できるようになる。
- ・ジェンダーの視点から、議会内外の政治のあり方を複眼的にとらえ、政治の多元性について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義が中心となりますが、可能なかぎり視聴覚資料を使用して理解を助けます。授業の終わりに小テストを提出してもらい、次の授業でその内容をいくつか取り上げ、全体にむけてフィードバックを行いながらさらなる議論に活かします。また、前半のテーマと後半のテーマのそれぞれの締め括りの回では、全体でディベートを行う予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	〈ジェンダーと政治〉について考える
第2回	歴史とジェンダー (1)	近世君主制とジェンダー
第3回	歴史とジェンダー (2)	近代君主制とジェンダー
第4回	歴史とジェンダー (3)	現代君主制とジェンダー
第5回	歴史とジェンダー (4)	女性君主をめぐる問題
第6回	歴史とジェンダー (5)	日本における女性天皇の可能性
第7回	女性と政治参加 (1)	政治の民主化とフェミニズム
第8回	女性と政治参加 (2)	女性参政権運動
第9回	女性と政治参加 (3)	政治運動とジェンダー
第10回	女性と政治参加 (4)	ウーマンリブ運動
第11回	女性と政治参加 (5)	労働運動とジェンダー
第12回	女性と政治参加 (6)	女性首相の誕生
第13回	女性と政治参加 (7)	政治的リーダーシップとジェンダー
第14回	女性と政治参加 (8)	日本におけるクォータ制の可能性

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業前は、講義予定を勘案しながら、キーワードとなる人物や事柄について調べておくこと。授業後は、講義内容を振り返り、各自の関心に従って参考文献を読み進めること。この講義の準備学習・復習時間は、それぞれ2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に使用しません。

【参考書】

授業時にその都度、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点80% (小テスト、発言など)
- ・レポート20%

詳しい評価基準については、初回の授業で説明します。

【学生の意見等からの気づき】

小テストの記述内容を (匿名で) 取り上げて紹介したり、授業中にブレインストーミングの時間をもったりすることで、受講者同士での学び合いを促したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

課題の提出は、学習支援システムを利用する予定です。受講にあたっては、学習支援システムを活用できる環境が必要です。

【その他の重要事項】

履修登録期間終了後は、オンライン授業の場合でも原則としてリアルタイム型とし、録画を公開しませんのでご注意ください。

【Outline (in English)】

COURSE OUTLINE

This course explores a range of historical issues relating to gender and politics with a particular focus on modern British history.

LEARNING OBJECTIVES

By the end of the course, students will be able to gain comparative perspectives on issues surrounding gender and politics, both internationally and historically.

LEARNING ACTIVITIES OUTSIDE OF CLASSROOM

Students are required to complete weekly assignments. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

GRADING CRITERIA

Grading will be decided based on weekly assignments (80%) and a short report (20%).

POL200AC (政治学 / Politics 200)

福祉政策 I

淵元 初姫

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業は政策・都市・行政の分野に属する科目です。福祉政策とは何か。そこではどのような政策の選択肢があり得るのか。また、福祉はどのような過程を経て人々のもとに届くのか。本講義では、現代社会において福祉政策がどのように構成され、議論されているのかを検討するための基本的な概念や理論を取り扱います。

【到達目標】

- (1) 福祉政策を論じる上で必要となる基本的な用語や概念を理解する。
- (2) 現代社会における福祉政策の問題がどのように構成されているかを理解する。
- (3) 福祉政策をめぐる制度や仕組みを理解し、支援の実際について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

教員による講義のほか、履修人数によっては、学生によるディスカッションの機会を設けることがあります。また、講義の内容について学生の理解を確認するため、リアクション・ペーパーもしくは課題の提出を求めます。これは不定期に合計3回ほど実施する予定で、成績評価の対象となります。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業のテーマや到達目標、評価基準等について説明し、福祉政策を学ぶ際の視点について考える。
第2回	現代の福祉課題	現代社会において生活を営む上で私たちが直面している福祉問題・課題について考える。
第3回	福祉制度の歴史と展開 (1)	福祉国家の形成過程について説明し、社会福祉がいかに制度化されてきたのかを学ぶ。
第4回	福祉制度の歴史と展開 (2)	福祉国家の変容とポスト福祉国家体制について学ぶ。
第5回	社会福祉の原理	なぜ人と人は支え合うのかを問いつつながら、福祉社会のあり方について検討する。
第6回	福祉政策の範囲と体系	広義・中間義・狭義の「社会福祉」を理解し、社会福祉法をはじめとする関連法規の概要を学ぶ。
第7回	社会保障制度	年金・医療保健制度をはじめとする社会保険制度のほか、社会扶助制度、社会福祉制度の内容について学ぶ。
第8回	日本における社会福祉の特徴	日本型福祉社会の形成過程と特徴を説明し、家族や地域社会、企業がいかなる役割を果たしてきたのかを論じる。

第9回	福祉政策の国際比較	福祉国家の類型について学びながら、国際比較の視点と方法を考える。
第10回	福祉政策と地方自治	地方自治体におけるこれまでの福祉政策に関する取り組みを学び、今後の課題を考える。
第11回	福祉政策の担い手	福祉政策を支える自治体職員、福祉専門職のほか、社会福祉法人やNPO法人について学び、それらの役割を考える。
第12回	社会福祉と市民参加	福祉政策の領域における市民参加の諸形態について学ぶ。
第13回	コミュニティにおける社会福祉	地域福祉という考え方とその実践について学び、これからの福祉政策を展望する。
第14回	まとめ	授業を振り返り、その内容についてまとめる。また、授業内容に関する筆記試験を行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

多様な複数のメディアを通じて、身近な政策課題について関心をもつように心がけてください。皆さんが居住する自治体のホームページなども重要な情報源です。授業中は、重要であると思う点等についてノートを取り、不明な点があれば、教員に質問したり、出席者同士で問ひかけあうことも必要です。講義の後は、復習としてその内容について振り返り、知識の定着をはかるとともに、自らの興味や関心と関連付けて考えてみることも大切です。本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とします。授業中にリアクション・ペーパーや課題を指示された場合は、期日までに提出してください。

【テキスト (教科書)】

特に指定しません。必要に応じてプリント等を配布します。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (70%) 及び授業内リアクション・ペーパー (30%) により評価します。評価の基準については、授業の内容や課題への取り組みを通してみなさんがどのように考えたのかを重視しています。

【学生の意見等からの気づき】

ペアワークやグループワークの実施は、多様な意見に触れる機会として概ね好評であるため、今年度も出来る限り積極的に取り入れたと考えています。

【Outline (in English)】

The lecture explores how social/welfare policies are constructed and debated in contemporary society. How are policies made? Which voices matter? How policies are delivered? The course will be of interest to those with an interest in how social/welfare policies, which affect our everyday lives, are made by politicians, government officials, citizens, and various other actors.

Students will be expected to spend four hours to understand the course content before/after each class meeting.

Students will be Assessed by;

Written Exam 70%, Reaction paper 30%

POL200AC (政治学 / Politics 200)

福祉政策Ⅱ

荒木 千晴

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

政治学科科目の中で「政策系」の分野に属する科目である。日本の社会福祉制度は、対象者別に発展してきたが、現在「地域共生社会の実現」に向けて、地域を基盤に、社会福祉の各制度を包括化する方向で展開されている。本授業では福祉政策の展開と論点を理解するとともに、近年の福祉政策を特徴づける包括的支援体制について検討する。また、海外の福祉政策との比較から、日本の福祉政策の特徴について理解を深める。

【到達目標】

- ・福祉政策が求められる背景にある社会問題を理解する。
- ・現在の日本がおかれている福祉環境と福祉政策の概要を理解する。
- ・近年における福祉政策の展開を理解する。
- ・福祉政策の内容と実際について、複数のテーマにおける事例をもとに理解する。
- ・海外の福祉政策との比較から、日本の福祉政策の特徴を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・福祉政策に関する基礎概念、政策、団体、海外の制度等、毎回中核となる主題をとりあげる。また、テーマに即した具体的な事例等を通じて、多角的・実践的な視点から福祉政策の理解をすすめる。
- ・なお、各回のリアクションを受け止めるため、専用のメールを開講する。このメールに質問、感想などを求め、理解度や疑問に対応しながら授業を進める。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要、注意事項、評価方法等を説明する。
第2回	福祉政策の展開	日本における福祉政策の歴史的な展開を理解する。
第3回	今日の社会問題と福祉政策	現代における社会問題を概括し、福祉政策に求められている論点について考える。
第4回	所得保障に関する福祉政策	所得保障に関する各制度の概要、生活保護、生活困窮者自立支援事業等、政策動向について理解する。
第5回	高齢者福祉政策	高齢者福祉に関する福祉政策について、介護保険をはじめ各制度の概要・政策動向を理解する。
第6回	障害者福祉政策	障害者福祉政策について、障害者自立支援制度をはじめ制度の概要・地域の支援体制を理解する。
第7回	子ども家庭福祉政策	地域において子どもと家庭を支援する福祉政策について、概要・政策動向を理解する。
第8回	権利擁護に関する福祉政策	地域における権利擁護体制の推進について、成年後見制度の利用促進・意思決定支援等の政策を例に理解する。

第9回	社会的包摂に関する福祉政策	地域共生社会に向け、多文化共生や司法福祉など、社会的包摂の観点から求められる福祉政策の現状について理解する。
第10回	災害と福祉政策	災害時における福祉政策について、事例をもとに検討する。
第11回	地域福祉政策と包括的支援体制	包括的支援体制の構築の基盤となる地域福祉政策の展開、体制および地域福祉計画について、自治体の取組事例をもとに検討する。
第12回	福祉政策を推進する体制	福祉政策を推進するための各機関や人材等について理解し、各機関の連携・協働等今後の体制のあり方を考える。
第13回	海外の福祉政策	海外における福祉政策の展開との比較から、日本の福祉政策の特徴を理解する。
第14回	授業のまとめ、到達度確認 (試験)	第13回までの授業を振り返り、授業のまとめを行う。到達度を確認する試験を実施する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業中に提供した資料、記録をもとに復習を行うとともに、各回のテーマについて居住する自治体の情報やニュース等、福祉政策の実際に触れ、情報収集を行い、理解を深めることが推奨される。学習支援システムを通じて教材を事前配布した場合には、授業前に読んで検討しておくことが準備学習として求められる。本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教科書は使用しない。毎回、学習支援システムを通じて教材の配布を行う。

【参考書】

- ・一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟「社会福祉の原理と政策」2021年、中央法規出版
- ・小田 憲三他監修「社会福祉概論 第5版: 社会福祉の原理と政策」2021年、勤草書房
- ・厚生労働省「地域共生社会のポータルサイト」：
<https://www.mhlw.go.jp/kyouseisyakaiportal/>
その他の文献はその都度提示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (70%)、授業内リアクションペーパー (30%) により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

2023年度には授業内アンケートを受け、各分野の福祉政策概要に加え、自治体等における具体的な福祉政策の展開事例を、映像等を用いて紹介を行っている。

【Outline (in English)】

This subject belongs to the "policy-oriented" field within the Department of Political Science courses.

Japanese social welfare system has been developed by the target groups. Currently, however, the system is being developed in the direction of making each social welfare system more inclusive, based on the community, toward the "realization of a regional inclusive society".

In this class, we will understand the development and issues of welfare policy and examine the comprehensive support system that characterizes recent welfare policy. In addition, we will deepen our understanding of the characteristics of Japanese welfare policy by comparing it with welfare policies in other countries.

Students will be Assessed by;

Written Exam 70%, Reaction Paper 30%

POL200AD (政治学 / Politics 200)

国際協力講座

本多 美樹

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講座は、現実の国際協力実務に携わるプロフェッショナルによるオムニバス形式の講義をとおして、国際協力のさまざまな取り組みの現状と課題を学習・理解することを目的とする。これにより、将来、地球共生社会の実現を目指して国際協力の世界で活躍する人材の育成も目的とする。

【到達目標】

- ・国際協力分野に携わる様々なアクターによる政策や活動について、また、アクター間の連携について知識を深める。
- ・国際協力分野の実態と課題について知る。
- ・国際協力分野における課題に気づき、自分なりの意見を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP4」に強く関連。「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

ゲストスピーカーによる講義と学生からの質疑応答で授業を構成する。授業後には講義への理解度を確認するため、支援システムを通じて毎回課題の提出を求める。ゲストスピーカーの予定によってシラバスに変更が生じる場合がある。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	国際協力の形態と種類	国際協力の意義、形態と種類
第2回	国際協力の世界的潮流	開発協力専門家による講義と質疑応答
第3回	持続可能な開発のための2030アジェンダとSustainable Development Goals (SDGs)	開発援助専門家による講義と質疑応答
第4回	日本の国際協力：開発協力大綱と日本の政府開発援助 (ODA)	ODAの実務家による講義と質疑応答
第5回	国際協力機構 (JICA) の役割、活動と課題	JICA職員による講義と質疑応答
第6回	国際協力機構 (JICA) の緊急援助活動と課題	JICA職員による講義と質疑応答
第7回	国際機関の役割、活動と課題	国際機関職員による講義と質疑応答
第8回	国際協力における開発コンサルタントの役割、活動と課題	開発コンサルタントによる講義と質疑応答
第9回	国際協力における市民社会団体・NGOの役割、活動と課題	NGOの職員による講義と質疑応答
第10回	国際協力における市民社会団体・NGOの役割、活動と課題	NGOの職員による講義と質疑応答

第11回	国際協力における民間企業の役割、活動と課題	民間企業による講義と質疑応答
第12回	国際協力とメディア	報道機関の職員による講義と質疑応答
第13回	国際協力におけるアクター間の連携について	連携推進機関の職員による講義と質疑応答
第14回	まとめ	復習と総括

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間程度を標準とする。

【テキスト (教科書)】

特になし。レジュメ、資料を適宜Hoppii上で配布する。

【参考書】

- ・山田満ほか編著『新しい国際協力論—グローバル・イシューに立ち向かう』(第3版) 明石書店、2023年
- ・紀谷昌彦、山形辰史『私たちが国際協力する理由 人道と国益の向こう側』日本評論社、2019年
- ・南博、稲場雅紀『SDGs 危機の時代の羅針盤』岩波新書、2020年
- ・蟹江憲史『SDGs (持続可能な開発目標)』中公新書、2020年
- ・勝間靖 (編)『持続可能な地球社会をめざしてわたしのSDGsへの取り組み』国際書院、2018年
- ・下村恭民・辻一人・稲田十一・深川由起子『国際協力 その新しい潮流 第3版』有斐閣選書、2016年
- ・浅沼信爾・小浜裕久『ODAの終焉』勁草書房、2017年
- ・Yasutami Shimomura, John Page, Hiroshi Kato (eds.), Japan's Development Assistance: Foreign Aid and the Post-2015 Agenda, Palgrave Macmillan, 2016
- ・Michael P. Todaro and Stephen C. Smith, Economic Development Thirteenth Edition, Pearson, 2020.

【成績評価の方法と基準】

質疑応答への積極的な参加などの平常点 (30%)、課題の提出状況と内容 (70%) から総合的に判断する。

*遅刻は20分まで。それ以降の入室は欠席と見なす。

*4回以上課題未提出の場合は単位の授与はない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

日々国際社会で起る出来事に関心を持ち、関連文献を積極的に読んだり、セミナーや講演会への参加が望ましい。随時、必要に応じて紹介する。

【担当教員の専門分野】

- <専門領域>
国際関係論、国際機構論、安全保障研究、国連研究
- <研究テーマ>
国際社会による「平和」のための協働と確執、アジア太平洋地域の伝統的・非伝統的安全保障
- <主要研究業績>

主な著書として、『新しい国際協力論—グローバル・イシューに立ち向かう』（第3版）（明石書店、2023年）；『「非伝統的安全保障」によるアジアの平和構築：共通の危機・脅威に向けた国際協力は可能か』（明石書店、2021年）、「国連による『スマート・サンクション』と金融制裁：効果の追求と副次的影響の回避を模索して』『国連の金融制裁：法と実務』（東信堂、2018年）、「平和構築の新たな潮流と『人間の安全保障』：ジェンダー視座の導入に注目して』『東南アジアの紛争予防と『人間の安全保障』』（明石書店、2016年）、「国連による経済制裁と人道上の諸問題：『スマート・サンクション』の模索』（国際書院、2013年）、『北東アジアの「永い平和」：なぜ戦争は回避されたか』（勁草書房、2012年）、「『グローバル・イシュー』としての人権とアジア：新たな国際規範をめぐる国際社会の確執に注目して』『グローバリゼーションとアジア地域統合』（勁草書房、2012年）、「Japan: COVID-19 and the Vulnerable, COVID-19 and Atrocity Prevention in East Asia(Routledge, 2023);“Smart Sanctions’ by United Nations and Financial Sanctions,” United Nations Financial Sanctions (Routledge, 2020);“Coordination challenges for the UN-initiated peace-building architecture Problems in locating‘universal’norms and values on the local.”Complex Emergencies and Humanitarian Response (Union Press, 2018), “The Role of UN Sanctions against DPRK in the Search of Peace and Security in East Asia: Focusing on the Implementation of UN Resolution 1874,” East Asia and the United Nations: Regional Cooperation for Global Issues (Japan Association for United Nations Studies, 2010) などがある。執筆した主な教科書として、『国際機構論 活動編』（国際書院、2020年）、『国際機構論 総合編』（国際書院、2015年）、『国際学のすすめ』（東海大学出版会、2013年）などがある。

【Outline (in English)】

This course will examine the various approaches, forms, and actors of international cooperation in different fields. Different lecturers who are involved in international cooperation from the Japanese government, international organizations, NGOs, and the private sector will give lectures on the activities that they are undertaking and hold discussions with the students. Through these lectures and discussions, the students will deepen their understanding on the broad range of international cooperation activities and issues involved.

POL100AD (政治学 / Politics 100)

グローバル・ガバナンス

本多 美樹

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

グローバル・ガバナンスの概念は比較的新しく、その概念をめぐっては議論が続いている。しかし、実際の国際社会では、開発援助の分野においてだけでなく、さまざまな地球規模の問題領域に応用されている概念である。この講義の目的は、グローバル・ガバナンスの基本的な知識を理論と実践の両方において身に付けることにある。まず、グローバル・ガバナンスの概念の登場と発展について整理したのち、グローバル・ガバナンスのおもな担い手である国連による実践例として、人権ガバナンス、地球環境ガバナンス、安全保障におけるガバナンス、ガバナンスを支える規範や価値、視座などを取り上げる。その際、ガバナンスが形成されてきた分野、ガバナンスに参加する行為主体(アクター)、ガバナンスのしくみと実践の手段に注目する。そして、グローバル・ガバナンスの有効性と限界、課題について考える。

【到達目標】

- ・理論と実践の両方において、「グローバル・ガバナンス」に関する基本的な知識を身に付ける。
- ・「グローバル・ガバナンス」の有効性、限界、課題について自分なりの考えをもつ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は講義を中心に進める。毎回の授業後に課題の提出を求める。毎回授業の初めに、前回の授業後に提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。授業に出席する前にHoppiiにアップされたスライドに目を通し、授業後には復習をすること。また、関心を持ったトピックについては、各自で調べ学習をして理解を深めること。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、グローバルゼーションとグローバル・ガバナンス	授業の目的と進め方、グローバルゼーションとは?
2	ガバナンスの概念の登場と発展	ガバナンス概念の登場と発展
3	ガバナンス形成に有効な分析概念	国際規範、価値、視座とは?
4	ガバナンスの実践① 国際開発援助分野(1)	開発ガバナンスI
5	ガバナンスの実践② 国際開発援助分野(2)	開発ガバナンスII
6	ガバナンスの実践③ 人権分野(1)	人権ガバナンスI
7	ガバナンスの実践④ 人権分野(2)	人権ガバナンスII
8	ガバナンスの実践⑤ 地球環境分野(1)	環境ガバナンスI

9	ガバナンスの実践⑥ 地球環境分野(2)	環境ガバナンスII
10	ガバナンスの実践⑦ 保健衛生分野	グローバルヘルス/感染症ガバナンス
11	ガバナンスの実践⑧ 人の移動をめぐるガバナンス	人の移動をめぐるガバナンス
12	ガバナンスの実践⑨ 安全保障分野(1)	集団安全保障体制
13	ガバナンスの実践⑩ 安全保障分野(2)	軍縮ガバナンスI(大量破壊兵器)
14	ガバナンスの実践⑪ 安全保障分野(3)	軍縮ガバナンスII(通常兵器)/ガバナンスの有効性、限界、課題まとめ

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

日々のニュースをフォローするなど国際社会での出来事に関心を感じる。授業前には配布資料を読み、授業後には復習を行うこと。関連するセミナーなどへの参加も望ましい。授業の準備・復習を2時間程度行うことが望ましい。

【テキスト(教科書)】

特に指定しない。PPTおよび関連資料は毎回事前にHoppii上で配布する。

【参考書】

- ・山田哲也『国際機構論入門』(第2版) 東京大学出版会、2023年。
 - ・山田満ほか編著『新しい国際協力論-グローバル・イシューに立ち向かう』(第3版) 明石書店、2023年。
 - ・内田孟男編著『地球社会の変容とガバナンス』中央大学出版部、2010年。
 - ・山本吉宣『国際レジームとガバナンス』有斐閣、2008年。
 - ・村田晃嗣・君塚直孝ほか『国際政治学をつかむ 新版』有斐閣、2015年。
 - ・世界地図。
 - ・Rosenau, James N. and Ernst-Otto Czempiel, eds., *Governance Without Government: Order and Change in World Politics*, Cambridge University Press, 1992.
 - ・Stiglitz, Josef E. and Mary Kaldor eds., *The Quest for Security: Protection without Protectionism and Challenge of Global Governance*, Columbia University Press, 2013.
- その他、各回の関連文献・資料については、授業の際に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業後の課題提出と課題の内容40%と期末試験60%のウエイトで成績評価をする。
*遅刻は20分まで。それ以降の入室は欠席と見なす。
*4回以上課題の提出を怠った学生は期末試験を受ける資格を失う。よって単位の授与はないので気を付けること。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

レジメと配布資料、パワーポイントや資料映像を使用する。

【その他の重要事項】

日々国際社会で起きる出来事に関心を持ち、関連文献を積極的に読むこと。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
国際関係論、国際機構論、安全保障研究、国連研究
<研究テーマ>
国際社会による「平和」のための協働と確執、アジア太平洋地域の伝統的・非伝統的安全保障
<主要研究業績>

主な著書として、『新しい国際協力論—グローバル・イシューに立ち向かう』（第3版）（明石書店、2023年）；『新しい国際協力論—グローバル・イシューに立ち向かう』（第3版）（明石書店、2023年）；『「非伝統的安全保障」によるアジアの平和構築：共通の危機・脅威に向けた国際協力は可能か』（明石書店、2021年）、「国連による『スマート・サンクション』と金融制裁：効果の追求と副次的影響の回避を模索して』『国連の金融制裁：法と実務』（東信堂、2018年）、「平和構築の新たな潮流と『人間の安全保障』：ジェンダー視座の導入に注目して』『東南アジアの紛争予防と『人間の安全保障』』（明石書店、2016年）、「国連による経済制裁と人道上の諸問題：『スマート・サンクション』の模索』（国際書院、2013年）、「北東アジアの『永い平和』：なぜ戦争は回避されたか』（勁草書房、2012年）、「『グローバル・イシュー』としての人権とアジア：新たな国際規範をめぐる国際社会の確執に注目して』『グローバリゼーションとアジア地域統合』（勁草書房、2012年）、「Japan: COVID-19 and the Vulnerable, COVID-19 and Atrocity Prevention in East Asia(Routledge, 2023);“Smart Sanctions’ by United Nations and Financial Sanctions,” United Nations Financial Sanctions (Routledge, 2020);“Coordination challenges for the UN-initiated peace-building architecture Problems in locating ‘universal’ norms and values on the local,” Complex Emergencies and Humanitarian Response (Union Press, 2018), “The Role of UN Sanctions against DPRK in the Search of Peace and Security in East Asia: Focusing on the Implementation of UN Resolution 1874,” East Asia and the United Nations: Regional Cooperation for Global Issues (Japan Association for United Nations Studies, 2010) などがある。執筆した主な教科書として、『国際機構論 活動編』（国際書院、2020年）、「国際機構論 総合編』（国際書院、2015年）、「国際学のすすめ』（東海大学出版会、2013年）などがある。

【Outline (in English)】

The international community faces diversified transnational issues such as poverty, refugees, human rights abuse, organized crimes, financial crisis and so on. Who can control such global issues? These issues cannot be understood within the nation-centered narratives anymore. This course provides students with opportunities to become acquainted with “global issues” and learn that diversified international actors have made efforts to tackle with these issues. Students are expected to know that states, businesses, NGOs and other entities can make contributions to the settlement of these issues in cooperation with each other, and with regional and international institutions. These efforts and social movements by the diversified actors are called “global governance.” Students will understand how the international community tries to formulate, maintain, and manage “global governance” today. Students are expected to know realities of global governance and challenges in the international society.

POL100AD (政治学 / Politics 100)

国際協力論 I

志賀 裕朗

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈ダ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ウクライナ戦争は世界のあり方を大きく変えつつある。国際社会が団結して環境問題や貧困問題、感染症対策等の地球規模課題に取り組む必要性は明白だが、大国の対立や各国の思惑の違いなどのために国際社会は一致団結できておらず、世界の将来はますます不確定となっている。

こうした不安定な世情のなか、「問題の本質がどこにあるのか」を的確に見定めたくて、健全な猜疑心をもって「定説」を疑い、自らの頭で考え、他人を説得できる自分なりの見解を持つことが、現代社会を生きる上で不可欠のリテラシー (基礎的素養) となっている。

本講義ではまず、途上国問題や開発援助のあり方について建設的な議論と創造的な発想をするうえで不可欠の前提となる基礎知識を習得することを目指す。次いで、「自分なりの考え」を持ち、それを友人や講師と議論することの重要性、難しさと楽しさを体感することを目指す。講師は、政府開発援助 (ODA) の実務家であり研究者でもあるので、援助の現場における生の経験と、研究分野における最新の議論とのバランスのとれた講義を行いたい。

【到達目標】

まず、途上国問題および開発援助についての基礎知識を習得することを目指す。途上国問題を理解するとは、開発途上国において、何が、なぜ問題になっているのか、その原因は何か (何と考えられているか) を理解することである。また開発援助を理解するとは、途上国問題に対してどのようなアクターが、どのような問題意識と動機にもとづいて、どのような方法で対処しようとしているのか、その試みは上手くいっているのか、成功していないとすればそれは何故かを理解することである。本講義では、こうした論点を、大きな国際政治経済史の流れの中に位置づけて理解することを目指す。

次いで、こうした知識を活用しつつ、様々な論点に関する多様な意見のなかから、自分なりの意見を形成して説得的に提示できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

インターアクティブな授業とする。講師はしつこく「なぜ?」という問いを投げかけ、議論を奨励するので、受講生は積極的に議論に参加してほしい。自分らしい“Something New”を創造して世界に訴えたい、主体性と自律性をもって自分の夢を追いかけたい! と願う学生の積極的な受講を期待している。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の目的と概要、成績評価方法、学生の心構え等の説明を行う。
2	コロナ危機と途上国	新型コロナウイルスのパンデミックは途上国に急速に広がっている。国民の命と生活を守るうえで、途上国政府はどんな課題やジレンマに直面しているかを検討する。

3	コロナ危機と開発援助	国際社会は、パンデミックと戦う途上国を、どのように支援できるだろうか。先進国経済も悪化し、米中の対立が激化するなか、「ポストコロナの世界」における開発援助の将来を考える。
4	途上国が (コロナ危機以前から) 直面してきた課題	途上国が (コロナ危機前から) 直面してきた様々な課題を、SDGS (持続可能な開発目標) を参考にしながら広く検討する。開発援助にはどのようなアクター (援助機関、途上国政府、企業、NGO等) が携わっているのか、援助政策はどのようにして決定されているのか、等を検討する。
5	開発援助の仕組み	開発援助にはどのようなアクター (援助機関、途上国政府、企業、NGO等) が携わっているのか、援助政策はどのようにして決定されているのか、等を検討する。
6	開発思想の歴史①	貧しい国はなぜ貧しく、豊かな国はなぜ豊かなのか、貧しい国を豊かにするには何が必要なのか。こうした問いにどう答えるかは、途上国の開発戦略・援助機関の援助戦略を立案する上で重要である。こうした開発思想の歴史的展開を振り返る。
7	開発思想の歴史②	開発思想については、アメリカや欧州諸国と日本のあいだで大きな相違がある。それは如何なるものか、そうした違いがなぜ存在するのかを考える。
8	中間振り返り	これまで学習・議論したことを振り返り、ディスカッションを行う。
9	日本の政府開発援助 (ODA) ①	欧米諸国、世界銀行のような国際機関、または中国の援助と比較して、日本のODAにはどのような特徴があるのか、その長所と欠点を検討する。
10	日本の政府開発援助 (ODA) ②	日本のODAの代表的な事例 (借款によるインフラ整備支援や、法整備を目指した技術援助) を取り上げ、その特徴を、他国による援助と比較しながら検討する。
11	途上国問題と開発援助の新潮流①	近年の国際政治経済情勢の変動のなかで、途上国問題や開発援助のあり方がどのように変化しつつあるかを検討する。
12	途上国問題と開発援助の新潮流②	近年の日本を取り巻く国際政治経済情勢の変化や途上国問題の変動を受けて、日本はどのような援助政策を打ち出そうとしているのかを検討する。
13	ロールプレイング・ゲーム	途上国問題あるいは開発援助に関する具体的なテーマを取り上げ、それに関連するアクター (二国間援助機関、国際機関、途上国政府、NGO等) の役割を各自で分担して実際に戦略立案や交渉を体験するゲームを行う。
14	振り返りと総括	改めて、コロナ危機が我々に突きつけたものを振り返る。それは、途上国だけの問題だろうか? 日本を含む先進国にもその問題は存在しないだろうか?

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は、講師からの指示に基づき、参考文献等を使用しながら特定のテーマについてのレポートを作成・提出するほか、グループディスカッションの準備等を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

西垣昭、下村恭民、辻一人、2009年、『開発援助の経済学:「共生の世界」と日本のODA』、有斐閣。

木村宏恒、近藤久洋、金丸裕志編、2013年、『開発政治学の展開:途上国開発戦略におけるガバナンス』、勁草書房。

木村宏恒編、2018年、『開発政治学を学ぶための61冊:開発途上国のガバナンス理解のために』、明石書店。

【成績評価の方法と基準】

授業中に提出を求める課題（40%）と最終試験（60%）で成績を評定する予定であるが、履修学生数によって変更がありうる。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間の延長が無いように心がける。また、前回よりも講義（講師からの説明）の比重を減らし、学生自身が参加し議論する時間の割合を高めるつもりである。なお、授業の内容・方法等に関する要望・提案・批判は大歓迎であるので、随時受け付けます。

【学生が準備すべき機器他】

各自PC持参が望ましい。

【その他の重要事項】

■本講義は、国際協力機構、国際協力銀行、財務省等で開発援助の実務に携わってきた講師が、援助の実務と理論の双方を踏まえた講義を行う。

■本講義の履修に先立って履修しておくべき科目は無い。途上国問題、開発援助、国際政治経済に関する前提知識も一切必要としない。

■「国際開発論Ⅱ」を併せて受講することを推奨する。

■本講義は決して「ラクタン」（楽に単位が取れる科目）では無いので、その点を十分に理解して臨むよう希望する。

■提出物において剽窃が認められた場合には、理由の如何を問わずに不合格判定とするので十分に注意すること。受講生は「剽窃」の意味を事前に確認しておくこと。

【Outline (in English)】

How should we eradicate poverty and inequality? How should we achieve peace and justice? How should we guarantee prosperity, health, education, and decent work for all? Japan has been tackling these challenges for over sixty years, by providing aid (Official Development Assistance: ODA) to developing countries with distinctive aid philosophy and unique instruments.

This course firstly introduces a basic knowledge about development issues and Japan's ODA policy. Then students are encouraged to think critically about the conventional wisdom on global agendas. The course will be interactive, with the combination of lecture, group discussion, and role-playing game. No prior knowledge is required.

POL100AD (政治学 / Politics 100)

国際協力論Ⅱ

志賀 裕朗

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈ダ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

世界の政治経済を巡る秩序が大きな転換点を迎え、世界の先行きはますます不透明になっている。こうしたなか、「問題の本質がどこにあるのか」を的確に見定めたいと、健全な猜疑心をもって「定説」を疑い、自らの頭で考え、他人を説得できる自分なりの見解を持つことが、現代国際社会を生きる上で不可欠のリテラシー（基礎的素養）となっている。

本講義では、途上国や開発援助に関する様々な問題を、ひとつひとつ時間をかけて深く掘り下げて検討することを通じて、正解の無い難問について「自分なりの考え」を持ち、それを友人や講師と議論することの重要性、難しさと楽しさを体感することを目指す。講師は、政府開発援助 (ODA) の実務家であり研究者でもあるので、援助の現場における生の経験と、研究分野における最新の議論とのバランスのとれた講義を行いたい。

【到達目標】

本講義では、ひとつのテーマについて徹底的に議論することを通じて、「国際協力論Ⅰ」で学んだ幅広い知識を深めることを目指す。同時に、様々な論点に関する多様な意見のなかから、自分なりの意見を形成して説得的に提示するためのスキルを獲得することも目指す。

なお、国際情勢の変動や受講生の希望により議論するテーマを変更する可能性が高い (そのため、シラバスに提示したテーマはあくまでも暫定的なものである)。議論したいテーマ、疑問に思うテーマの提案を大いに歓迎する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義では、各テーマについて講師が導入の説明を行ったのち、受講生からの発表およびディスカッションを行う。重点は後者にあり、その意味で本講義は「講義」よりも「ゼミ」に近い形態となる。講師はしつこく「なぜ？」という問いを投げかけ、議論を奨励するので、受講生は事前に十分な準備を行ったうえで積極的に議論に参加することが求められる。自分らしい“Something New”を創造して皆に訴えたい、主体性と自律性をもって自分の夢を追いかけたい！と願う学生の受講を期待している。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の目的と概要の説明を行う。
2	途上国が直面する多様な課題①	サブサハラ・アフリカには、世界の HIV-AIDS 患者の 7 割が集中すると言われ、特に南アフリカ共和国では 30 代前半の女性の罹患率が 36% という深刻さである。なぜこうした事態が起きているのか、これに効果的に対処するにはどうすればよいかを議論する。

3	途上国が直面する多様な課題②	「戦後最悪の人道危機」と言われ、国民の実に半数が難民となっているシリア紛争と難民問題に国際社会はどう対処すべきかを、近年欧米を中心とする先進国で台頭する排外主義的な動きと関連づけながら議論する。
4	途上国が直面する多様な課題③	「なぜ異なる民族は殺し合うのか、殺し合った民族を共存・和解させるにはどうすればよいのか」を、1990 年代に発生したボスニア・ヘルツェゴヴィナ紛争とその後の同国の状況、日本の援助 (平和構築支援) の実例を題材に議論する。
5	途上国が直面する多様な課題④	1970 年代の東京の深刻な交通渋滞を見たタイの政府関係者は「バンコクは東京のようにはならない」と言ったが、バンコクは世界有数の交通渋滞都市になってしまった。これを見たベトナムの政府関係者は「ハノイはバンコクのようにはならない」と言ったが、ハノイもまた深刻な交通渋滞に悩まされている。他の国の教訓から学ぶことはなぜ難しいのだろうか？ アジアの都市交通問題を例に、考えてみたい。
6	開発思想と援助手法①	「東・東南アジア諸国の多くが高度経済成長を達成したのに対して、アフリカ諸国の多くはなぜ長期にわたる経済停滞を経験し、今なお貧しいままなのか？」という問いを検討する。
7	開発思想と援助手法②	「汚職腐敗がひどい権威主義体制国に対しては援助すべきではない」という主張の是非を検討する。
8	近年の国際政治経済情勢の激変と国際援助秩序①	これまで国際開発援助を主導してきた欧米先進国において、異なる文化や価値観に対する軽蔑や不寛容が台頭しているほか、客観的な事実が重視されない「ポスト真実 (post-truth) の時代」が来たと言われる。こうした動きは、今後の開発援助や途上国問題の解決にどう影響するのかを議論する。
9	近年の国際政治経済情勢の激変と国際援助秩序②	2015 年に採択された SDGs (持続可能な開発目標) を読み、2000 年に策定された MDGs (ミレニアム開発目標) と比較しながら、その特徴と問題点を議論する。
10	近年の国際政治経済情勢の激変と国際援助秩序③	「2000 年代以降、中国は援助を急増させ、人権侵害を行っている独裁国家を支援したり環境を破壊したりしているほか、アジアインフラ投資銀行 (AIIB) 等の援助機関を設置して開発援助に関する既存の国際秩序を混乱させている」という見解について議論する。

- | | | |
|----|----------------------|--|
| 11 | 日本の政府開発援助 (ODA) の特徴① | 第二次大戦における敗北から10年も経っていない1954年、日本はアメリカや世界銀行から多額の援助を受けながら、途上国に対する援助を開始した。それは何故だったか、そうした経験が日本のその後の援助のあり方にもどのように影響したかを検討する。 |
| 12 | 日本の政府開発援助 (ODA) の特徴② | 日本のODAは借款を多用するという特徴を持っている。このことは、「援助は豊かな国が貧しい国に対して行う慈善なのだから無償であるべきだ」と考える欧州諸国からの強い批判にさらされてきた。「金利を取ってカネを貸す」援助方式の是非を議論する。 |
| 13 | 日本の政府開発援助 (ODA) の特徴③ | 2015年に日本政府が発表した「開発協力大綱」を読み、日本がODAを通じてどのように国際貢献をしようとしているか、過去の「ODA大綱 (1992年制定、2003年改訂)」と比較しながら読み解く。 |
| 14 | 授業内容の振り返りと総括 | これまで学習した内容を振り返り、これから学習すべきことを展望する。 |

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

受講生は、講義で取り上げる問題について事前に調べ、自分の意見とその根拠を簡潔に記載したペーパー (A4サイズで2枚以内) を作成して講義に臨むこと。事前の調査に際しては、英語のソースにアクセスすることを推奨する。なお、講義のトピックは学生の興味も勘案して決定する (シラバス通りとは限らない)。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に使用しない。

【参考書】

近藤康太郎、2020年、『三行で撃つー＜善く、生きる＞ための文章塾』、CCCメディアハウス。

小坂井敏晶、2017年、『答えのない世界を生きる』、祥伝社。

【成績評価の方法と基準】

授業で提出を求める課題 (60%) およびディスカッションへの積極的参加の度合い (40%) によって成績を評定する予定 (最終試験は行わない) であるが、履修学生の数によって変更がありうる。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間の延長が無いように心がける。なお、授業の内容・方法等に関する要望・提案・批判は大歓迎であるので、随時受け付けます。

【学生が準備すべき機器他】

各自PC持参が望ましい。

【その他の重要事項】

■本講義は、国際協力機構、国際協力銀行、財務省等で開発援助の実務に携わってきた講師が、援助の実務と理論の双方を踏まえた講義を行う。

■途上国問題や開発援助に関する前提知識があることが望ましい。本講義の履修に先立って履修しておくべき科目は無いが、「国際協力論 I」を併せて受講することを推奨する。

■本講義は決して「ラクタン」(楽に単位が取れる科目) ではない。特に、全く発言しないような消極的姿勢の場合には単位を与えないので、その点を十分に理解したうえで履修に臨むよう希望する。

■提出物において剽窃が認められた場合には、理由の如何を問わず不合格判定とするので十分に注意すること。受講生は「剽窃」の意味を事前に確認しておくこと。

【Outline (in English)】

How should we eradicate poverty and inequality? How should we achieve peace and justice? How should we guarantee prosperity, health, education, and decent work for all? Students are encouraged to think critically about the conventional wisdom on the global agendas mentioned above. The course will be interactive, with the combination of lecture, group discussion, and role-playing game. No prior knowledge is required.

ARS200BD

比較文化論（1）

波戸岡 景太

授業コード：A2981 | 曜日・時限：水1/Wed.1

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界中からの多種多様な移民によって形成された移民国家アメリカの文化は、異文化交流の歴史と課題の縮図である。本科目では、アメリカ合衆国の暮らしのなかでも、特に「食」に注目し、日本の食文化と比較しながら学ぶ。教員による講義と学生間の交流を通して、文化の多様性を学ぶとともに、広いコンテクストから現在の社会を問い直す視座を探る。

【到達目標】

- 1) 英語圏の国々の代表的な伝統文化について比較しながら説明できる。
- 2) アメリカ合衆国の文化が、他国からの移民の多様な異文化を吸収・改変・保持しながら発展してきた過程を具体的に説明できる。
- 3) 英語圏の国々の現代文化が、伝統文化をどのように生かしつつも変容させているかを具体的な事例を通して説明できる。
- 4) 多様な文化的背景を持った人々との交流を通して、文化の多様性および異文化交流の意義について体験的な理解を得る。
- 5) 以上の知識と体験に基づいて、文化の多様性および異文化コミュニケーションの現状と課題を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

アメリカ合衆国との比較を念頭に置きながら、「食」を中心とした様々な文化的現象を学ぶ。また、授業全体を通して、近現代日本の話題も随時取り上げる。授業では、英語圏の国々の最新の動向を伝える文化や社会に関するニュース記事や映像・音声資料を題材に、留学生を含めた多様な背景、異なる価値観を持つ学生同士で議論・交流を行うことで、学生参加型の体験的な理解を促進する。実施されたプレゼンテーションについては、授業参加者全体でフィードバックを行い、最後に担当教員から総評を伝える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーションおよび授業の導入	履修者の自己紹介、日米の食文化史を学ぶ上での見取り図を提示する
第2回	ワークショップ①「身近な食文化の発見」	比較文化を学ぶ前提として、自分たちのこれまでの食生活と食文化を振り返る
第3回	留学生を迎えてのディスカッション①	第2回の授業内容を英語のプレゼンテーション資料にまとめ、発表後にディスカッションを行う
第4回	アメリカの「食」における非西洋の伝統	アメリカの国民食ができるまでの歴史を概観する（第1章前半）
第5回	「食」の土着化と独立革命の影響	アメリカ食文化における地域的多様性を学ぶ（第1章後半）
第6回	産業社会への移行と食の変革	移民の流入とファストフードの文化を考察する（第2章）
第7回	ワークショップ②「食文化のローカルとインターナショナルを考える」	アメリカ食文化の歴史を参考にして、日本における食文化の地方色と国際性を視覚化する
第8回	留学生を迎えてのディスカッション②	第7回の授業内容を英語のプレゼンテーション資料にまとめ、発表後にディスカッションを行う
第9回	有機農業と自然食品	カウンターカルチャーが食文化にもたらした影響を考察する（教科書第3章前半）
第10回	食文化革命の到達点	エスニックフード、スローフード、ビーガン料理など「食」の現在を概観する（教科書第3章後半）
第11回	アメリカにおける「食」の生産・流通・消費	食文化をビジネスの側面から考察する（教科書第4章）
第12回	ワークショップ③「未来の食文化を考える」	日米食文化の比較から、未来のレストランメニューを考察する
第13回	留学生を迎えてのディスカッション③	第12回の授業内容を英語のプレゼンテーション資料にまとめ、発表後にディスカッションを行う
第14回	まとめと期末試験	「食」をめぐる日米の意識の違いを考察する（教科書終章）／授業内で期末試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業で紹介した参考文献を読み、動画や映画を積極的に視聴する。（2時間）

・自分の日常生活の中から「異文化理解」に関係する事象を探し出し、授業と関連づけて考えたり、友人や家族と話し合ったりする。（1時間）

・プレゼンテーションおよび期末試験の準備を計画的に進める。（1時間）

【テキスト（教科書）】

鈴木透『食の実験場アメリカ：ファーストフード帝国のゆくえ』（中央公論社、2019年、968円）

【参考書】

ジョナサン・サフラン・フォア『イーティング・アニマル：アメリカ工場式畜産の難題』（黒川由美訳、東洋書林、2011年）

【成績評価の方法と基準】

授業内ワークショップ・プレゼンテーション：50%
授業内期末試験：50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

定員を30名とし、それを超える場合は選抜をおこなう（文学部生の教職科目履修者を優先とする）。

履修希望者は必ず初回授業に出席してください。

【Outline (in English)】

This course examines everyday forms of culture that exist in people's lives. Focusing primarily on American food culture, students will learn cultural diversity and ways of discussing cultural issues in a critical and comparative perspective.

Classes will consist of lectures, in-class tasks, and group discussions. In particular, students participate in many group discussions on various topics introduced in the lectures. Students will also give a group presentation toward the end of the semester.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students are expected to spend 2 hours respectively to understand the course content.

Grades will be determined based on the following:

- 1) Participation and in-class assignments (50%)
- 2) Final exam (50%)

CUA200BA (文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 200)

民俗学Ⅱ

室井 康成

授業コード：A3810 | 曜日・時限：木5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈ダ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日本列島(北海道から鹿児島まで)の各地には、近代以前の戦争で死亡した人々の亡骸を埋葬したとされる古跡(戦死塚)が、管見の限り約1600ヶ所存在する。場合によっては1000年以上前に行なわれた戦争の記憶が、現在なお伝承の中に生き続けている。これらの戦死塚は、しばしば怪異譚と結びつけられ、好奇の対象ともなっているが、付帯する伝承を微細にみてゆくと、日本文化の特質が浮かび上がってくる。本講義では、これらの塚の伝承を手掛かりとして、日本人の死生観のかたちを探索する。

【到達目標】

過去に起きた戦争の死者をめぐる扱いは、時に国際問題へと発展することもある。そうした場合、直近の戦争の事例(日本の場合はアジア・太平洋戦争)がクローズアップされるが、事の本質を理解するためには、戦死者の処遇をめぐる通史的な理解が必要となってくる。本講義で扱う戦死塚は、極めて日本的な性格を有する事例であり、これらにまつわる知識を身に着けることで、日本文化のより正確な把握を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

指定教科書を講読する形式で進めます。講義内で受講生に対し発問することはありますが、リアクションペーパーなどは求めません。また、質問等へのフィードバックは、講義終了後に教室内で受け付けます。また、講義内で講師へのアクセス方法を通知しますので、講義時間外でも質問等は受け付けます。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義計画と成績評価の方法を説明します。履修予定者は必ず参加のこと。
第2回	民俗学の基礎知識	「民俗」とは何かを理解し、本講義のテーマの基礎的事項を説明します。
第3回	壬申の乱をめぐる戦死塚	古代の戦乱「壬申の乱」にまつわる戦死塚の伝承を講じます。
第4回	平将門の反乱の歴史的意義	平将門の乱の概要と、後世に与えたインパクトについて講じます。
第5回	「空飛ぶ首」の伝承	平将門の首塚にまつわる伝承の生成過程について検討します。
第6回	一ノ谷の戦いにまつわる戦死塚(1)	源平合戦のうち最大級の合戦「一ノ谷の戦い」にまつわる戦死塚を確認します。
第7回	一ノ谷の戦いにまつわる戦死塚(2)	一ノ谷の戦いで戦死した武将たちの戦死塚伝承の特徴を検討します。
第8回	楠木正成・新田義貞の戦死塚(1)	南北朝時代の南朝側のキーパーソンである楠木正成・新田義貞にまつわる戦死塚を確認します。
第9回	楠木正成・新田義貞の戦死塚(2)	楠木正成・新田義貞の戦死塚伝承の特徴を検討します。
第10回	関ヶ原の戦いの戦死塚(1)	前近代で最大級の戦争「関ヶ原の戦い」の推移を推し、関連する戦死塚を確認します。
第11回	関ヶ原の戦いの戦死塚(2)	関ヶ原の戦いで戦死・処刑された武将の戦死塚伝承の特徴を検討します。
第12回	幕末・維新期の戦死塚	戦死塚伝承の趣きが転換した戊辰戦争(とくに鳥羽伏見の戦い)の事例を検討します。
第13回	彼我の分明－戦死塚をめぐる伝承の「近代」	戦死者に対する感情の近代的位相はどのように成立したのかを検討します。
第14回	試験と総括	本講義を総括し、受講生諸氏の理解度を机上試験で測ります。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本講義で使用するテキストの巻末に、日本全国の当該事例および参考文献が記されているので、気になったものがあれば、自身で積極的に調べてください。また授業時間外の学習は、テキストの通読(2時間程度)および主体的な文献調査となります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

『日本の戦死塚－増補版首塚・胴塚・千人塚』、室井康成著、角川ソフィア文庫、2022年、1,540円(税別)

【参考書】

テキストの巻末に掲載された「参考文献一覧」を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】

・最終授業時に実施する試験の回答内容のみで成績を判定します(試験100%)。ただし、終講の3～4回前の授業時に、どのような内容が出題されるのかをお知らせします。
・試験は実質的には机上レポートとなります。そのため講義内容の理解度が成績判定の基準になります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

特にありませんが、日本史全体への興味がないと、講義中は退屈な時間を過ごすことになります。ただし、上記の興味・知識がなくても、これを機会に本講義のテーマについて学んでみたいと考える履修生に対しては、丁寧に指導します。

【Outline (in English)】

・ Course outline

in japan, there are about 1,600 tombs of people who died in pre-modern wars. In this lecture, we will examine the characteristics of Japanese culture through the tradition of these tombs.

・ Learning Objectives

Accurate understanding about Japanese folklore and view of life and death.

・ Learning activities outside of classroom

Review resumes and read references.

・ Grading Criteria /Policy

Written exam (100%) on the last day of the lecture

HIS200BA (史学/History 200)

イスラム世界論 I

松本 隆志

授業コード：A3811 | 曜日・時限：金2/Fri.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈他〉〈ダ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現在、世界のムスリムの人口は、アジアやアフリカだけではなく、ヨーロッパにおいても増え続け、国際社会におけるそのプレゼンスは、日に日に高まりを見せている。その一方で、イスラム原理主義者やアメリカを中心とする西欧諸国から発信された、ムスリムに対する偏った理解や偏見が広まっているのも事実である。この授業では、既存の偏見に惑わされず、受講生一人一人が、イスラム世界の多様な在り方を理解できるように、イスラムという宗教に関する基礎的知識の習得を目指す。

【到達目標】

この授業は、イスラムという宗教に関する基礎的な知識を提供し、それらの知識に基づきイスラムという宗教、そしてムスリム（イスラム教徒）の多様性を理解することを目的とする。学生には、広い偏りのない視野で、現代の複雑なイスラム世界に関する諸問題を自分の頭で主体的に考えたための基礎的な知見を獲得してもらう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業では、現代のイスラム世界を理解する上で欠かせない、イスラム世界の歴史を扱う。授業の前半部では、教義を中心としたイスラムの基礎的知識について、後半部では、そのイスラムが各地域でどのように信徒を獲得し、受容されていったのかについて解説していく。この授業は、講師による講義と、講義内容を踏まえた学生の課題の作成・提出から成る。毎回の課題については講義内で設問が出されるので、学生はその設問に対して論述を作成してもらう。課題の作成には講義後半の20~30分程度を予定している。講義内容をきちんと理解しているか、講義内容を踏まえて自身の見解を論理的に提示できているか、といった点を評価する。そして次の回の講義において、前回提出の課題についてフィードバックすることを予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	「イスラム世界」とは何か？
第2回	聖典『クルアーン』の世界	イスラムにおける『クルアーン』とアラビア語の重要性について
第3回	イスラムの教義	六信五行などイスラムの基本的な教義について
第4回	イスラムの世界観	ユダヤ教、キリスト教、イスラムに共通する一神教的世界観・宗教観
第5回	イスラムの伝播	ムハンマド、正統カリフ時代におけるイスラム共同体の拡大
第6回	イスラム共同体の分裂	世襲王朝ウマイヤ朝成立の意義とイスラム共同体の変質
第7回	イスラム法の体系化	アッバース朝時代に確立した行政機構・法体系
第8回	イスラム神秘主義と聖者	イスラムの伝播に果たした神秘主義教団の役割
第9回	西方のイスラム王朝	北アフリカ・イベリア半島におけるイスラム
第10回	イスラムとキリスト教世界	交易や十字軍を通しての接触
第11回	モンゴルとイスラム	アッバース朝の滅亡とその影響
第12回	20世紀のイスラム①	第1次世界大戦後の国際社会とイスラム
第13回	20世紀のイスラム②	第2次世界大戦後の国際社会とイスラム
第14回	総括	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業では、西アジアだけではなく、ヨーロッパから東アジア・東南アジアにかけての広い地域の歴史を対象とするため、聞きなれないカタカナの固有名詞が色々出てくる。次回授業に関するキーワードを示すので、それについて調べて理解を深めることが予習となる。また、毎回のペーパーについて振り返り再検討を試みるのが復習となる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

菊地達也編著『図説イスラム教の歴史』河出書房新社、2017
佐藤次高『イスラム世界の興隆』中公文庫、2008
佐藤次高・鈴木董編『都市の文明イスラム』講談社現代新書、1993
鈴木董編『バクス・イスラミカの世紀』講談社現代新書、1993
その他、授業中に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポート（60%）と毎回の授業終了後に提出する課題（40%）で評価する。授業で学習した知識を材料に、論理的に私見を述べられているか、という点を基準に評価する。レポート作成要領を5月中に配布するので、そちらに基づいて計画的にレポート作成に取り組むこと。毎回提出される課題に素点を付し、学期終了時に課題合計点を成績評価の40%に換算する。

【学生の意見等からの気づき】

もっと図像等でイメージを示してほしいとの声がありました。特に地図については必要性が高いと考えられるので、できるだけ授業内で示していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の授業資料は学習支援システムから配布し、授業は配布資料をモニターに映しておこなう予定です。手元で授業資料を見ながら受講したい場合は、各自PCやスマホ等を用意してください。もちろん、授業中にメモを取るためのノート類も必要となります。

【その他の重要事項】

上記の内容は状況の変化によって変更される可能性があるが、その場合は速やかに学習支援システムを通じて全員あてに告知する。受講予定者は正式な履修登録と合わせて、学習支援システムへの「仮登録」を必ず済ませておくこと。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, we aim to acquire basic knowledge about the religion of Islam so that each student can understand the various ways of the Islamic world without being confused by existing prejudices.

【Learning Objectives】

Students are expected to acquire a basic knowledge of the religion of Islam and, based on that knowledge, to understand the religion of Islam and the diversity of Muslims. By the end of course, students are expected to acquire the basic knowledge necessary to think independently about the complex issues related to the Islamic world today from a broad and unbiased perspective.

【Learning activities outside of classroom】

The key words related to the next class will be presented in class, so researching and deepening your understanding of them will serve as preparation. Reviewing and re-examining each paper will also serve as a review. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Written exam at the end of the semester (60%), paper to be submitted in each class (40%)

Students are allowed to look at the materials in the exam.

The evaluation will be based on whether the students are able to express their personal opinions logically using the knowledge learned in the class.

HIS200BA (史学/History 200)

イスラム世界論Ⅱ

松本 隆志

授業コード：A3812 | 曜日・時限：金2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の「イスラム世界論Ⅰ」では、イスラム世界の信仰と歴史を中心に解説するが、この授業では、現代のイスラム世界の諸側面に焦点を当てる。18世紀以降、イスラム世界では近代化（＝西洋化）の波にさらされる中で、近代社会とイスラムをいかに接続させるか試行錯誤してきた。その営みは21世紀の現在もなお進行中である。この授業では、メディア等で取り上げられるイスラムの諸トピックについて、その歴史背景も含めた理解を促し、一般的なイスラム認識を相対化する視座を提供することを旨とする。

【到達目標】

この授業は、イスラム世界の歴史や文化、そして宗教に関する基礎的知識を提供し、それらの知識に基づきイスラム、そしてムスリム（イスラム教徒）の多様性を理解することを目的とする。学生には、広い偏りのない視野で、現代の複雑なイスラム世界に関する諸問題を自分の頭で主体的に考える能力を獲得してもらうことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業では、現代のイスラム世界を理解する上で欠かせないイスラム世界の諸側面について、毎回テーマを定めて解説をおこなっていく。各テーマについて、特に歴史的背景を重視した解説をおこなう予定である。授業は、講師による講義と、講義内容を踏まえた課題の作成・提出から成る。毎回の課題については講義内で設問が出されるので、学生はその設問に対して論述を作成してもらう。課題の作成には講義後半の20～30分程度を予定している。そして次の回の講義において、前回提出の課題についてフィードバックすることを予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本授業のテーマ、および授業への取り組み方について
第2回	イスラムの基本概念	唯一神、預言者、クルアーンなど
第3回	イスラムの儀礼・行事	巡礼や祭、およびライフサイクルにおけるイスラム的な慣習
第4回	食をめぐる規定	ハラールとハラーム、そしてハラール認証ビジネス
第5回	イスラムとジェンダー	イスラムにおける女性の位置付けと西洋的ジェンダー観の関係
第6回	日本におけるイスラム	在日・滞日ムスリムコミュニティ
第7回	スンナ派とシーア派	イスラムの二大派閥の概要と歴史的背景
第8回	イスラム法学	イスラム法学の歴史的背景と現代での役割
第9回	スーフィズム	スーフィズム（イスラム神秘主義）の歴史的背景と現代での役割
第10回	イスラムと奴隷	前近代イスラム社会における「奴隷」のあり方
第11回	イスラムの経済倫理	「リバー」の概念を中心としたイスラム特有の経済倫理
第12回	イスラム原理主義	「原理主義」の歴史的背景と現状
第13回	現代の中東情勢	近現代史の文脈における「イスラム国」の経緯
第14回	総括	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業では、西アジアだけではなく、ヨーロッパから東アジア・東南アジアにかけての広い地域を対象とするため、聞きなれないカタカナの固有名詞が色々と出てくる。これらの固有名詞についての理解を深めるために、参考書・工具書（各テーマごとに紹介する）を参照しながら、各回の授業の予習・復習に努めてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回授業資料をHoppiiにて配布します。

【参考書】

小杉泰, 江川ひかり編, 『イスラム：社会生活・思想・歴史』, 新曜社, 2006年。
小杉泰ほか編, 『大学生・社会人のためのイスラム講座』, ナカニシヤ出版, 2018年。
菊地達也編著, 『図説イスラム教の歴史』, 河出書房新社, 2017年。
その他、授業中に各テーマに適した参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポート（60%）と毎回の授業終了後に提出する課題（40%）で評価する。レポート作成要領を10月中にHoppiiで配布予定。授業で学習した知識を材料に、論理的に私見を述べられているか、という点を基準に評価する。毎回提出の課題に素点を付し、学期終了時に合計点を成績評価の40%に換算する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度授業のアンケートにおいて、イスラムとその歴史について予備知識がないと理解の難しい場面があったとの声がありました。それを踏まえ、適宜補足的な説明・解説を加えるよう心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の授業資料は学習支援システムから配布し、授業は配布資料をモニターに映しておこなう予定です。手元で授業資料を見ながら受講したい場合は、各自PCやスマホ等を用意して、そちらで授業資料を閲覧してください。もちろん、授業中にメモを取るためのノート類も必要となります。

【その他の重要事項】

上記の内容は状況の変化によって変更される可能性があるが、その場合は速やかに学習支援システムを通じて全員あてに告知する。受講予定者は正式な履修登録と合わせ、学習支援システムへの「仮登録」を必ず済ませておくこと。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course will focus on aspects of the modern Islamic world. Since the 18th century, the Islamic world has been exposed to the wave of modernization (= westernization), and trials and errors have been carried out on how to connect modern society with Islam. This activity is still in progress in the 21st century. In this course, we aim to promote understanding of various Islamic topics taken up in the media, including their historical background, and to provide a perspective that relativizes general Islamic perceptions.

【Learning Objectives】

This course provides students with basic knowledge of the history, culture, and religion of the Islamic world. Based on this knowledge, students are expected to understand Islamic society and the diversity of Muslims. By the end of the course, students should acquire the ability to think independently about issues related to the complex Islamic world of today from a broad and unbiased perspective.

【Learning activities outside of classroom】

The key words related to the next class will be presented in class, so researching and deepening your understanding of them will serve as preparation. Reviewing and re-examining each paper will also serve as a review. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Termend examination: 60%, Short reports : 40%

民俗学Ⅱ

室井 康成

配当年次／単位：2～4年次／2単位

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本列島（北海道から鹿児島まで）の各地には、近代以前の戦争で死亡した人々の亡骸を埋葬したとされる古跡（戦死塚）が、管見の限り約1600ヶ所存在する。場合によっては1000年以上前に行なわれた戦争の記憶が、現在なお伝承の中に生き続けている。これらの戦死塚は、しばしば怪異譚と結びつけられ、好奇の対象ともなっているが、付帯する伝承を微細にみてゆくと、日本文化の特質が浮かび上がってくる。本講義では、これらの塚の伝承を手掛かりとして、日本人の死生観のかたちを探求する。

【到達目標】

過去に起きた戦争の死者をめぐる扱いは、時に国際問題へと発展することもある。そうした場合、直近の戦争の事例（日本の場合はアジア・太平洋戦争）がクローズアップされるが、事の本質を理解するためには、戦死者の処遇をめぐる通史的な理解が必要となってくる。本講義で扱う戦死塚は、極めて日本的な性格を有する事例であり、これらにまつわる知識を身に着けることで、日本文化のより正確な把握を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

指定教科書を講読する形式で進めます。講義内で受講生に対し発問することはありますが、リアクションペーパーなどは求めません。また、質問等へのフィードバックは、講義終了後に教室内で受け付けます。また、講義内で講師へのアクセス方法を通知しますので、講義時間外でも質問等は受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義計画と成績評価の方法を説明します。履修予定者は必ず参加のこと。
第2回	民俗学の基礎知識	「民俗」とは何かを理解し、本講義のテーマの基礎的事項を説明します。
第3回	壬申の乱をめぐる戦死塚	古代の戦乱「壬申の乱」にまつわる戦死塚の伝承を講じます。
第4回	平将門の反乱の歴史的意義	平将門の乱の概要と、後世に与えたインパクトについて講じます。
第5回	「空飛ぶ首」の伝承	平将門の首塚にまつわる伝承の生成過程について検討します。
第6回	一ノ谷の戦いにまつわる戦死塚（1）	源平合戦のうち最大級の合戦「一ノ谷の戦い」にまつわる戦死塚を確認します。
第7回	一ノ谷の戦いにまつわる戦死塚（2）	一ノ谷の戦いで戦死した武将たちの戦死塚伝承の特徴を検討します。
第8回	楠木正成・新田義貞の戦死塚（1）	南北朝時代の南朝側のキーパーソンである楠木正成・新田義貞にまつわる戦死塚を確認します。
第9回	楠木正成・新田義貞の戦死塚（2）	楠木正成・新田義貞の戦死塚伝承の特徴を検討します。
第10回	関ヶ原の戦いの戦死塚（1）	前近代で最大級の戦争「関ヶ原の戦い」の推移を押さえ、関連する戦死塚を確認します。
第11回	関ヶ原の戦いの戦死塚（2）	関ヶ原の戦いで戦死・処刑された武将の戦死塚伝承の特徴を検討します。
第12回	幕末・維新期の戦死塚	戦死塚伝承の趣きが転換した戊辰戦争（とくに鳥羽伏見の戦い）の事例を検討します。
第13回	彼我の分明－戦死塚をめぐる伝承の「近代」	戦死者に対する感情の近代的位相はどのように成立したのかを検討します。
第14回	試験と総括	本講義を総括し、受講生諸氏の理解度を机上試験で測ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義で使用するテキストの巻末に、日本全国の当該事例および参考文献が記されているので、気になったものがあれば、自身で積極的に調べてください。また授業時間外の学習は、テキストの通読（2時間程度）および主体的な文献調査となります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『日本の戦死塚－増補版首塚・胴塚・千人塚』、室井康成著、角川ソフィア文庫、2022年、1,540円（税別）

【参考書】

テキストの巻末に掲載された「参考文献一覧」を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】

・最終授業時に実施する試験の回答内容のみで成績を判定します（試験100%）。ただし、終講の3～4回前の授業時に、どのような内容が出題されるのかをお知らせします。
・試験は実質的には机上レポートとなります。そのため講義内容の理解度が成績判定の基準になります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

特にありませんが、日本史全体への興味がないと、講義中は退屈な時間を過ごすことになります。ただし、上記の興味・知識がなくても、これを機会に本講義のテーマについて学んでみたいと考える履修生に対しては、丁寧に指導します。

【Outline (in English)】

・ Course outline

in japan, there are about 1,600 tombs of people who died in pre-modern wars. In this lecture, we will examine the characteristics of Japanese culture through the tradition of these tombs.

・ Learning Objectives

Accurate understanding about Japanese folklore and view of life and death.

・ Learning activities outside of classroom

Review resumes and read references.

・ Grading Criteria /Policy

Written exam (100%) on the last day of the lecture

DES300ND (デザイン学 / Design science 300)

インクルーシブデザイン (2019~2022年度入学生)

安積 伸、三浦 秀彦

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈実〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、インクルーシブデザインの考え方と手法について実践演習を通して学びます。

世の中に流通する量産品は、健常者青年男女といった、最大ボリュームゾーンのユーザーをターゲットとすることが多く、それ以外は少数ユーザーあるいは極端なユーザーとして量産品のターゲットから排除される傾向があります。しかし、排除されるユーザーの中には、障がいを持つ人、高齢者、外国人、妊婦、乳幼児とその親なども含まれ、そういった人々の抱える生きづらさは、人生の上で誰の身にも起こりえる普遍的な問題といえるでしょう。

これまで極端なユーザーとして切り離されていた人々をリード・ユーザーとしてプロジェクトに招き、エスノグラフィカルな手法で生活で直面する不具合を観察し、考察、提案、試作、改良、の全プロセスに協力を得ながら、そのユーザーにとって最適な道具を開発します。

インクルーシブなデザイン・プロセスを実践的に経験し、デザインによって人々の生活をより快適にすることを目指します。

【到達目標】

本授業では、日常生活に何らかの支障を抱える人をパートナーに招き、インクルーシブなデザインプロセスを行いながら、その人に最適化された日常生活を支える機器を開発する。

また、開発プロセスをビデオ撮影し、プロジェクトの始動から完成までのドキュメント映像作品を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業は、3~4人のグループワークで行う。

各班、デザインを行う対象として具体的な人物を一名、プロジェクトのパートナー (リードユーザー) として招待し、そのパートナーの抱える日常的問題を観察・調査の中から精査し、問題解決を図るためのデザイン提案を試作、パートナーにフィードバックをもらいながら改良を重ね、最終的なプロダクトを制作する。

また一方で、この一連のプロセスをビデオに収め、調査-問題定義-解決方の考察-試作-フィードバック-改良-完成、という流れをもったビデオ作品として仕上げる。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	課題説明 チーム分け パートナー検討
2	パートナー調査報告発表 問題抽出	生活観察・インタビュー等 アイデア検討 チュートリアル
3	問題定義	初期アイデア発表 ビデオレポート アイデア・コンセプトスケッチ制作 チュートリアル
4	第一試作テスト結果発表 問題定義の強化 改良案検討	第一試作 テスト・ビデオレポート 発表 改良案検討 チュートリアル
5	第二試作テスト結果発表 改良案検討	第二試作 テスト・ビデオレポート 発表 最終試作検討・制作 チュートリアル
6	最終試作テスト結果発表 改良案検討	最終試作 テスト・フィードバック ビデオレポート 発表 最終発表のための映像検討 チュートリアル
7	最終作品発表	ビデオ上映とデモンストレーション

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

履修生には、時間外での積極的な制作を期待します。

授業時間外に調査・試作・検証等を行い、週週その様子を映像で発表してもらいます。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

「インクルーシブデザイン」という発想 ジュリア・カセム (著)、平井康之 (監修) ホートン・秋穂 (翻訳) フィルムアート社

【参考書】

授業内で適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

課題提出作品60点、制作プロセスの評価を20点、出席を20点とします。総合点が90点以上をSとし、

89~87点をA+、86~83点をA、82~80点をA-、79~77点をB+、76~73点をB、72~70点をB-、69~67点をC+、66~63点をC、62~60点をC-、60点未満をDとする。

最終作品が未提出な者は評価外とします。

【学生の意見等からの気づき】

進行・制作に関する要求があれば、随時考慮してゆきます。

【学生が準備すべき機器他】

履修学生は、パワーポイントやビデオ編集ソフトなど、事前に必要なソフトを各自のPCに入れ、習熟しておくこと。

また、ビデオ映像を撮りためておく大容量の外付HDDを準備する事が望ましい。

【その他の重要事項】

この授業は主に対面形式で行う。

プロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務に必要な知識・経験・考え方にに関する指導を行う。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, students will learn about the concepts and methods of inclusive design through practical exercises, and aim to make people's lives more comfortable through design.

【Learning Objectives】

In this class, we invite people who have some type of difficulty in their daily lives as partners, and through the inclusive design process, we develop devices that support daily life that are optimized for that person.

In addition, we will create a documentary video of the development process of the work.

【Learning activities outside of classroom】

We expect students to actively create work outside of working hours.

We will conduct research, prototype production, verification, etc. outside of class hours, and have you present your findings on video the following week.

The standard time for preparation and review for this class is two hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on the final work (60%), process of development (20%), and attendance (20%).

The students who have not submitted their final work will not be evaluated.

ART200GA (芸術学 / Art studies 200)

社会と美術

稲垣 立男

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：受講希望者が1000人を超えた場合、抽選を行います。抽選方法については学習支援システムを通じて連絡しますので、よく確認をしておいてください。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際文化学部基幹科目「社会と美術」は、普段接する機会の少ない、先進的な表現領域に対する理解を深めるための入門的な授業です。この講義では、特に21世紀以降に関心を集めている社会と芸術との関係に焦点を当て、パフォーミング・アーツ、音楽、建築などの表象の世界の様々な事例を参照し、社会と芸術の接点や関係性について探求します。

本授業は、「近現代美術の歴史と理論」と「現代社会の課題と美術」という2つのテーマで構成されており、各領域のキーワードからそれぞれの課題や問題を検討、議論します。

第一部 「近現代の芸術史と理論」では、18世紀以降から21世紀までの美術史と理論を包括的に学び、芸術表現の変遷とその背後にある思想や理論を探求します。

第二部 「現代社会の課題と美術」では、社会や時代を映す鏡としての芸術表現と現代社会との関係について具体例を交えながら学びます。21世紀以降に注目されている社会と芸術との関係を扱ったアートの世界に焦点を当てていきます。

【到達目標】

近現代の美術史と現代社会と美術に関する課題の事例を紹介していきます。近現代美術史の基本を理解すること、各時代の社会的課題と芸術との関連を見いだすことがこの講義の目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

オンデマンド方式により授業を行います。

授業当日の流れ（重要）

1. 指定された公開日に、Google Classroom にその日の学習内容を掲載した資料（Google sites）のリンクを掲載する。
2. 資料を見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）
3. サイト内に小テストや授業内レポートのリンク（Google Forms）が掲載されているので、回答して提出する。
4. 授業内容に関する質問については、Google Forms に書き込んでおくことと回答します。

授業の方法

授業時間になると Google Classroom を通じて受講に必要なリンク先や課題の提出について公開します。公開したウェブサイト授業に関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、40-60分程度）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは年度末まで公開しておきます。

課題

受講後、Google Forms で課題（小テストと簡単なレポート）を提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。

質問・相談

一般的な質問や相談については Google Classroom のチャット機能を使ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義内容について、進め方と方法、評価方法と基準
第2回	近代美術の誕生 古典主義、ロマン派、 写実主義、印象派	近代の始まりと芸術運動に関する講義を行います。近代は、市民革命と産業革命によってその幕が開けられました。この時期の重要な出来事や社会の変遷が、芸術にも深い影響を与えました。市民革命によって生まれた新しい社会秩序や価値観、そして産業革命による技術の進化が、芸術家たちに新たな表現の手段を提供しました。古典主義、ロマン主義、写実主義、印象派などの芸術運動は、単なる美的表現にとどまらず、社会の変動や文化の転換を反映し、近代というコンセプトを徐々に体現していきます。授業では、これらの芸術運動を通して、近代社会の多様性や複雑性に迫り、芸術が社会と相互の作用について学んでいきます。
第3回	アバンギャルドの時代 I フォービズム、表現主義、キュビズム	印象派以降のフォービズム、表現主義、キュビズムを中心に、第一次世界大戦前の芸術運動の流れについて学びます。画家たちはより自由な表現を求めて様々な実験を始めます。フォービズムは色彩や筆触を強調し、視覚的な効果を追求しました。表現主義は主観的な感情の表現に力点を置きました。また、キュビズムは立体的視点から物体を捉える手法についての実験をしました。ポスト印象派と呼ばれる画家のゴッホ、セザンヌは、印象派以降のこれらの20世紀の前衛芸術運動に大きな影響を与え、新しい視点やアプローチを提示しました。授業ではこれらの芸術運動に関する理解を深め、背後に潜むアイデアや文化的な文脈にも焦点を当てて学んでいきます。
第4回	アバンギャルドの時代 II 未来派、ダダイズム シュルレアリズム、ロシア構成主義、バウハウス	第一次世界大戦前後のアバンギャルド芸術運動（前衛芸術）である未来派、ダダイズム、シュルレアリズムについて、またロシア革命前後のロシア構成主義とシュプレマティズムについて学びます。この時代登場した芸術運動は、現代アートの基となるコンセプチュアルな発想や、パフォーマンスやインスタレーションの原型となるような新しいアイデアが登場します。
第5回	ワークショップ1 単元の復習とワークショップ	近代美術の誕生、アバンギャルドの時代 I、アバンギャルドの時代 II の復習及びワークショップを行います。

第6回	第二次世界大戦と戦後アメリカ美術 抽象表現主義、ネオダダ、ポップアート	第二次世界大戦により、ヨーロッパ各地は大きなダメージを受け、芸術の中心地としての地位をアメリカに譲ることとなりました。アメリカではその経済力を背景に、現代芸術の躍動的な拠点となり、さまざまな芸術運動が登場します。抽象表現主義、ネオダダ、ポップアート、ミニマル、コンセプチュアルアートなど、アメリカを中心として登場した芸術運動に加え、アンフォルメル、ヌーボー・レアリズム、アルテ・ボーヴェラなどヨーロッパの動向についても学びます。	第11回	ジェンダーとアート	社会的・文化的な性別を指す「ジェンダー」、性的マイノリティ(性的少数者)を表す総称である「LGBTQ」についての言及は一般的になってきていますが、現在でもジェンダーフリーや性的マイノリティの自由は十分に実現されていません。こうした課題に芸術が関与し、社会的な枠組みを拡大し、偏見や差別に対抗するための意識を喚起する役割を担い、社会が自由を獲得するためのプロセスについて考えます。
第7回	1960年代の市民運動と新しい動向 フルクサス、パブリック、ビデオアートミニマリズム、コンセプチュアルアート、ランド・アート、アルテ・ボーヴェラ	1960年代になるとアフリカ系アメリカ人公民権運動、ベトナム反戦運動、女性解放運動、LSDを使った平和を訴えるフラワーパワージェネレーションなどの市民運動が盛んになります。1960年代の芸術シーンでは、伝統的な絵画や彫刻に留まらず、さまざまな新しい表現手法が登場しました。物質生よりも思想や概念に焦点を当てたミニマルアートやコンセプチュアルアート、パフォーマンスアートは身体や行為を介して会への関与をするなど、新しい芸術の動向が登場します。	第12回	環境とアート	私たちは古くから自然を観察し、芸術作品の主題としてきました。自然が提供する様々な風景や生態系は、画家や彫刻家などのアーティストにとって永遠のインスピレーション源となっています。また、19世紀の自然主義の考え方や、近年のランドアートの試みなど、自然は芸術において重要な役割を果たしてきました。しかし、近年では地球規模での環境問題が深刻化し、私たちは自然との関係性を再評価せざるを得なくなっています。地球の温暖化、生態系の破壊、資源の枯渇など、環境問題は私たちの生活に直接関わるものとして認識されるようになりました。地球温暖化と関連するエネルギー問題は、世界の大きな課題となっており、日本においては東日本大震災をきっかけとした自然災害と原発問題が今でも続いています。アートの世界では環境問題への関心を高め、作品を通じて社会に對話を呼びかけます。アートを通じた環境問題へのアプローチは、単なる美的な観点だけでなく、社会的な意識を喚起し、持続可能な社会を喚起します。
第8回	多文化の時代 ポストミニマリズム、新表現主義、関係性の美術、ソーシャリー・エンゲージドアート	1989年にベルリンの壁が崩壊して東西ドイツの境界線がなくなり、さらに東ヨーロッパ全体が消滅、冷戦構造が終焉を迎えます。東西対立の時代からアフリカやアジア、南米などを含んだ多文化の時代に移行します。アートの世界でも、1980年代以降アメリカやヨーロッパ中心からグローバルな考え方が一般的になります。アメリカのコマーシャルリズムにより生まれた新表現主義の時代を経て、ミレニアム前後にイギリスとヨーロッパで発生した二つのムーブメント、「ヤング・プリティッシュ・アーティスト」(YBA)と「リレーショナルアート」についての理解を深めます。21世紀に入り、芸術はますます社会に関与する方向へと進化しています。ソーシャリー・エンゲージド・アートやソーシャル・プラクティスといった社会に関与する芸術運動が盛んになっています。	第13回	感染症パンデミックの時代	2020年以降、私たちは新型コロナウイルス感染症の拡大という未曾有の状況に直面しました。現在では、私たちにあってはパンデミックのように感じています。過去にも天然痘、ペスト、スペイン風邪、エイズなどが世界中に大きな打撃を与えました。感染症が引き起こす社会的課題は、その時代背景や科学技術の進歩によって異なる側面を持ちます。アートはその時代の複雑な感情や社会的な変化を反映してきました。感染症の起こす社会的課題と各時代のアートが感染症をどのように表してきたのかを関連づけて学びます。
第9回	ワークショップ2 単元の復習とワークショップ	戦後アメリカ美術、1960年代/市民運動と新しい動向、多文化の時代の講義内容に関する確認をします。	第14回	ワークショップ3 単元の復習、ワークショップ	14回の講義について振り返り、芸術と社会の問題についてディスカッションをします。
第10回	政治とアート 退廃芸術展と大ドイツ展、戦争画、東日本大震災とアート、表現の不自由展	第二次世界大戦前には社会主義国のソビエト連邦が国家となり、ドイツにはナチス党が台頭しました。戦争に至る思想統制の中、これらの国々の自由な芸術の精神は、弾圧を受けることとなります。ベルリンの壁崩壊以降のアートの動きや近年の表現の自由をめぐる論争、文化政策の変化など、政治とアートについてプロパガンダ、社会主義リアリズム、ヨーゼフ・ボイスの社会彫刻、表現の不自由展などの具体的な事例を通じて、アートが政治的な状況にどのように対応し、影響を与えてきたのかについて理解します。			

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

Google sitesで配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。可能であれば企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

Google sitesを通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介するので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019年
 デイヴィッド・コッティントン（著者）、松井 裕美（翻訳）『現代アート入門』名古屋大学出版会、2020年
 『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定1・2・3級公式テキスト』美術出版社、2014年
 『続 西洋・日本美術史の基本』美術出版社、2016年
 『新・アートの裏側を知るキーワード』美術出版社、2022年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

ワークショップではスケッチによるプランや写真作品など簡単な実践に取り組みますが、受講される皆さんは例年課題について積極的に取り組まれているようです。楽しく解りやすい授業を心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のためにGoogle classroomを使いますが、履修に関する情報については学習支援システムを併用しますので、よく確認しておいてください。

【その他の重要事項】

受講希望者が1000人を超えた場合、抽選を行います。抽選方法については学習支援システムを通じて連絡しますので、よく確認をしておいてください。

実務経験のある教員による授業

稲垣立男はコンテンポラリーアーティスト。フィールドワークによる作品制作と美術教育に関する実践と研究を国内外で実施しており、これらの現場での経験を毎回の講義に反映させています。

【Outline (in English)】

Course outline

"Society and Art" is an introductory lecture that will allow you to see and think about the new world of expression that you rarely come into contact with. In particular, we will focus on the world of art, which deals with the relationship between society and art, which has been attracting attention since the 21st century. You will also learn about the points of contact between society and art and their relationships by referring to various examples of performing arts such as theatre, music, and the world of representations such as architecture. Focusing on the two themes of "art history and theory" (first half) and "society and art" (second half), we will examine and discuss each issue and problem from the keywords of each area.

1. Art history and theory Learn about the history and theory of modern and contemporary art from the 18th to 21st centuries, which is the basis for learning about society and art.
2. Society and art Learn about the relationship between media as a mirror that reflects society and the times and artistic expression, with concrete examples.

Learning Objectives

Introducing familiar examples of art history, contemporary society and art from the past to the present. This lecture aims to understand the workings of art history and to find universal and social issues from familiar problems.

Learning activities outside of the classroom

The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimental and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.

1. Initiatives for classes (50%)
2. Issues and reports (50%)

See rubrics for specific assessment guidelines.

Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

GDR200GA (ジェンダー / Gender 200)

ジェンダー論

佐々木 一恵

配当年次 / 単位：1～4年 / 2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業 / Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

多様性に富むグローバルな文化・社会を理解する上で、ジェンダーは重要な視点の一つです。この授業では、文化的・社会的な性の有り様としてのジェンダーが、歴史的にどのように構築されまた変化してきたかを、言説という概念を軸に考えていきます。そこから、自文化ならびに異文化について、ジェンダーの視点を通じて、より多角的な分析と理解ができるようになることを目指します。

【到達目標】

1. ジェンダー研究における基礎的概念を理解できるようになる。
2. 言説分析の基本的な方法論を習得し、ジェンダーに関連する諸問題について、基礎的な言説分析ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

【重要なお知らせ】初回の授業はオンデマンドで実施し、2週目以降は対面で授業を行います。受講を希望する人は4月10日(水)までにHOPPIIに登録してください。受講希望者が100名を超える場合は抽選を行います。受講を希望される方は、4月10日(水)にアップロードされる希望登録Google Formを記入してください。締切は4月11日(木)の午前10時です。4月13日(土)に抽選結果をHOPPIIでお知らせします。第2回目からの授業は抽選に合格した人のみ受講できます。

●ジェンダー研究において重要な諸概念(母性・身体・家族・セクシュアリティ・恋愛・マスキュリティなど)を、歴史的な視点と現代日本の日常生活における視点の双方から検討していきます。

●一次資料の簡単な分析を行ってもらいます。そこから、概念・方法論の理解と実践方法を学んでいきます。

●毎回の授業の最後に出される問いに対する分析を、リアクションペーパーの形で提出してもらいます。

●提出されたリアクションペーパーについては、翌週の授業で複数紹介しながら講評します。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要について
2	「男らしさ」と男性学の視点	①役割理論から、「男らしさ」を一つの「役割モデル (role model)」として考察する。 ②1980年代以降の男性学の系譜について理解する。
3	「男らしさ」と相互行為論	①<男らしさ>を相互行為論(アーヴィング・ゴフマンのドラマトウルギーならびにイブ・セジウィックのホモソーシャルティ)の概念から考察する。 ②ホモソーシャルティ(男同士の絆)と国民国家・近代スポーツ・軍隊について検討する。

4	「母性」イデオロギー	①日本における国民国家形成と「母親」への役割期待の関係性、並びにその変遷について検討する。 ②高度成長期における母性イデオロギーの形成について議論する。 ③今日の日本社会における母親・母性に関する問題と、その背景について検討する。
5	性役割と「母性」	母親や母性に関する言説が、法律や政策にどのような形で影響を与えているのかを、親権並びに代理出産を事例として検討する。
6	異性愛規範とゲイ・スタディーズの視点	①近現代日本における同性愛の系譜を辿りながら、異性愛規範について考察する。 ②セクシュアリティをアイデンティティ概念から捉え、クイア・スタディーズの新たな視点について検討する。
7	性の商品化と消費	①フェミニズムにおける重要なテーマである、「性と生殖に関する自己決定権」の背景としての、近代における性規範について考察する。 ②ポルノグラフィと買春を事例に、セクシュアリティの問題を検討する。
8	ジェンダーと身体規範	①美容整形の系譜をたどり、近現代におけるジェンダー化された身体規範と整形美容の関係について検討する。 ②「改造」できる身体という概念にもとづく美容整形をめぐる議論とその論点について検討する。
9	身体と自己アイデンティティ	「消費」という視点から、身体とアイデンティティの問題について検討する。
10	「ロマンティック・ラブ」イデオロギーと恋愛の物語性	①「恋愛」という概念がどのように日本に定着していったのかを議論する。 ②ロマンティック・ラブ・イデオロギーについて検討する。 ③「恋愛」の物語性について、ドラマなどの事例から検討する。
11	近代家族と「家庭」イデオロギー	①「近代家族」と国民国家形成との関係性について検討する。 ②「近代家族」の規範となった3つのイデオロギー(ロマンティック・ラブ、母性、家庭)について検討する。 ③「近代家族」の変容とその背景について議論する。
12	フェミニズムとジェンダー論	フェミニズムの思想的背景や展開の概略を理解し、今日におけるジェンダー論の視座を議論する。
13	今学期の授業に関する質疑応答	質問やコメントに答える。
14	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

次週の授業に関連する基礎概念について調べておくこと。授業内容の復習を行い、課題を作成すること。なお、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

教科書は使用しません。

【参考書】

伊藤公雄『男性学入門』(作品社、1996年)。

伊藤公雄、牟田和恵編『ジェンダーで学ぶ社会学』（世界思想社、2006年）。

千田有紀、中西祐子、青山薫『ジェンダー論をつかむ』（有斐閣、2013年）。

江原由美子、山崎敬一編『ジェンダーと社会理論』（有斐閣、2006年）。

木村涼子、伊田久美子、熊安貴美江『よくわかるジェンダー・スタディーズ』（ミネルヴァ書房、2013年）。

伊藤 公雄、樹村 みのり、國信 潤子『女性学・男性学 - ジェンダー論入門』（有斐閣、2019年）。

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー 40 %

期末試験 60 %

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンやパソコン等情報機器が必要です。

【その他の重要事項】

●初回の授業はオンデマンドで実施し、2週目以降は対面で授業を行います。

●受講を希望する人は4月10日（水）までにHOPPIIに登録してください。受講希望者が100名を超える場合は抽選を行います。受講を希望する方は、4月10日（水）にアップロードされる希望登録Google Formを記入してください。締切は4月11日（木）の午前10時です。抽選結果は4月13日（土）にHOPPIIでお知らせします。

●第2回目からの授業は抽選に合格した人のみ受講できます。

【Outline (in English)】

The course is designed to facilitate an understanding of culture and society from the perspective of gender and sexuality. It introduces various issues related to gender and sexuality so that students become better able to analyze their own culture as well as other cultures in a multifaceted way from the standpoint of gender.

By the end of the course, students are expected to be able to: 1) understand the basic concepts in gender studies, and 2) acquire basic methods of discourse analysis and conduct basic discourse analysis on various gender-related issues.

Students will be expected to 1) check the basic concepts related to the next class lecture, and 2) review the content of the class and work on the assignments.

The final grade will be decided by reaction paper (40%) and the final assignment (60%).

HUM200GA (その他の人文学 / humanities 200)

国際文化協力

松本 悟

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：100名前後が望ましい

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では国際文化論の観点から国際協力の基礎を学ぶものである。具体的には国際協力の歴史や仕組み、国際協力が文化に及ぼす影響、文化面の国際協力のあり方について知識を習得するとともに、それらを用いて論理的に考える力を養うことを目的とする。基幹科目なので、1、2年生には、専攻科目や演習で更に深めたい学問領域やテーマを見つける機会にして欲しい。

【到達目標】

- (1) 国際文化論および国際協力についての基礎的な知識を身につける。
- (2) 国際協力和文化を結びつけて論理的に事象を分析できる。
- (3) 「技術と文化」「開発コミュニケーション」「文化遺産保護」「難民」「パブリックディプロマシー」などに授業で扱うテーマについて説明できる。
- (4) 基幹科目としてアカデミックスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

■基本方針：法政大学の教育活動における行動方針がレベル1以下の場合には対面で実施する。

■フィードバック：講義への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。

■授業後課題：2回に1回程度課す。思考を促す課題で、200字～800字程度で書いてもらう。基幹科目なのでアカデミックスキルを高めることも目的としている。提出期限は授業日から3日以内。授業冒頭で課題への全体コメントを行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクションー 国際文化協力とはー	この授業の狙い、進め方、国際文化協力の概論。リアルタイムオンライン授業で行い、履修希望者数を確認する。
2	技術と文化	川の水を煮沸せずに飲む行為を通して技術と文化について考える
3	普及とコミュニケーション	受け入れ「させる」ことをどう考えるか
4	協力される側だった日本	明治時代のお雇い外国人と「抵抗」を考える
5	日本への技術移転	贈与・交換・支配・互酬と国際協力
6	文化の受容と抵抗	文化接触(アカルチュレーション)から文化の受容を考える
7	文化財を守るとは	明治時代の日本で文化財をなぜ守るようになったのかを考える
8	国際的な文化財保護までの道のり	戦利品としての略奪と返還運動から文化財の国際的な捉え方の変化を考える
9	人類の遺産	世界遺産という発想はどこからきたのかを考える
10	政府開発援助(ODA)と文化協力	パブリックディプロマシーやソフトパワーについて考える
11	国際協力和想像力ー期末レポートに向けて	期末レポートの課題文献とこの授業の繋がりを講義する
12	国際人権	文化要素としての人権について難民を例に「民権」との違いから考える
13	市民としての国際文化協力	日本の地域での難民受け入れを通して同化と社会的統合について考える
14	私と国際文化協力	担当教員の実務経験を踏まえて国際文化協力の授業での学びを再構成する。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

- ・最初の授業で具体的に指示する。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

以下の本は、複数回の授業の参考文献であるとともに、期末レポートの課題文献となる。到達目標4に関係している。各自入手すること。

松本悟・佐藤仁編著(2021)『国際協力和想像力ーイメージと「現場」のせめぎ合い』日本評論社。

【参考書】

毎回の講義に関連する参考文献はその都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・授業後課題への回答などの平常点50%、期末レポート50%
- ・授業後課題は設問に200字～800字程度で答えるもので、カッコ内の場合は減点となる(例：設問や指示に的確に答えていない、極端に短い、文章として辻褃が合わない)
- ・期末レポートは、授業で学んだ内容を踏まえて、課題文献を分析するもので、知識を問うものではない
- ・この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする

【学生の意見等からの気づき】

- ・短い文章や期末レポートの書き方の説明が役に立ったという声が多いので継続する。
- ・毎回グループ討議と発表を取り入れる。

【学生が準備すべき機器他】

- ・教科書は春学期の前半(5月末頃)までには入手しておくこと

【その他の重要事項】

NHK記者や、開発協力分野のNGOとして実務に関わってきた教員が、その経験を事例として取り上げながら講義やコメントをする。

【Outline (in English)】

【Course outline】

What is international cooperation from the perspectives of intercultural studies? It should covers impacts of inter-national cooperation on cultures, inter-cultural cooperation or inter-national cooperation in cultural fields. By the end of this course, students will understand those aspects of cooperation beyond the national borders and will be able to analyze them logically.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students are expected to;

- 1) acquire the basic knowledge on intercultural studies and international cooperation.
- 2) be able to analyze the issues in associating international cooperation and culture.
- 3) understand the key concepts of "technology and culture", "development communication", "protection of cultural heritage", "refugees" or "public diplomacy".
- 4) acquire and be able to apply the academic skills to write a short or term paper.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content or to write a short essay on a given topic.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on a short essay at each class meeting (50%) and a term-end report (50%).

SOC200GA (社会学 / Sociology 200)

宗教と社会

佐々木 一恵

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：150名 (超えた場合は、選抜の可能性あり)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

異文化理解において、宗教は重要な要素の一つです。この授業では、宗教というレンズを通して、過去そして現在における社会の諸問題を検討していきます。宗教と社会の関係を、格差・開発・ジェンダー・ナショナリズム・国民国家・消費・紛争などの問題から捉えることで、グローバル化の進む現代社会における多様な価値観との共生のあり方について考えていきます。

【到達目標】

1. 宗教と社会の関係を考えるために必要な、基本的な概念や理論を理解できるようになる。
2. 宗教と社会の関係について、基本的な分析概念や理論を用いて、基礎的な事例分析ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

【重要なお知らせ】 初回の授業はオンデマンドで実施し、2週目以降は対面で授業を行います。受講を希望する人は4月11日(木)までにHOPPIIに登録してください。受講希望者が100名を超える場合は抽選を行います。受講を希望される方は、4月11日(木)にアップロードされる希望登録 Google Form を記入してください。締切は4月12日(金)の午前10時です。4月13日(土)に抽選結果をHOPPIIでお知らせします。第2回目からの授業は抽選に合格した人のみ受講できます。

●歴史学・人類学・社会学・政治学において、宗教がどのように分析されてきたかを概観するとともに、具体的な諸事例から、宗教と社会の関係性とその多元性について議論していきます。

●毎回、授業の最後に出される問いに対する分析を、リアクションペーパーの形にまとめて提出してもらいます。

●提出されたリアクション・ペーパーについては、翌週の授業で複数紹介しながら講評します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	宗教とはなにか	この授業の目的や概略について説明する。
2	宗教を考えるためのアプローチ	近代宗教学の成立と歴史意識について概観した後、宗教を捉えるための学問が、何を問題とし、どのような過程で体系化されていったかを検討する。
3	医療技術の進歩と死生観	昨今の臓器移植・延命治療・尊厳死法案・iPS細胞をめぐる議論から、死生観と宗教・医療・国家の間の問題を、公的領域・私的領域の視点を交えながら考察する。

4	所有・貧困と宗教	宗教において、格差や貧困の問題はどのように考えられてきたのか、また格差や貧困の問題の是正を目的として、近代に出現した公的な福祉制度は、宗教における所有や貧困に対する考えや対応と、どのように関連しているのかを議論する。
5	ジェンダー・セクシュアリティと宗教	ジェンダーの視点から宗教を捉えなおすことで、宗教によって維持され権威づけられてきた男女の性差に関する規範・慣習・観念について再検討する。
6	ジェンダー・フェミニズムと宗教	慣習や伝統文化とジェンダーの問題を、宗教に関する事例から考える。そこから、近代の人間観の基盤ともなっていた合理的思考と慣習・伝統文化の規範との間の問題が、単純に近代/伝統あるいは普遍主義/相対主義の二分法で片付けられないことをみていく。
7	政治・国家と宗教	政治や国家と宗教の問題を、宗教のもつ社会的統合機能を切り口に、いわゆる「世俗主義」国家におけるナショナリズムと市民宗教について議論する。
8	紛争・暴力と宗教	社会の安寧と平和の維持を願う宗教の名の下に、なぜ暴力を行使し、紛争が発生するのか。宗教と暴力・紛争の問題を、宗教儀礼(供犠)、ケガレと差別、世俗化とグローバル化の視点から理解を試みる。
9	消費社会と宗教	スピリチュアル(霊的なもの)と宗教との関連を、歴史的に考察すると同時に、昨今のスピリチュアル・ブームを現代の消費社会との関連から検討する。
10	グローバル化と宗教	グローバル化する世界における宗教の動態について、公的領域と私的領域の双方の視点から検討する。
11	科学・世俗化と宗教	科学と宗教の関係を、キリスト教と科学の歴史から考えるとともに、昨今の科学と宗教の間の問題を、進化論と生殖医療に関する問題から検討する。
12	社会思想と宗教	ポスト・コロニアリズムの視点から宗教についてのアプローチを考える。
13	今学期の授業に関する質疑応答	質問やコメントに答える。
14	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各回の授業の復習を行い、リアクション・ペーパーで書いた問題点や疑問点などについて各自掘り下げて検討して下さい。なお、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

教科書は使用しない。

【参考書】

- 井上順孝『宗教社会学を学ぶ人のために』(ミネルヴァ書房、2016年)。
- 伊藤雅之『現代スピリチュアリティ文化論：ヨーガ、マインドフルネスからポジティブ心理学まで』(明石書店、2021年)。
- 櫻井義秀、三木英『よくわかる宗教社会学』(ミネルヴァ書房、2007年)。
- ロバート・D・パットナム、デイヴィッド・E・キャンベル『アメリカの恩寵—宗教はいかに社会を分かち、むすびつけるか』(柏書房、2019年)。
- 望月哲也『社会理論としての宗教社会学』(北樹出版、2009年)。

- 棚次正和、山中弘編著『宗教学入門』（ミネルヴァ書房、2005年）。
- 島蘭進、葛西賢太、福島信吉、藤原聖子編著『宗教学キーワード』（有斐閣、2006年）。
- 田中雅一、川橋範子編著『ジェンダーで学ぶ宗教学』（世界思想社、2007年）。
- タラル・アサド『世俗の形成：キリスト教、イスラム、近代』（みすず書房、2006年）。
- ユルゲン・ハーバマス『ポスト世俗化時代の哲学と宗教』（岩波書店、2007年）。
- ニコラス・ルーマン『宗教論：現代社会における宗教の可能性』（法政大学出版局、2009年）。
- 中野毅『宗教の復権：グローバリゼーション・カルト論争・ナショナリズム』（東京堂出版、2002年）。
- 磯前順一、タラル・アサド編『宗教を語りなおす：近代のカテゴリーの再考』（みすず書房、2006年）。
- 『岩波講座 宗教（全10巻）』（岩波書店、2004年）。
- 『諸宗教の倫理学（全5巻）』（九州大学出版会、1992～2006年）。

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー 40 %

期末試験 60 %

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンやパソコンなどの情報通信機器。

【その他の重要事項】

●初回の授業はオンデマンドで実施し、2週目以降は対面で授業を行います。受講を希望する人は4月11日（木）までにHOPPIIに登録してください。

●受講希望者が100名を超える場合は抽選を行います。受講を希望される方は、4月11日（木）にアップロードされる希望登録Google Formを記入してください。締切は4月12日（金）の午前10時です。4月13日（土）に抽選結果をHOPPIIでお知らせします。第2回目からの授業は抽選に合格した人のみ受講できます。

【Outline (in English)】

The course explores the relationship between religion and society by taking up issues ranging from gender, nationalism, nation-states, consumer culture, to war and conflicts. It will discuss the possibilities of mutual understanding and coexistence of different religious values and practices in an era of global competition and interdependence.

By the end of the course, students are expected to be able to: 1) understand the basic concepts and theories that are important to examine the relationship between religion and society, and 2) use analytical concepts and theories to analyze case studies of the relationship between religion and society.

Students will be expected to review each class and explore the problems and questions that they wrote in their reaction papers.

The final grade will be decided by reaction paper (40%) and the final assignment (60%).

LANf300GA (フランス語 / French language education 300)

フランス語アプリケーション

ルルー 清野 ブレندان

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈ア〉〈ダ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Ce cours s'adresse à des étudiants d'un niveau de français déjà confirmé (A2/B1). Les étudiants travailleront les compétences de compréhension et de production à l'oral et à l'écrit afin d'améliorer leur niveau de communication et d'expression. Les thèmes étudiés permettront aussi d'élargir leurs connaissances sur les cultures francophones.

【到達目標】

Ce cours permet à des étudiants déjà assez confirmés (au moins 2 ans de pratique du français) de poursuivre leur apprentissage : enrichissement du vocabulaire, développement des capacités de lecture et d'expression orales et écrites. Il permet la préparation des examens du DELF (préparation directe au niveau B1, voire B2) et du 仏検 (2級 voire 準1級), ainsi que le concours pour partir en tant qu'étudiant en échange (派遣留学).

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

A l'aide d'une grande variété de documents (textes, images, vidéos, chansons...), les étudiants travailleront la compréhension et la communication orales, sans oublier l'écrit avec une révision systématique des points de grammaire qu'ils ont déjà étudiés.

Les contenus proposés seront très variés et permettront de découvrir de nombreux aspects culturels de la francophonie tout en voyageant autour du monde.

この授業では、作文やリーディングマラソン(フランス語多読)のような課題も課せられますので、そのつもりでいて下さい。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Faisons connaissance !	Présentation des participants Organisation et calendrier des activités
2	La beauté pour tous	Une nouvelle référence de beauté?
3	DELF B1	Entraînement: - compréhension écrite - expression écrite (= rédaction n°1)
4	"Hugo décrypte" ①	Compréhension orale Traduction et sous-titrage ①
5	Lecture extensive ①	Présentation du premier livre lu
6	"Hugo décrypte" ②	Compréhension orale Traduction et sous-titrage ②
7	Description physique et caractère	Un discours Choisir un collaborateur

8	DELF B1	Entraînement: - compréhension écrite - expression écrite (= rédaction n°2)
9	Lecture extensive ②	Présentation du 2e livre lu
10	"Hugo décrypte" ③	Compréhension orale Traduction et sous-titrage ③
11	Caricatures ①	"Le Canard enchaîné" ①
12	DELF B1	Entraînement: compréhension orale
13	Lecture extensive ③	Présentation du 3e livre lu
14	Caricatures ②	"Le Canard enchaîné" ②: présentations des étudiants

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

Une participation active en classe est indispensable. Des exercices ou tâches à réaliser seront donnés, à chaque cours ou presque, pour le cours suivant (réviser le vocabulaire, revoir un point de grammaire, écrire un petit texte, préparer un exposé, etc.).

予習・復習・積極性は必須。本授業の準備学習・復習時間は2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

Les documents utilisés seront distribués en classe ou téléversés sur Hoppii ou Google Classroom.

【参考書】

Dictionnaire français-français ou français-japonais recommandé.
Attention: pas de "faux" dictionnaire en ligne!!!

【成績評価の方法と基準】

・宿題、ミニ発表、その他の小テスト:約 30 %

・リーディングマラソン(フランス語多読):約 25 %

・作文:約 25 %

・出席点:約 20%。尚、出席点に関しては減点方式をとり、4回目の欠席で不合格となります。遅刻は2回で欠席扱いとなり、遅延証明は2回まで認めます。

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見等は特にありませんでした。

【その他の重要事項】

Ce cours est particulièrement adapté aux étudiants ayant déjà effectué un séjour en France ou qui visent le concours des étudiants d'échanges (派遣留学).

En fonction du nombre et du niveau des étudiants, le programme ci-dessus est susceptible d'être modifié au cours du semestre.

【Prerequisite】

Un niveau de français A2, au minimum, est nécessaire pour participer à ce cours.

【Outline (in English)】

This course is for intermediate students with A2/B1 level in French. The participants will improve their level of communication and expression, through activities using oral and written communication. Through the selected themes, students will also be able to develop their knowledge about francophone cultures.

Active participation in class is essential. Exercises or tasks will be given for the next class almost every week (thorough revision of vocabulary and/or grammar points, theme-related papers or presentations, readings, etc.).

Depending on the tasks involved, homework preparation will range from one to three hours.

Grading criteria are as follows:

・ Homework, short tests and presentations: app.30 %

・ "Reading marathon" (Extensive reading): app.25 %

・ Essays: app.25 %

・ Attendance: app.20%。

LANf300GA (フランス語 / French language education 300)

フランス語アプリケーション

ルルー 清野 ブレندان

配当年次/単位：3～4年/2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈ア〉〈ダ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Ce cours s'adresse à des étudiants d'un niveau de français déjà confirmé (A2/B1). Les étudiants travailleront les compétences de compréhension et de production à l'oral et à l'écrit afin d'améliorer leur niveau de communication et d'expression. Les thèmes étudiés permettront aussi d'élargir leurs connaissances sur les cultures francophones.

【到達目標】

Ce cours permet à des étudiants déjà assez confirmés (au moins 2 ans de pratique du français) de poursuivre leur apprentissage : enrichissement du vocabulaire, développement des capacités de lecture et d'expression orales et écrites. Il permet la préparation des examens du DELF (préparation directe au niveau B1, voire B2) et du 仏検 (2級 voire 準1級), ainsi que du concours pour partir en tant qu'étudiant en échange (派遣留学).

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

A l'aide d'une grande variété de documents (textes, images, vidéos, chansons...), les étudiants travailleront la compréhension et la communication orales, sans oublier l'écrit avec une révision systématique des points de grammaire qu'ils ont déjà étudiés.

Les contenus proposés seront très variés et permettront de découvrir de nombreux aspects culturels de la francophonie tout en voyageant autour du monde.

この授業では、作文やリーディングマラソン (フランス語多読) のような課題も課せられますので、そのつもりでいて下さい。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Présentation du cours Auto-évaluation des étudiants	Organisation et calendrier de la classe TCF en ligne
2	Tourisme et voyages	Tourisme créatif Organiser un voyage
3	DELF B1 (ou B2)	Entraînement: - compréhension écrite - expression écrite (= rédaction n°1)
4	Projet	Réaliser une carte postale sonore
5	Lecture extensive ①	Présentation du premier livre lu
6	Environnement ①	Les distributeurs de boissons au Japon
7	"Hugo décrypte" ①	Compréhension orale Traduction et sous-titrage ①
8	DELF B1 (ou B2)	Entraînement: - compréhension écrite - expression écrite (= rédaction n°2)
9	Lecture extensive ②	Présentation du 2e livre lu
10	Vie de famille	Les liens de famille Le plus-que-parfait
11	"Hugo décrypte" ②	Compréhension orale Traduction et sous-titrage ②
12	DELF B2	Entraînement: compréhension orale (urbanisation)
13	Lecture extensive ③	Présentation du 3e livre lu
14	CBC/Radio Canada	Compréhension orale

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Une participation active en classe est indispensable. Des exercices ou tâches à réaliser seront donnés, à chaque cours ou presque, pour le cours suivant (réviser le vocabulaire, revoir un point de grammaire, écrire un petit texte, préparer un exposé, etc.).

予習・復習・積極性は必須。本授業の準備学習・復習時間は2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

Les documents utilisés seront distribués en classe ou téléversés sur Hoppii ou Google Classroom.

【参考書】

Dictionnaire français-français ou français-japonais recommandé.
Attention: pas de "faux" dictionnaire en ligne!!

【成績評価の方法と基準】

- ・宿題, ミニ発表, その他の小テスト: 約 30 %
- ・リーディングマラソン (フランス語多読): 約 25 %
- ・作文: 約 25 %
- ・出席点: 約 20%。尚, 出席点に関しては減点方式をとり, 4 回目の欠席で不合格となります。遅刻は 2 回で欠席扱いとなり, 遅延証明は 2 回まで認めます。

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見等は特にありませんでした。

【その他の重要事項】

Ce cours est particulièrement adapté aux étudiants ayant déjà effectué un séjour en France ou qui visent le concours des étudiants d'échanges (派遣留学).

En fonction du nombre et du niveau des étudiants, le programme ci-dessus est susceptible d'être modifié au cours du semestre.

【Prerequisite】

Un niveau de français A2, au minimum, est nécessaire pour participer à ce cours.

【Outline (in English)】

This course is for intermediate students with A2/B1 level in French. The participants will improve their level of communication and expression, through activities using oral and written communication.

Through the selected themes, students will also be able to develop their knowledge about francophone cultures.

Active participation in class is essential. Exercises or tasks will be given for the next class almost every week (thorough revision of vocabulary and/or grammar points, theme-related papers or presentations, readings, etc.).

Depending on the tasks involved, homework preparation will range from one to three hours.

Grading criteria are as follows:

- ・ Homework, short tests and presentations: app.30 %
- ・ "Reading marathon" (Extensive reading): app.25 %
- ・ Essays: app.25 %
- ・ Attendance: app.20%

LANf300GA (フランス語 / French language education 300)

フランス語アプリケーション

カレンス フィリップ

配当年次/単位：3~4年/2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈他〉〈ア〉〈ダ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

2年間学んだフランス語の知識(語彙や文法など)を生かして、フランス語のコミュニケーション能力を高める授業です。日常の場面に応じて、フランス語で様々な練習問題を行い、フランス語を話す力を強めます。文法を復習しながら、新しい語彙や表現を覚えながら、フランスとフランスの文化についてももっと詳しく学びます。

【到達目標】

授業の目標はコミュニケーションの力を上げることです。

次の三つのポイントに重点を置きます。

1. フランス語の日常会話をもっと聞き取れるようにする。
2. フランス語の文法の知識を高め、色々な練習に通じて強化する。
3. フランス語の語彙や言い方を増やして、使えるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

本授業は基本的には対面を進めることを想定していますが、状況に応じてオンライン授業へと移行することがあったら、お知らせします。学生からの質問には授業時間内、または授業支援システムを通じてフィードバックしていきます。

授業の内容に関しては、まず、テキストを見ずに対話を聞き、理解し、少しずつ繰り返し音読します。その後、テキストを見ながら再び音読します。さらに、内容と関連がある練習問題を行います。最後に学んだものをもう一度使い、ロールプレーをします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	Prise de contact Explications du programme L1 p10 Chez le traiteur la quantité encore/ne ... plus) pronom "en"	自己紹介 プログラムの説明 1課 素材屋で 部分冠詞 量の表現 "en" 代名詞
②	L2 p14,15 Commander un repas souhait conditionnel	2課 食事の注文 願う
③	L3 p18 A la boutique de bijoux pronoms démonstratifs	3課 宝石のブチックで 指示代名詞
④	L5 p22 Modifier une réservation (table ou chambre) verbe conjugués +verbe infinitif	5課 予約の変更 レストラン/ホテル 動詞+不定詞
⑤	L6 p24 A la banque Complément de nom: "de"	6課 銀行で 名詞補語 "de"
⑥	L7 p26 Echanger, se faire rembourser Expressions de temps + passé composé	7課 交換する 返済してもらう 時間の表現+複合過去
⑦	Révisions Test de mi-trimestre	復習 中間テスト

⑧	L9 p32 Faire des comparaisons verbes construits sur des adjectifs, comparatif superlatif	9課 比較する 比較法 最上級
⑨	L10 p38 Se renseigner Interrogation indirecte	10課 問い合わせる 間接法
⑩	L11 p40 Localiser prépositions/adverbes de lieu	11課 位置、 場所を突き止める 場所の前置詞と副詞
⑪	L12 p44 A l'agence immobilière Subjonctif/indicatif	12課 不動産屋で 接続法か直接法
⑫	L13 p50 Résilier un contrat Comparaison Expression du futur	13課 賃貸契約を取り消す 未来形
⑬	L15 p58 Déclarer un vol, un accident Forme passive	15課 窃盗の被害届 受動態 される
⑭	Révisions Test final	復習 期末テスト

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎回課題(宿題)を出すので、よく復習してください。
本授業の宿題・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

Communication Progressive du Francais - A2 B1 Intermédiaire 2eme Edition: Livre de l'élève + Cd-audio,
Editions Clé International, Claire MIQUEL
(ISBN 978-209-038447-5)

【参考書】

辞書に関しては、電子辞書、紙の辞書どちらでも良いですが、手元に用意しておくとう便利です。授業の予習・復習にぜひ活用してください。

【成績評価の方法と基準】

1. 中間テスト・期末試験:60%
2. 課題:30%
3. 積極性:5%
4. 平常点:5%

【学生の意見等からの気づき】

より実践的に使えるフランス語を身につけさせる。
さらに、フランスの暮らしや文化についても取り入れていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

CD

【その他の重要事項】

On aura un exemple du manuel et de son organisation en cliquant sur le lien suivant <http://extranet.editis.com/it-yonixweb/images/330/art/doc/f/fbb51c54d7c63635313336363536383834343935.pdf>

【Outline (in English)】

The purpose of this course is the development of a communication skill in French at intermediate level (A2/B1). At first, we will strengthen comprehension and oral capacity. Additional drills and a lot of panels of exercises will be proposed to reinforce the grammar level and the vocabulary. The different topics taken from every-day life situations will give opportunities to learn more about French culture. Students will be expected to prepare the next class and to have complete the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.

Your overall grade in the class will be decided on the following:
Mid-term and Term end examination: 60%, Assignments: 30%,
and in class contribution 10%.

ART300GA (芸術学 / Art studies 300)

現代美術論

稲垣 立男

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：受講希望者が1000人を超えた場合、抽選を行います。抽選方法については学習支援システムを通じて連絡しますので、よく確認をしておいてください。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

今日の現代美術の世界は、様々な分野の最先端の芸術の分野 (美術、建築、音楽、パフォーマンス、映像、詩など) が複雑に交差しながら形成されています。この講義では、現代美術の多様性に焦点を当て、理論と実践の両面から探求します。現代美術のコンテクストを社会学、人類学や科学など他の領域かと対比しながら分析し、その中で多文化主義・関係性・コミュニケーションなどのテーマを読み解いていきます。こうしたアプローチを通じて、現代美術がどのように社会的、文化的な変化と相互作用しているかを深く理解するための基盤について学びます。学と比較参照し、多文化・関係性・コミュニケーションなどをキーワードに読み解いていきます。

【到達目標】

講義では、現代美術と関連のある芸術分野についても扱い、様々な芸術の分野における実験的なアプローチを検証し俯瞰することで、それらの考え方、アイデアについての理解を深めます。みなさんには馴染みの薄い分野であると思いますので、最初に美術史や美術理論の基本的な知識を確認します。また、講義の間にワークショップ (感覚的、体験的に学ぶこと) を行い、より理解を深めていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義映像や資料などの授業コンテンツを Google sites 全て掲載して一定期間公開し、それをみながら授業を受講してもらうオンデマンド方式にします。

授業当日の流れ (重要)

1. 指定された公開日に、Google Classroom にその日の学習内容を掲載した資料 (Google sites) のリンクを掲載する。
2. 資料を見ながら学習を進める。(当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。)
3. Google Classroom に授業に関連した小テストや授業内レポートのリンク (Google Forms) が掲載されているので、回答して提出する。
4. 授業内容に関する質問については、Google Forms に書き込んでおくと回答します。

授業の方法

授業時間になると Google Classroom を通じて必要なリンク先や課題の提出について公開します。公開したウェブサイト授業に関連したテキストや授業概要の映像 (YouTube、40-60分程度)、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは年度末まで公開しておきます。

課題

受講後、Google Form で小テスト、もしくは簡単なレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。

評価

実習課題とレポートの提出をもって出席とし、採点を行います。

質問・相談

一般的な質問や相談については Google Classroom を使ってください。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義内容について 授業計画について 評価方法と基準
第2回	メディアとアート 絵画・彫刻・ドローイング、写真・映像・インスタレーション	美術における様々な技法やメディアの探究について、その発展と変遷を詳細に考察します。この授業ではメディアの歴史の変遷と共に、アバンギャルドの時代から現代までの現代美術について学んでいきます。美術の歴史的なコンテクストの中で、異なる技法やメディアがどのように位置付けられ、進化してきたのかについて、探究していきます。
第3回	20世紀の美術 未来派・ダダ、シュルレアリスム、アクション、ハプニング、ポップアート、コンセプチュアル・ミニマルアート	第一次世界大戦前後のアバンギャルド芸術運動 (前衛芸術) である未来派、ダダイズム、シュルレアリスムについて学びます。第二次世界大戦で壊滅的なダメージを受けたヨーロッパに代わり、経済力を背景にアメリカが現代芸術の中心地となりました。60年代以降には、概念的なアートや、ハプニング、ランドアートのような従来の絵画や彫刻にとらわれない表現様式が多く登場します。これらの表現は、芸術の領域に現代的な多様性をもたらしました。
第4回	21世紀の美術 新表現主義、YBA、関係性の美術、ソーシャル・エンゲージドアート	1980年代に、アメリカのコマーシャル・ギャラリイから生まれたムーブメント、「新表現主義」について学びます。新表現主義は、表現主義的なスタイルを追求し、絵画における感情的な表現と物質的な豊かさを再評価しました。また、ミレニアム前夜には、イギリスやフランスを中心に、二つの重要な芸術運動が登場しました。「ヤング・ブリティッシュ・アーティスト (YBA)」と呼ばれる運動で、若手アーティストの作品が国際的な注目を集めました。「リレーショナル・アート」は観客との関係性や環境との対話を重視することで、芸術の社会的な役割を再考しました。2010年代には「ソーシャル・エンゲージド・アート」と「ソーシャル・プラクティス」という、社会的な関与をテーマにした芸術運動が注目を集めています。これらは芸術を社会問題に関与させ、社会的な変化を促すことに焦点を当てています。
第5回	ワークショップ1 単元のまとめ・ワークショップ	メディアとアート、20世紀の美術、21世紀の美術の講義内容の確認をします。

第6回	現代美術とパフォーマンス1 パフォーマンス・アートの始まり／アクション、ハプニング、インスタレーション	パフォーマンス・アートは身体を用いて時間的な経過と共に行われる表現行為です。1960年代にアラン・カブローが「ハプニング」、また前衛音楽家のジョン・ケージは「イベント」という言葉を使って芸術の常識を破ろうとしました。70年代からは主にパフォーマンスアートと呼ばれるようになります。
第7回	現代美術とパフォーマンス2 社会と関わるアート／ビデオパフォーマンス、エンデュランスアート、テクノロジーとパフォーマンス、芸術と社会、委託されたパフォーマンス	ソーシャリー・エンゲージド・アートのような社会に対する直接的なアプローチのみならず、どのような時代の芸術作品もその作品が作られた社会と深く結びついています。各時代の社会と関わるアートに関する事例について学んでいきます。
第8回	身体とパフォーマンス パフォーマンス・アート、バレエ、モダンバレエ、モダンダンス、コンテンポラリーダンス、舞踏	パフォーマンス・アーツは視覚芸術であるファインアーツに対して演劇やダンスなどの舞台芸術、行為・アクションによって成立する芸術という意味で使われています。バレエに始まる近代ダンスの変遷、また現代演劇についても触れます。
第9回	音とパフォーマンス 現代音楽 ミュージック・コンクレート、フルクサス、ミニマル・ミュージック	シェーンベルクに始まり、ミュージック・コンクレート、ジョン・ケージの偶然性の音楽、ミニマルミュージックを経て現代に至る現代音楽の流れを美術の世界と比較しながら学んでいきます。
第10回	言葉とパフォーマンス ビート・ゼネレーション、スポークン・ワード、ラップ・ミュージック	シュルレアリスムやコンセプトアートなどのテキストによる美術表現や言葉を使ったパフォーマンスアートと、ポエトリーリーディング/スポークンワードなどの現代詩の世界を比較します。
第11回	ワークショップ2 単元のまとめ・ワークショップ	現代美術とパフォーマンス1、現代美術とパフォーマンス2、身体とパフォーマンス、音とパフォーマンス、言葉とパフォーマンスの講義内容の確認をします。 ワークショップ・パフォーマンス
第12回	美術のある場所 美術館、国際展、アーティスト・イン・レジデンス、アーティスト・コレクティブ、オルタナティブスペース	アートの生まれる場所について、美術館・国際展のような公的な場所、そしてアーティスト・イン・レジデンス、アーティスト・コレクティブやオルタナティブスペースなど。それぞれの場所とそれに関わる人々について学びます。
第13回	批評/キュレーション 批評、モダンアートとコンテンポラリーアート、キュレーション	キュレーターは学術的な専門知識によって美術資料の収集や保管、展覧会の企画や構成、運営などを担当します。また、作品の理解や価値判断に関する美術批評のあり方について学びます。
第14回	ワークショップ3 単元のまとめ・ワークショップ	美術のある場所、批評/キュレーションの授業内容の確認をします。 ワークショップ・スライス・オブ・ライフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Google sites で配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。新型コロナウイルスの感染状況にもよりますが、可能であれば企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google sites を通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019年
デイヴィッド・コッティントン（著者）、松井 裕美（翻訳）『現代アート入門』名古屋大学出版会、2020
小崎哲哉『現代アートとは何か』河出書房新社、2018年
『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定1・2・3級公式テキスト』美術出版社、2014年
『続 西洋・日本美術史の基本』美術出版社、2016年
『新・アートの裏側を知るキーワード』美術出版社、2022年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

普段触れることの少ない現代芸術に関する専門的な内容の講義やワークショップになりますので、とてもやりがいがあると思います。ワークショップではスケッチによるプランや写真作品など簡単な実践に取り組みますが、受講される皆さんは例年課題について積極的に取り組まれているようです。楽しく解りやすい授業を心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のためにGoogle classroomを使いますが、履修に関する情報については学習支援システムを併用しますので、よく確認しておいてください。

【その他の重要事項】

受講希望者が1000人を超えた場合、抽選を行います。抽選方法については学習支援システムを通じて連絡しますので、よく確認をお願いいたします。
実務経験のある教員による授業
稲垣立男はコンテンポラリーアーティスト。フィールドワークによる作品制作と美術教育に関する実践と研究を国内外で実施しており、これらの現場での経験を毎回の講義に反映させています。

【Outline (in English)】

Course outline

This course is about contemporary art theory and practice. Today's contemporary art world is formed by the complex intersection of state-of-the-art (e.g. art, architecture, music, performing arts, images, poetry,) in various fields. The context of contemporary art will be interpreted using keywords such as multiculturalism, relationships and communication as keywords.

Learning Objectives

The lecture will also deal with art fields related to contemporary art, and by examining and taking a bird's-eye view of experimental approaches in various art fields, we will deepen our understanding of those ideas. It seems unfamiliar to everyone, so check the introductory art history and art theory knowledge. In addition, we will hold workshops (learning sensuously and experientially) between lectures to deepen understanding.

Learning activities outside of the classroom

The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.

1. Initiatives for classes (50%)
2. Issues and reports (50%)

See rubrics for specific assessment guidelines.

Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

HUMc200GA

北米文化論（ケベック講座）

廣松 勲

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈S〉〈ア〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、ケベック州政府の寄付講座である。

本授業は、北米のフランス語圏の一つである「カナダのケベック州」をフィールドとして、オムニバス形式で、各分野の専門家や招聘作家・研究者が担当する授業である。言語・文化・歴史・社会・政治といった包括的な側面から、現代のケベック社会を学ぶことによって、一つの地域において複数の価値観（言語、文化、歴史、政治、経済、社会など）が共生する方法を解説・検討することを主たる目的とする。

なお、具体的な授業内容や講演者については、初回授業において改めて通知するため、以下の「授業計画」は予定であることをご理解いただきたい。

【到達目標】

本授業の到達目標は、以下の通りである。

- ① フランス語圏の一例として、ケベック州の社会文化的状況を概説できる。
- ② 多文化・多言語共生の一例として、ケベック州の社会文化的状況を概説できる。
- ③ 一つのフィールドを複数の観点から理解するという方法を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

オムニバス形式の授業によって、できるだけ包括的に「現代のケベック社会」に関する紹介・説明・分析を行う。

具体的な授業の進め方は、以下の通りである。最初と最後の数回の授業（3回程度）では、一人の教科担当者が「導入」や「総括」などを行う。それ以外の授業（11回程度）については、各分野の専門家の先生方などが授業を行うことになる。その内、少なくとも一度は、ケベック州からの招聘研究者による授業内の講演会を実施する（通訳付き）。

なお、毎回授業ではコメントシートを作成・提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	・イントロダクション： フランコフォニーとは何か？	・授業の進め方や最終課題について説明 ・フランス語圏（フランコフォニー）の歴史・社会・言語状況などについて概説
第2回	ケベック州の歴史① ・北米大陸のフランス語圏（フランコフォニー）の広がり ・ケベック州とはどのような地域なのか？	・ケベック州の歴史に注目しつつ、社会状況を概説する
第3回	ケベック州の歴史②	・ケベック州の歴史をより詳しく学ぶ
第4回	ケベック州の地理	・ケベック州の地理を学ぶ
第5回	授業内の講演会	・ケベック州の政治・歴史状況を当事者から学ぶ
第6回	ケベック州の言語	・ケベック州の言語状況を包括的に学ぶ
第7回	ケベック州の政治①	・ケベック州の政治状況を具体例に基づいて学ぶ。
第8回	ケベック州の政治②	・ケベック州の政治状況を理論的に学ぶ。
第9回	ケベック州の社会問題①	・ケベック州の社会問題を具体例に基づいて学ぶ（主権獲得を巡る問題など）。
第10回	ケベック州の社会問題②	・ケベック州の社会問題を具体例に基づいて学ぶ（移民や宗教に関わる問題など）。
第11回	ケベック州の文化①	・ケベック州の文化を具体例に基づいて学ぶ（舞台芸術など）。
第12回	ケベック州の文化②	・ケベック州の文化を具体例に基づいて学ぶ（文学・映画など）。

第13回 ケベック州の文化③

・ケベック州の文化を具体例に基づいて学ぶ（音楽・ダンスなど）。

第14回 総括

・本授業の全体のまとめ
・映像資料などを用いて、現代ケベック州の社会を知る。
・期末レポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・毎回の授業をより深く理解するために、日頃からできるだけ広く・複合的な視点からケベック州（やカナダ）に関する情報を集めてほしい。
・期末レポート執筆のために、配布資料についても熟読してほしい。本授業の準備学習・復習時間は合計4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・テキストは指定しない。各授業において資料などを配布する。

【参考書】

・各分野の参考書は、各授業において提示する。
・全体的な導入となる書籍としては、以下がある。
小畑精和・竹中豊編著『ケベックを知るための54章』エリアスタディーズ・72巻、明石書店、2009年。

【成績評価の方法と基準】

・平常点と期末レポートに基づき、総合的に評価する。
①平常点（コメントシートなど）：40%
②期末レポート：60%
・期末レポートでは、本授業で扱われたいずれかの専門分野・側面を参照しつつ、自ら選択したテーマについて論じてもらう。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

・14回という少ない回数だが、授業内容について、可能な限り多様になるよう心がける。
・質疑応答の時間を、可能な限り長く設けるようにする。

【その他の重要事項】

・第一回授業において、各授業の担当者・内容などを記載した資料を配布するため、必ず出席してほしいです。
・毎年度秋学期に開講予定の授業ですが、ケベック州政府寄付講座であるため、事情によって「閉講」となる年度もありえます。

【Outline (in English)】

This course introduces the key themes for a deeper understanding of the socio-cultural situation of the province of Québec (Canada). In 14 courses, we will deal with a variety of themes or problematics of the contemporary Québec (politics, social problems, economics, music, cinema, literature, etc). Each course will be given by the specialists of each research domain.

The goals of this course are to understanding and explaining the socio-cultural situation of Quebec.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read the relevant documents.

Your overall grade in the class will be decided based on the followings: in class contributions (discussion, reaction paper, etc): 40%, term-end report: 60%.

LIT200GA (文学 / Literature 200)

フランス語圏の文化Ⅲ (歴史)

ルルー 清野 ブレンダン

配当年次/単位：1～4年/2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈ア〉〈ダ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業ではフランス語圏の歴史を、フランスの植民地帝国という導きの糸に沿って、様々なテーマについて考えながら勉強していきます。現在の「フランス語圏」(pays / régions francophones)のほとんどがフランスの植民地帝国にその由来をたどることができますので、フランスの植民地帝国を勉強することにより世界各地に広がるフランス語圏の諸地域との関係性が明らかになるはずです。

【到達目標】

この授業では、学生達はフランスの植民地帝国を導きの糸にフランス語圏の歴史に関する様々な側面を探索したり、論じたりします。授業終了時には、それらのトピックに関する様々な概念や問題点を深く理解し、以下のことができるようになるでしょう。

- ①フランスの植民地帝国について基本的知識を獲得し、説明できる。
- ②植民地の概念を概ね理解できる。
- ③世の中の動きを歴史的に考えるための視点を獲得する。
- ④フランス語圏への留学に備える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業では、学生達は様々な資料(歴史的文章、論文、図や絵画...)を分析し、それについて議論したり、質問に答えたりします。教員は重要な事実や概念を説明するためにスライドを使用し、できるだけ双方向的かつ参加型にする予定です。学生達はグループワーク等を通じて学生同士で協力して資料を理解し、質問に答えることで、フランスの植民地帝国を導きの糸にフランス語圏の歴史に関する共通の知識を築いていくことを目指します。

この授業では、学生同士そして学生と教員とのやりとりは基本的に日本語で行われます。従って、履修者は大学レベルの日本語の基礎知識を持っていることが期待されます。しかしこの授業を受講するのに完璧な日本語力が必要ではありません。必要に応じて、難しい用語などを英語で補足説明をします。歴史や資料、特にフランスの植民地帝国及びフランス語圏の歴史に興味があることはこの授業を履修する大きな同期付けと言えます。

また、「フランス語圏の文化」という授業題名ですので使用する資料の多くはフランス語になりますが、必ずしもそれらを完璧に読解する必要はありません(並行して訳文を使う場合もあります)ので、フランス語の能力というよりはフランス語(圏)への興味が必要です。

この授業で成功する鍵は、毎週の予習と復習、そしてクラスでのディスカッションに積極的に参加することです。

宿題や質問事項等に関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが、Hoppiiを通じて行う場合もあります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	植民地とは何か	植民地の定義、概要、類型
②	フランス植民地帝国の名残	罵る言葉、オランジーナ、サブール、ルイジアナ州、ケベック州等
③	フランス植民地帝国の発端	ブラジル、北米、修道女、先住民
④	帝国を統治する	帝國的な戦略、同化政策、植民地行政の誕生
⑤	植民地の経済	貿易会社、クレオールのエリート、エキゾチックな商品

⑥	植民地と奴隷制①	大西洋の三角貿易, "Code noir"
⑦	植民地と奴隷制②	奴隷の日常, 奴隷による反乱
⑧	植民地と「人種」	「人種」の創造, ジェンダー・人種・性
⑨	帝国の解体①	七年戦争, フランス革命の矛盾
⑩	帝国の解体②	ハイチ革命, ボナパルトの植民地政策
⑪	帝国の復興	ハイチ, アルジェリア, 奴隷制の廃止, 征服
⑫	植民地における差別	"indigénat"制度, 様々な人種, 分裂した都市
⑬	植民地における対立・衝突	抵抗運動, 植民地の拒否
⑭	「植民地帝国兼国家」というユートピア	植民地博覧会, 反植民地主義, 第2次世界大戦と植民地

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

予習、復習、課題や発表の準備が毎回求められます。大学設置基準によれば、2単位の講義及び演習の準備・復習時間は1回につき4時間以上とされています。

【テキスト (教科書)】

ほぼ毎回授業中に配布しますので、教科書を購入する必要はありません。

【参考書】

Pierre Singaravélou (dir.), "Colonisations. Notre histoire", éditions du Seuil, 2023

それ以外の参考書については必要に応じて授業中に指摘します。

【成績評価の方法と基準】

- ・発表やリフレクションシート、小テスト(クイズ等):約 70 %
- ・出席点:約 30 %

※欠席 1 回につき、「出席点」が 10%下がる。3 回以上欠席した場合は不合格となり、単位はもらえない。何らかの理由で欠席した場合は、直ちに教員にメール等で連絡して説明すること。正当な理由なく 20 分以上遅刻した場合は、欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

(初めての授業なので、該当しない。)

【Outline (in English)】

The main purpose of this course is for students to acquire knowledge and think about the history of the French colonial empire. One other purpose is for the students to learn about and use methods to read and analyse diverse categories of documents, written mainly in French.

It is not a goal of this course to acquire proficiency in Japanese, or any other language, therefore students are welcome whatever their language proficiency is.

Students will deal with reading (or watching...) various documents, study the vocabulary, and will discuss these and try to answer questions about them.

The format of the course will be as interactive and participatory as possible, with the help of screened slides in order to explain important facts and/or concepts. Classes will focus on group work, cooperation between students to understand the texts and answer questions, in order to build a common knowledge about the the history of the French colonial empire and its links to the "francophone" world.

The key to success in this course is weekly preparation and review of the class content, and active participation during class discussion.

The grading criteria shall be as follows:

- ・Presentations, reflection papers, short tests, etc: app.70 %
- ・Attendance: app. 30%

HIS300GA (史学/History 300)

カタルーニャの文化Ⅲ (歴史・社会A)

DANIEL FORTEA MUNOZ

配当年次/単位：2～4年/2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈ダ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「バルセロナ」、「ガウディ」、「ダリ」、「バルサ」、「人間の塔」…。近年の独立問題をきっかけに、これらの言葉をスペインにはなく、むしろカタルーニャに関連づける人が増え始めてはいるに違いありません。しかし、それはカタルーニャの魅力の氷山の一角に過ぎないのです。

この授業は、カタルーニャの歴史・文化・社会を知るための入門であると同時に、批判的な視点を培いつつ、世界の事情とのつながりを探求することも目的とします。スペインにありながらスペインではないという曖昧な状況を体現するカタルーニャには、例のない独特な文化のみならず、今日のグローバル化社会を理解するための矛盾=ヒントも多く見出されます。

最後に、この授業の続きとして「カタルーニャの文化Ⅳ (歴史・社会B)」もあるので、関心を持った人はぜひ、最後まで付き合ってください。なお、カタルーニャの世界に本格的に触れるために、カタルーニャ語の知識も欠かせないので、並行して「カタルーニャの文化Ⅰ (言語A)」および「カタルーニャの文化Ⅱ (言語B)」を履修することを強く推奨します。

【到達目標】

- ① カタルーニャの歴史・文化・社会に関する一般的な知識を身につけること。
- ② カタルーニャと世界とのつながりを視野に入れた研究・論述・議論を行うこと。
- ③ カタルーニャの歴史・文化・社会に関心を持ち続けるモチベーションを見つけていくこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ① 授業態度：主体的に学習しようとする姿勢や、ディベートに積極的に参加したりする関心・意欲です。
- ② アクティブラーニング：学生が選んだカタルーニャに関するテーマの個人的なレポートです。
- ③ 自習ファイル：カタルーニャの歴史・文化・社会に関する自主的な活動を証明するファイルの提出です。
- ④ 確認テスト：自分のタイミングで答える宿題として、それぞれの授業内容を確認するための自由記述式のテストです。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス	授業の進め方の説明。
2.	先史・古代史・中世史	おおよそ15世紀まで。
3.	近代史	おおよそ16世紀から19世紀初頭まで。
4.	現代史	おおよそ19世紀から現在まで。
5.	バルセロナの都市空間史	都市空間を分析する妥当性、歴史的な変貌、大型イベント、現代のジェントリフィケーションなど。

6.	言語	カタルーニャ語の形成過程、各地域の特徴、現状など。
7.	文学	各時代の文学の特徴や主な作家、名作の紹介など。
8.	民俗文化	祭りと習俗 (クリスマス、サン・ジョルディの日、パトゥム、サン・ジュアン祭り)、民俗芸能 (人間の塔、サルダナ)、闘牛の禁止など。
9.	芸術 (Ⅰ)	ロマネスク、ガウディ、ピカソ、ミロ、ダリなど。
10.	芸術 (Ⅱ)	ロマネスク、ガウディ、ピカソ、ミロ、ダリなど。
11.	音楽	クラシック音楽、ノバ・カンソ、現代音楽など。
12.	食文化	伝統的な料理と行事食、現代の超創作料理など。
13.	スポーツ	巡検運動、人民オリンピック、バルセロナオリンピック、FCバルセロナの特性、スポーツと政治の関係など。
14.	映画鑑賞&ディスカッション	カタルーニャの映画を観てから、グループでディスカッションを行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

少なくとも180分の予習と60分の復習を必要とします。ただし、時間の「長さ」はもちろん、その「質」も非常に大事です。例えば、集中の妨害や先延ばしを引き起こしやすい要素をなるべく避けることが肝心です。

【テキスト (教科書)】

立石博高/奥野良知編 (2013) 『カタルーニャを知るための50章』明石書店。

【参考書】

教場ではより細かい参考書リストを提供します。
田澤耕 (2013) 『カタルーニャを知る事典』平凡社。
—— (2019) 『物語 カタルーニャの歴史——知られざる地中海帝国の興亡』増補版、中央公論新社。
立石博高/奥野良知編 (2013) 『カタルーニャを知るための50章』明石書店。
Dominic Keown (ed.), 2011, *A Companion to Catalan Culture*, Boydell & Brewer.
Dowling, Andrew, 2022, *Catalonia: A New History*, Routledge.

【成績評価の方法と基準】

- ① 授業態度 [30%]
 - ② アクティブラーニング [30%]
 - ③ 自習ファイル [20%]
 - ④ 確認テスト [20%]
- 成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

本シラバスは授業の進捗状況や受講生の関心などに合わせて、適宜変更される可能性があります。また、社会状況を鑑みて、一部の授業をオンラインで行う可能性があります。

【助教機関】

本科目はラモン・リュイ財団の助成を受けて開講されています。

【Outline (in English)】

【Course outline】

“Barcelona”, “Gaudi”, “Dali”, “Barça”, “human towers” … Because of the recent Catalan independence movement, many people have started to relate these words not to Spain, but to Catalonia. However, they are not but the tip of the iceberg of what Catalonia has to offer.

This class is not only meant as an introduction to Catalonia's history, culture and society, but also aims to cultivate critical thinking and search connections to world affairs. Being in Spain, but at the same time not being Spain proper, Catalonia incarnates an ambivalent situation. However, it is precisely within this complexity that one can find not only the uniqueness of its culture, but also numerous contradictions which become hints for understanding today's global society.

Finally, this class is followed by "Catalan Culture IV (History and Society B)", so those who have interest in it, please do not hesitate to take them both. Besides, in order to have a genuine approach to the Catalan world, Catalan language becomes necessary, so I would highly recommend you to take "Catalan Culture I (Language A)" and "Catalan Culture II (Language B)" as well.

[Learning Objectives]

1. Acquire a general knowledge about Catalonia's history, culture and society.
2. Research, communicate and discuss critically on Catalonia and its linkage to the world.
3. Find motivation so as to continue having interest in Catalonia's history, culture and society.

[Learning activities outside of classroom]

It is necessary at least 180 minutes for preparing and 60 minutes for reviewing each class. However, it is very important to pay heed not only to the "amount" of time, but also to its "quality". For example, it is essential to avoid distractions and factors that may cause procrastination.

[Grading Criteria / Policy]

1. Class participation (30%)
2. Active Learning (30%)
3. Self-study file (20%)
4. Confirmation test (20%)

100 being the best possible grade, it is necessary to reach at least 60 to pass the course.

ARSA200GA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 200)

フランス語圏の文化Ⅳ (複言語・複文化社会)

廣松 勲

配当年次/単位：1～4年/2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

世界5大陸に広がるフランス語圏(フランコフォニー)社会を「複言語・複文化社会」と捉えた上で、それぞれの社会において複数の言語文化が、どのように共存しているのか、またはどのように軋轢が解消されているのかを論じる。

具体的には、カリブ海域諸島、カナダのケベック州、北アフリカ・マダガスカル、サハラ以南アフリカ、フランス語圏ヨーロッパなどにおける言語・社会状況を解説することで、フランス語圏社会の普遍性と差異を提示する。

【到達目標】

- (1) フランス語圏社会が複言語・複文化が共存する社会であることを具体的に知る。
- (2) 言及する各社会において、言語・文化の多様性がどのようにして維持されているのかを知る。
- (3) 言及する各社会において、「現地言語・文化」と「フランス語・文化」とが、どのような関係にあるのかを述べられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

日本語で行われる講義形式の授業である。フランス語の予備知識は特に必要としない。

2～3コマごとに言及する地域を変更しながら、それぞれの地域特性(歴史・政治・社会・言語状況など)を解説する。紙媒体の配布資料の他に、映画や音楽も参照しながら、具体的に各地域のフランス系文化について説明を行う。

毎回の授業においてコメントシートを執筆・提出してもらい、できるだけ次回以降の授業に反映させる。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要や評価の説明 ・「フランス語圏(フランコフォニー)」とは、いかなる概念なのか? ・具体的なフランス語圏地域の解説
2	I. カリブ海域諸島①	・カリブ海域諸島の歴史、社会および言語状況の説明 【マルチニク島】 ・フランス語とクレオール語の関係
3	I. カリブ海域諸島②	【グアドループ島】 ・クレオール語の地位復権運動
4	I. カリブ海域諸島③	【クレオール文学運動】 ・クレオール語表現文学の可能性 ・その他の島々とのつながり
5	II. カナダ・ケベック州①	・北米大陸の歴史、社会および言語状況の説明 【ケベック】 フランス系カナダ人からケベック人へ ・フランスのフランス語とケベックのフランス語の関係
6	II. カナダ・ケベック州②	【ケベック】：インターカルチャーとトランスカルチャー ・母語とフランス語の関係
7	II. カナダ・ケベック州③	【移動するエクリチュール】 ・その他の北米フランス語圏とのつながり
8	III. マダガスカル(北アフリカ諸国)①	・マダガスカル島の歴史、社会および言語状況の説明 【アルジェリア】 ・アラビア語、ベルベル語、フランス語の関係
9	III. マダガスカル(北アフリカ諸国)②	【モロッコ】 ・アラビア語、ベルベル語、フランス語の関係

10	III. マダガスカル(北アフリカ諸国)③	【チュニジア】 ・アラビア語、ベルベル語、フランス語の関係
11	IV. サハラ以南のアフリカ①	・サハラ以南のアフリカの歴史、社会および言語状況の説明 【セネガル】 ・アフリカ諸語とフランス語との関係
12	IV. サハラ以南のアフリカ②	【ルワンダ、コンゴ民主共和国】 ・アフリカ諸語とフランス語との関係
13	V. ヨーロッパのフランス語圏①	・ヨーロッパのフランス語圏の歴史、社会および言語状況の説明 【ベルギー】 ・フランス語、フラマン語、ドイツ語の関係
14	V. ヨーロッパのフランス語圏② 総括	【スイス】 ・フランス語、ドイツ語、イタリア語、ロマンシュ語の関係 【総括】 全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

期末レポート作成のためでもあるが、日頃から文学・映画・音楽・言語政策など、できるだけ多くフランス語圏の情報を収集すること。

授業で言及・提示する資料の邦訳(可能であれば原典)などにも当たり、できるだけ理解を深めること。

本授業の準備学習・復習時間は合計4時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

- ・特になし。
- ・毎回、関連資料を配布する。

【参考書】

授業内容の理解やレポート作成の際に参考となる書籍や図書館の蔵書を、以下に挙げる。希望者には、さらに詳しく参考書などを提示する。

- ・鳥羽美鈴著、『多様性の中のフランス語：フランコフォニーについて考える』関西学院大学出版会、2012年。
- ・平野千香子著、『フランス植民地主義の歴史』人文書院、2002年。
- ・中村隆之著、『カリブー世界論』人文書院、2013年。
- ・小畑精和著、『ケベック文学研究』御茶の水書房、2003年。
- ・明治大学中央図書館所蔵の「ケベック文庫」
- ・鶴戸聡著、『アラブ・フランコフォニーと越境の文学』『反響する文学』(土屋勝彦編、名古屋市立大学『人間文化研究叢書』創刊号)、風媒社、2011年。
- ・梶茂樹・砂野幸稔編著、『アフリカのこぼれと社会：多言語状況を生きるということ』三元社、2009年。
- ・岩本和子著、『周縁の文学：ベルギーのフランス語文学にみるナショナルリズムの変遷』松籟社、2007年。
- ・法政大学多摩図書館所蔵の「スイスロマンド文学コレクション」

【成績評価の方法と基準】

- ・評価配分は、以下の通り
- ①平常点(コメントシートなど)：30%
- ②期末レポート：70%

・評価は、主に平常点と期末レポートによって行う。レポート作成については、各自がいずれかの地域(または国)における資料や作品を一つ選んだ上で、複数の言語や文化がどのような方策によって共存しているのかを論じてもらう。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

配布資料に基づいた説明が緩慢にならないように、できる限り映像・音声資料なども盛り込むことでメリハリをつけるようにする。

【その他の重要事項】

フランス語の知識は前提としません。

【Outline (in English)】

This course aims to enhance understanding of the situation of the French-speaking world (la francophonie) in focusing on the social problems concerned with French language. For this purpose, we will learn from a global perspective about the history and social situation of each countries or regions around the world.

The goals of this course are to understanding and explaining the socio-cultural situation of each French speaking regions.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read the relevant documents.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: in class contributions: 30%, term-end reports: 70%.

HIS300GA (史学/History 300)

宗教社会論Ⅱ

佐々木 一恵

配当年次/単位：3～4年/2単位

旧科目名：宗教社会論Ⅱ (キリスト教と社会運動)

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

キリスト教は様々な社会思想と結びつきながら、近現代社会における諸問題に対する改革運動を、世界各地で展開してきました。この授業を通じて、学生は19世紀以降におけるキリスト教を基盤とする社会運動が、どのように近現代社会における諸問題(労働問題・人種差別・貧困・ジェンダー問題・植民地主義など)を捉えたのか、また新たな社会思想(進化論、社会主義、フェミニズム、など)とどのように関わりをもっていったのかを、社会思想史・社会運動史の立場から分析し議論していきます。

【到達目標】

1. 近現代のキリスト教に基づく社会運動を考える上で、重要な基本概念や理論について理解できるようになる。
2. 宗教と社会運動の関係を、社会思想や歴史意識の視点から分析できるようになる。
3. キリスト教に基づく社会運動に関する簡単な史料分析を行えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

●各回ごとに、取り上げる運動と関連する聖書の箇所、運動を理解するための社会理論や分析概念、運動の具体的な内容を主に講義形式で説明していきます。

●各回ごとに、関連する一次史料の分析を、リアクション・ペーパーにまとめて提出してもらいます。

●提出されたリアクション・ペーパーについては、翌週の授業で複数紹介しながら講評します。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	キリスト教という宗教の成り立ち、そして世界史の中におけるキリスト教を概観する。
2	千年王国論と救済・終末・ユートピアニズム	キリスト教の終末思想を概観する。千年王国論や救済史について議論し、それが近現代の思想と運動にどのように結びついていったかを考える。
3	信仰復興運動と奴隷制廃止運動	19世紀初頭の信仰復興(リバイバル)運動が、どのように奴隷制廃止運動および女性解放運動と関連していたかを議論する。
4	海外宣教運動と帝国主義	キリスト教の海外宣教の歴史を概観するとともに、19世紀半ばから20世紀初頭にかけてのキリスト教海外宣教運動と、欧米帝国主義との関係を、社会進化論や文化帝国主義の議論を交えながら検討する。

5	世界キリスト教婦人矯風会の理念と活動	アルコール中毒を、家庭と社会を滅ぼす罪悪とみなし、活動を展開したキリスト教婦人矯風会の運動を、キリスト教思想と当時の「家庭の領域」の議論を踏まえながら議論する。
6	社会的福音運動とリベラル神学	19世紀末から20世紀の初頭にかけて、スラム街などにおける貧困・労働・公衆衛生・教育などの問題に取り組んだ、社会的ゴスペル運動の理念と活動とその影響について考える。また、1920年代におけるリベラル神学と根本主義(ファンダメンタリズム)の対立についても議論する。
7	日本におけるキリスト教の思想と運動	明治・大正期における日本におけるキリスト教の展開とその神学的特徴を概観する。また、救世軍運動や日本キリスト教婦人矯風会の活動や、日本におけるキリスト教社会主義の運動の展開について議論する。
8	アジアにおけるエキュメニカル運動	エキュメニカル運動が出てきた歴史的背景とアジアにおける展開を概観する。また、それぞれの地域における民衆神学の展開について議論する。
9	アメリカにおける黒人運動と出エジプト記	出エジプト記・ヨシヤ記が、被抑圧者に与えた解放に向かう想像力について理解する。そこから、19世紀半ば以降のアメリカにおける黒人の社会運動の展開について議論する。
10	ラテン・アメリカにおける解放の神学	ラテン・アメリカにおいて、解放の神学が興隆してきた歴史的背景を概観するとともに、その思想と活動実践について議論する。
11	キリスト教とファンダメンタリズム	アメリカにおけるファンダメンタリズムの思想を概観するとともに、その教義・運動がアメリカ社会に与えている政治的・文化的インパクトについて議論する。
12	キリスト教とジェンダー	キリスト教思想における女性観を概観するとともに、現代社会における性・ジェンダー問題とキリスト教の関係について議論する。
13	キリスト教とセクシュアリティ	キリスト教とセクシュアリティの係を歴史的に概したのち、昨今のクィア神学の取り組みについて議論する。
14	期末課題	期末試験

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎回の授業の復習をしっかりと行い、重要な概念や理論、また社会運動の特徴について把握しておいて下さい。毎回のリアクション・ペーパーでは、別の回の授業で取り上げた運動やそれに関連する概念や理論を結び付けて議論することもあります。復習を通じて、概念・理論・用語を分析のツールとして使えるようにしておいて下さい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

教科書は使用しません。

【参考書】

- 岩井淳『千年王国を夢見た革命』講談社、1995年。
- 田村秀夫『千年王国論—イギリス革命思想の源流』研究社、2000年。
- 森本あんり『アメリカ・キリスト教史：理念によって建てられた国の軌跡』新教出版社、2006年。
- 小椋山ルイ『帝国の福音—ルーシー・ピーボディとアメリカの海外伝道』東京大学出版会、2019年。
- グスタボ・グティエレス『解放の神学』岩波書店、2000年。
- 土肥昭夫『日本プロテスタント教史』新教出版社、2004年。

○アリストター・E・マクダラス『プロテスタント思想文化史』新教出版社、2009年。

○Motoe Sasaki, *Redemption and Revolution: American and Chinese New Women in the Early Twentieth Century* (Cornell University Press, 2016).

○ミラ・ゾンターク『＜グローバル・ヒストリー＞の中のキリスト教—近代アジアの出版メディアとネットワーク形成』新教出版社、2019年。

○パトリック・S・チェン（工藤万里江訳）『ラディカル・ラブクイア神学入門』新教出版社、2014年。

【成績評価の方法と基準】

- 1.リアクションペーパー（30%）
- 2.期末試験（70%）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンやパソコン等情報機器が必要です。

【Outline (in English)】

The course provides historical background on the relationship between religion and social movements by paying special attention to the Christian religion. It explores the ways that Christianity, along with the other modern ideas and practices such as the Enlightenment, romanticism, social Darwinism, utopianism, socialism, and nationalism, influenced the development of abolitionism, feminism, colonialism/imperialism, labor movements, decolonization movements, and civil rights movements.

By the end of the course, students are expected to be able to: 1) understand the basic concepts and theories that are important in examining the relationship between social movements and Christianity, 2) analyze the relationship between religion and social movements from the perspective of historical consciousness, and 3) conduct a basic historical analysis of social movements based on the ideas of Christianity.

Students will be expected to review each class to: 1) understand the important concepts, theories, and characteristics of social movements, and 2) be able to use the concepts and theories as tools for analysis. In each reaction paper, students may be required to analyze the connection between the movements and the theories that were covered in previous classes.

Students are expected to spend 4 hours per week working on homework, revision, and assignments.

The final grade will be decided by reaction paper (30%) and the final assignment (70%).

HIS300GA (史学/History 300)

宗教社会論Ⅲ (イスラーム思想)

久木 正雄

配当年次/単位：2～4年/2単位

旧科目名：宗教社会論Ⅲ (イスラーム思想)

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈ダ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

イスラーム学に初めて触れる学生が、イスラームの教義と思想およびムスリムの歴史、社会、文化に関する基本的な知識を得るとともに、他の宗教や宗派・教派といった「異文化」との関係性について考える。

【到達目標】

イスラームとムスリムへの理解と関心を深めるとともに間文化的な視点を養い、各自の考えをリアクションペーパーと学期末レポートにおいて精確に言語化することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。毎回の授業の最後に学生からリアクションペーパーを提出してもらい、次の回の授業の中でそれに対するフィードバックを行う。リアクションペーパーの提出とフィードバックに関しては、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方を確認した上で、受講生と教員との間で問題関心を共有する。
2	世界の諸宗教とイスラーム	世界のさまざまな宗教の中でイスラームが占める位置と、それらの関係性について学ぶ。
3	イスラームの成立	ムハンマドの人物史を軸に据えて、イスラームの成立について歴史的な観点から学ぶ。
4	六信五行とムスリムの生活	イスラームの世界観と価値観、そしてそれらに基づいたムスリムの生活について知る。
5	ウンマと国家	ウンマ (イスラーム共同体) をめぐる思想と、国家との関係について学ぶ。
6	クルアーンとハディース	イスラームの二大聖典であるクルアーンとハディースについて、それぞれの内容を概観的に知る。
7	シャリーア	シャリーア (イスラーム法) と法学者および諸学派について学ぶ。
8	スーフイズム	スーフイズム (イスラーム神秘主義) の特徴を学ぶ。
9	スンナ派とシーア派	イスラームの二大宗派であるスンナ派とシーア派について、それぞれの特徴を学ぶ。
10	イスラームと改宗	イスラームと他の宗教の間での改宗現象について、世界史の観点から学ぶ。

11	「イスラーム世界」と「西洋世界」	「イスラーム世界」と「西洋世界」の関係について、これらの用語を批判的に定義した上で考察する。
12	日本におけるイスラーム	日本におけるイスラームの受容について、歴史的な観点から学ぶ。
13	イスラームと現代世界	現代におけるイスラームのあり方について、他の宗教や文化圏との関係の中で考察する。
14	まとめ	今学期の学習内容を総括的に振り返る。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

準備学習として、事前に指示したテキストの範囲または配布した資料を熟読しておくこと。復習として、各回の内容を各自の問題関心に照らしながら咀嚼し直し、学期末レポートに備えること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

東長靖『イスラームのとらえ方』山川出版社 (世界史リブレット)、1996年、ISBN9784634341500、本体価格729円。

【参考書】

- 小杉泰『イスラームとは何か—その宗教・社会・文化』講談社 (講談社現代新書)、1994年、ISBN9784061492103、本体価格1,000円。
- 後藤明『イスラーム世界史』KADOKAWA (角川ソフィア文庫)、2017年、ISBN978044002640、本体価格1,240円。
- 高山博『ヨーロッパとイスラーム世界』山川出版社 (世界史リブレット)、2007年、ISBN9784634345805、本体価格729円。
- 水谷周編著『イスラーム信仰と現代社会』国書刊行会、2011年、ISBN9784336052131、本体価格2,500円。
- 宮田律『イスラームがヨーロッパ世界を創造した—歴史に探る「共存」の道』光文社 (光文社新書)、2022年、ISBN9784334046088、本体価格1,080円。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーに基づく平常点：40%、学期末レポート：60%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度から新規に担当する科目のため、特になし。ただし、受講生の多様な問題関心を恒常的にすくい上げて授業に反映させることに努める。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

- この授業は、イスラームに関してもその他の宗教に関しても宗教教育を目的としたものではなく、宗教とその信仰集団を専ら学問の対象としてのみ扱う。
- アラビア語などの外国語の運用能力の有無は問わない。

【Outline (in English)】

《Course outline》

This course is designed to provide students with a basic understanding of Islam and Muslims, and intercultural perspectives to other religions and denominations.

《Learning Objectives》

Students will gain the basic knowledge of religion, history, society and culture of Islam and Muslims, the intercultural perspectives between different religions and denominations, and the ability of express your ideas accurately in reaction papers and term-end report.

《Learning activities outside of classroom》

Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

《Grading Criteria / Policy》

Your overall grade in the class will be decided based on the following: reaction papers (40%), and term-end report (60%).

ARSk300GA (地域研究 (地域間比較) / Area studies(Interregional comparison) 300)

人の移動と国際関係Ⅱ

高柳 俊男

配当年次/単位：2~4年/2単位

旧科目名：人の移動と国際関係Ⅱ (朝鮮民族のディアスポラ)

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：-

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

朝鮮民族のディアスポラ (離散) について考察する。

私たちの暮らす日本社会には、「在日韓国人」「在日朝鮮人」「在日コリアン」などと呼ばれる韓国・朝鮮系の人々が大量住んでいるが、同様の現象は中国・旧ソ連・アメリカなど、世界各地で見られる。これらの人々が朝鮮半島を離れ、各地に移住した歴史やその後の変化、とくに現地社会での他民族との衝突や共生の営みを、各種の研究結果や教員自身の見聞をもとに、ともに考える。

朝鮮民族の移動と定着という個別のテーマを探求することを通して、移民過程や移住地での多文化共生・文化の変容という、世界に普遍的にみられる現象への理解につながるようにする。

【到達目標】

- ・各地に暮らす朝鮮民族について、その形成の歴史や現状の概略を理解する。
- ・それらをもとに、朝鮮民族のディアスポラ (離散) 全体について考察する。
- ・朝鮮民族の事例を普遍化し、移民や多民族共生全般について考える契機をつかむ。
- ・とりわけ私たちの住む日本における移民や多民族共生について、具体性を伴いつつ考えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

世界各地に散らばっている朝鮮民族について、中国・旧ソ連・日本・アメリカを中心に、各数回ずつ取り上げて講義する。関連する映像資料を随時使用し、条件が許せばゲストをお招きした授業を実施したこともある。

毎回、授業の最後に、感想や疑問・質問などをリアクションペーパーに書いてもらい、それを次回の授業冒頭で活用するなど、限定的ながら双方向的な授業になるよう心がけている。

また、ネット上の学習支援システムを、もう1つの授業の場として活用し、授業の補足や発展に資したい。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業計画の解説、参考書紹介、受講理由書の記入など。導入として、日本の各界で活躍する外国ゆかりの人物について触れる。
第2回	概況	ディアスポラ概念および朝鮮民族のディアスポラの概要について、まず学ぶ。
第3回	朝鮮内ディアスポラ	朝鮮内における歴史的な人口移動の典型として、火田民・土幕民の存在とその実態を知る。
第4回	中国の朝鮮族①	多民族国家中国の少数民族の一つに位置づけられる朝鮮族について、その概要を知る。
第5回	中国の朝鮮族②	前回学んだ中国の朝鮮族について、映像視聴を通してさらに深く探る。
第6回	旧ソ連の高麗人①	旧ソ連の高麗人 (朝鮮系の人々) について、その概要を知る。とくに、スターリンによる1937年の強制移住について学ぶ。
第7回	旧ソ連の高麗人②	前回学んだ旧ソ連の高麗人について、映像視聴を通してさらに深く探る。
第8回	在日韓国・朝鮮人①	私たちにとって一番身近であるはずの在日韓国・朝鮮人については、回数をかけて重点的に学ぶ。今回はまず、その概要として、形成史を知る。
第9回	在日韓国・朝鮮人②	在日韓国・朝鮮人史に関して、とくに海峡を越えた人の移動の観点から再整理する。

第10回	在日韓国・朝鮮人③	海峡を越えた人の移動の一つで、現在にも大きな影響を及ぼしている1959年からの北朝鮮帰国事業について、詳しく学ぶ。
第11回	在日韓国・朝鮮人④	在日韓国・朝鮮人についてここまで学んできた内容を、映像視聴を通してまとめる。
第12回	在日韓国・朝鮮人⑤	在日韓国・朝鮮人についての最終回として、若い世代の変化しつつあるアイデンティティについて考察する。
第13回	在米コリアン	在米コリアンについて、ごく大まかな概要と、とくに1992年のロス暴動に関して学ぶ。
第14回	海外養子問題	韓国から戦後、孤児や私生児などが多数、養子として欧米に送られた。近年、当事者自らによってつくられた映画も紹介しながら、この問題を重点的に考察する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回配付するプリントに「自習課題」を設定し、同じものを学習支援システム上にも載せる。これは「自習」なので必ずしも提出を要しないが、認識を深化させるためにもやってみることをお勧めする。提出した学生には、たとえば就職活動による授業の欠席などを補う要素として加味する。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

特定の書籍をテキストとしては使用せず、毎回、A3で表裏1枚のプリントを作成して配付する。

【参考書】

参考文献はそのつど指示するが、事典として『韓国朝鮮を知る事典 (新版)』(平凡社)、『岩波小辞典 現代韓国・朝鮮』(岩波書店)、『世界民族問題事典』(平凡社)、『世界民族事典』(弘文堂)、『人の移動事典：日本からアジアへ・アジアから日本へ』(丸善出版)などを適宜参照すること。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出するリアクションペーパーに反映された授業に取り組む姿勢40%、学習支援システムを利用した中間での小課題20%、学期末のレポート40%を基準とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

過去のアンケートでは、「映像を使っているのがわかりやすい」「ゲストを招いての対談がよかった」「学部の中でもすばらしい授業の一つ」、などの好評をいただいた。

今回も、そうした授業になるよう努力したい。

【その他の重要事項】

朝鮮半島の歴史や文化についての一定の知識を前提に話を進める、やや応用篇の授業である。事前に、毎年開講の「朝鮮語圏の文化Ⅰ 朝鮮半島の文化史」を受講しておくことが望ましい。未受講の場合は、そうした前提知識を自分で補うよう努めながら授業に臨むこと。

また、中華系や日系の移民を扱う「人の移動と国際関係Ⅰ」「人の移動と国際関係Ⅲ」(ともに隔年開講)も用意されているので、あわせて受講することをお勧めする。

【Outline (in English)】

This class examines the history and present condition of Korean residents living in various countries around the world. Through the case of Koreans, students are expected to think universally about the migration, settlement, ethnic conflicts, and integration. Final grade will be calculated according to the following process. Reaction papers for each class 40%, mid-semester report 20%, and term-end report 40%.

ARSA400GA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 400)

地域協力・統合

大中 一彌

配当年次/単位：2～4年/2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉〈ダ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「ヨーロッパとは何か」という問いに、自分なりの答えを言えるようになるのがこの授業の目的です。授業を紹介するショート動画をご覧ください <https://youtube.com/shorts/iaK97j-Q6ss> 学内には他にもヨーロッパ関連の科目がありますが、これらの授業と比較した時の、本授業「地域協力・統合」の特色は、高校までの世界史の知識を確かめながら、思想史や文化史に軸足を置きつつ、これからの国際社会で活躍する人材が身に付けておくべき基礎教養として、「ヨーロッパとは何か」について学ぶ点にあります。過去と現在を往復しながら、とくにヨーロッパと、その外部とされるものの境界 (ボーダー) に焦点をあてつつ、認識をほりさげていきます。

【到達目標】

- ①「ヨーロッパ」の地理的広がりについて、みずからの考えを述べるができる。
- ②古代ギリシア、ヘレニズム、古代ローマの文化的・政治的・哲学的遺産と「ヨーロッパ」を関連付けて (専門家としてではなく) 学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ③西ローマ帝国崩壊前後以降、10世紀にいたるゲルマン人、ノルマン人、スラブ人の民族大移動と「ヨーロッパ」の形成を、各国史との関係で (専門家としてではなく) 学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ④カトリシズムを軸として形成される中世の西ヨーロッパと、正教を軸として形成される東ヨーロッパや、イスラームの拡大を関係づけつつ (専門家としてではなく) 学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ⑤ルネサンス期を特徴づけるユマニスムの人間論上の意義、大航海時代における非ヨーロッパ地域への影響、宗教改革がもたらした信仰と政治の関係性について、(専門家としてではなく) 学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ⑥中央集権化やヨーロッパ外における植民地をめぐる争い、「文芸の共和国」の出現など、一連の政治的文化的な変化を背景としつつ、商業の発展をつうじて発生した「ヨーロッパ中心主義」的な意識に関し、肯定・否定の両面から論じることができる。
- ⑦イギリス、アメリカ、フランスや他のヨーロッパ諸国にみられる市民的権利にもとづく思想・制度の発達について、(専門家としてではなく) 学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・この科目「地域協力・統合」は、教室での「対面」授業が基本です。ただし、就職活動や体調など、ひとりひとりの学生の事情により、Zoomを活用した授業参加も積極的にみとめています。
- ・授業時間 (100分) の前半80分程度は、受講者全体へのフィードバック (15-20分) と講義 (50-60分) にあてています。
- ・授業時間 (100分) の後半20分程度を、グループディスカッションにあてています。
- ・毎回の授業資料は Google Classroom や学習支援システム-Hoppii をつうじて事前に配布しています。
- ・学習支援システム-Hoppii を利用し、小テストを受験してもらう場合があります。
- ・授業内容の録画を、受講者の個人情報の保護に留意しつつ、受講者のみが視聴できる形で共有する場合があります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	受講上の約束事	授業内容の紹介、注意事項の説明
2	ヨーロッパの地理的定義	ユーラシア大陸から突き出た「半島」としてのヨーロッパ：東の境界は？
3	人の移動と石器・青銅器・鉄器時代	ヨーロッパ各地に広がるケルトの文化
4	考古学的定義	ギリシア世界
5	神話と政治	「ヨーロッパ」の語源とされる諸神話や、「アジア」と対比した際のギリシア世界の特質とされるものについて学ぶ

6	ヘレニズムと地中海世界	「ギリシア文明」の地理的拡大
7	古代ローマ	ローマの盛衰と遺産としての法制度や建築
8	西ローマの崩壊と民族大移動	統一的な地中海世界の終わり = 「文明」の崩壊のイメージ及びアジア諸民族の侵入
9	「周縁」としてのヨーロッパ	いわゆるノルマン人の全ヨーロッパへの進出、スラブ人の中東欧への進出
10	フランク王国と「12世紀のルネサンス」	西ヨーロッパにおけるカトリシズムを軸とした中世的秩序の形成
11	大航海時代とルネサンス、宗教改革	ポルトガルによるアフリカ大陸西岸の航海、ユマニスム的な「人間の尊厳」の観念、プロテスタンティズムの発生によるカトリック圏としての西ヨーロッパの分裂
12	16世紀-17世紀のヨーロッパ政治史	ハプスブルク家、オスマン・トルコ、テューダー朝のイギリス、ユグノー戦争、三十年戦争。西ヨーロッパ諸国間の紛争の新大陸やアジアにおける展開
13	「主権」の発動たる戦争、その悲惨を目的の当たり	ジャック・カロ「戦争の悲惨」。クリュセ、コメニウス、ベンらに芽生えた統合の思想
14	啓蒙思想と革命	君主を含めた主権者同士の連合から、民主主義、ナショナリズムの時代への移行

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

1. とても簡単な小テストが、学習支援システム-Hoppii 上で宿題として出される場合があります。
2. 本学学期基準によると、講義や演習で2単位を得るのに必要な予習・復習の時間は1回につき4時間以上とされているそうです。

【テキスト (教科書)】

教科書を買う必要はありません。学習支援システム-Hoppii や Google Classroom 上で PDF ファイル等のかたちで資料を配布します。

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

下記の成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格 (レターグレードでCマイナス以上) とします。

- 1. 期末テストは行いません 0%
 - 2. 出席はとりません 0%
 - 3. 小テストの受験【Hoppii を使うため、体育会や就職活動中の学生、所属キャンパスを問わずすべての学生がオンラインで受験できます (※1)】 61%
 - 4. グループ・ディスカッション & 学生間の共働【グループ・ディスカッションへの参加や、Google Classroom 上での意見のとりまとめ、とりまとめた結果の教員への送信、等 (※2)】 25%
 - 5. 期末レポート【あくまで希望者のみ提出です】 14%
 - 6. 運営への協力【協力してくれた方に加点しています；配布資料の誤字や、内容の誤りの指摘。成果物のオンライン上における提出に必要なスキルを学生間で共有するなどのかたちの運営協力を含む】 (※3)
- (※1) 小テストは授業の復習であり、授業で配るスライドやプリントをみれば、簡単に答えられるやさしい内容です。
- (※2) グループ・ディスカッションは教室にきて、他の学生と共に議論に参加していたことが毎回の提出物に記載されていれば、確実に加点されます。小テストの得点に上乘せしたい、単位がどうしても必要という学生さんは、ぜひグループ・ディスカッションに積極的に参加しましょう。
- (※3) 6. は、1. ～5. の合計100%には含めず、その外枠で5%程度まで加算する。

【学生の意見等からの気づき】

- ・ヨーロッパの文化史や政治史、経済史についての学びは、大人の教養として経験しておいたほうが良さそうではあるけれど、わかりづらそう敬遠したくなるという方もいるようです。
- ・この科目「地域協力・統合」は、高校までの学習内容を確認しながら、大学の学部レベル以上の内容に深めていくという組み立てとすることにより、参加のハードルを下げ、そうした方が、必要な学びにアクセスできる場となることを目指しています。

【学生が準備すべき機器他】

資料の共有などに、Google Classroom や Hoppii を使いますので、必要な機器や情報環境はお持ちであったほうが良いでしょう。

【その他の重要事項】

- ・わからないことは、気兼ねなく、お問合せください。
- ・留学や大学院進学、就職などの相談も OK です。
- ・問い合わせ先や、授業内容のイメージについては、次のリンク先をご覧ください【学内生のみ、要統合認証】 <https://bit.ly/48Au2k0>

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】

What is Europe? This question, which many present-day Europeans ask themselves, is the main theme of this course. In this class, students will examine the question with an emphasis on the history of ideas and culture. Starting with the geographical notion of Europe as a "continent", students will familiarize themselves with its basic archaeological, ethnic, religious, philosophical, and historical aspects. Students will be encouraged to explore these areas to reflect on the modern idea of Europe as a haven of peace and the possibility or impossibility of a single European identity. She or he will move back and forth between the past and the present, focusing in particular on the ambivalence of the boundaries between Europe and its "others", in order to deepen her or his understanding of the question.

【到達目標 (Learning Objectives)】

By the end of the course, students should be able to do the following:

- 1) Expressing her or his own views about the geographical spread of "Europe".
- 2) Relating the notion of "Europe" to the cultural, political, and philosophical legacies of ancient Greece, Hellenism, and Rome, and making an argument at a level appropriate for an undergraduate student.
- 3) Discussing, at a level appropriate for undergraduate students, the Great Migration of Germanic, Norman, and Slavic peoples and the formation of "Europe", in relation to the history of each country from the time of the collapse of the Western Roman Empire to the 10th century.
- 4) Explaining the relationship between Western Europe in the Middle Ages, which was formed around Catholicism, and Eastern Europe, which was formed around Orthodoxy, and the expansion of Islam, at a level appropriate for undergraduate students.
- 5) Describing, at a level appropriate for undergraduate students, the significance of humanism, which characterized the Renaissance, the impact of the so-called "Age of Discovery" on non-European countries, and the redefinition of the relationship between faith and politics resulting from the Reformation.
- 6) Arguing, both positively and negatively, about the "Eurocentric" consciousness that emerged through the development of commerce under a series of political and cultural changes, including the centralization of power, wars in colonies outside Europe, and the emergence of the "Republic of Letters".
- 7) Illustrating the significance for modern societies of the development of civil rights-based ideas and institutions with historical events in the United Kingdom, the United States, France, and other European countries at a level appropriate for undergraduate students.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

- 1) A simple quiz will be given almost every week as homework. Participation in this quiz is mandatory for all students taking the course. In order to answer this quiz, students need to use the learning support system - Hoppii (on the Internet).
- 2) According to the Standards for the Establishment of Universities, the minimum time of preparation and review required to earn two credits for a lecture or seminar is four hours per session.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Based on the following grading methods, students who have achieved at least 60% of the achievement objectives for this class will be considered to have passed the class (C minus or better on a letter grade basis).

1. No final exam will be given. 0%.
2. Attendance will not be taken 0%.
3. Quiz Examination [All students, regardless of their campus affiliation, including athletics and job-seeking students, can take the quiz online because of the use of Hoppii] 61%.
4. Group discussion and collaboration among students [Participation in group discussions, group discussion on Google Classroom, and sending the results to instructors, etc.] 25%.
5. End-of-term report (to be submitted only by those who wish to do so): 14%.

ECN300HA (経済学 / Economics 300)

途上国経済論 I

武貞 稔彦

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火5/Tue.5

備考 (履修条件等)：環コ：経,グ

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日本の経済は、様々な資源の供給元や市場として世界各国との相互依存を強めている。この講義は、世界人口の半数以上が暮らす、開発途上国と呼ばれる国や地域の経済と社会について、固有の歴史／文化的背景も含め日本とのかかわりを念頭におきながら基礎的な知識の習得をめざす。またそれらの基礎的な知識は、持続可能な開発目標 (SDGs) に掲げられた各種課題／目標の理解の基礎となるものでもある。

【到達目標】

本講義においては、ア) 途上国経済の分析枠組み、特徴、イ) 主要地域や主要国の経済・社会の特徴について学び、ウ) 日本社会や経済の世界における位置づけをよりよく理解し、エ) 将来社会に出た際に諸外国の人々と基礎的な知識に基づいた意味あるコミュニケーションができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

途上国経済論 I においては、途上国の社会と経済を見る際に使われる分析枠組み、主要地域ごとの歴史と社会の概要、日本と特に関係が深いアジア諸国の経済と社会を中心に学ぶ。

学生の将来に関わりの深い日本企業の活動や、新聞などでとりあげられる現実の出来事、ニュースと関連づけて講義を行うことにより、自らの日々の生活にひきつけた現実社会の理解を目指す。

また学習支援システム (Hoppii) を通じたコメント／質問の提出も可能とする。フィードバックはHoppii を通じて個別に行うが、必要に応じて授業内でも内容を紹介する。

授業形態の詳細は学習支援システムで必要に応じて知らせる。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション ：開発途上国とは。 途上国経済を見る目	開発途上国とよばれる国や地域はどのようなところか、概念を整理する。同時に、途上国を見る際に頻繁に使われる分析枠組み (評価軸) を再考する。
第2回	経済成長の理論と途上国経済の位置づけ	経済学の世界では経済成長はどのようなものだと考えられているかを紹介し、途上国経済を扱う「開発経済学」の発展を概観する。
第3回	日本は途上国だったのか？ : 戦後日本の経済成長と現在の開発途上国経済	戦後日本は急速な経済成長をとげたが、現在の開発途上国にとって日本はどのような点で手本足り得るかを考える。
第4回	途上国社会・経済の概況 (1) : アジア地域	アジア地域の「途上国」と呼ばれる国や地域が「キャッチアップ」を果たす過程で、政府・国家がどのような役割を果たしたのか、東アジアと南アジアをとりあげ、歴史的な視点から概観する。特に、分析の視点として「植民地」について考える。

第5回	途上国社会・経済の概況 (2) : ラテンアメリカ地域	アジアと異なる「植民地」経験を持つラテンアメリカ地域が、その後どのように経済発展を遂げたか (または遂げられなかったか) を概観する。
第6回	途上国社会・経済の概況 (3) : アフリカ	アジアと異なる「植民地」経験を持つアフリカ地域が、その後どのように経済発展を遂げたか (または遂げられなかったか) を概観する。
第7回	途上国社会・経済の概況 (4) : 映像でみる途上国社会経済	映像を通じて、途上国の社会と経済について知る。
第8回	主要国／地域の社会と経済 (1) : 韓国－危機とその克服	韓国は、目覚ましい経済成長を遂げたNIESの代表である。一旦は先進国の仲間入りを果たした韓国の歩んだ道筋と1997年のIMF危機以降の経済・社会の状況について理解する。
第9回	主要国／地域の社会と経済 (2) : 台湾－その生い立ちと国際社会における立場	台湾も、韓国とならび目覚ましい経済成長を遂げたNIESの一つである。現在の台湾の国際社会・国際経済における地位はその特殊な生い立ちに影響されていることを理解する。
第10回	主要国／地域の社会と経済 (3) : 香港およびシンガポール－小さな街の大きな経済	アジアNIESの一つである香港とシンガポールをとりあげ、資源のない国 (都市) の経済成長について考える。
第11回	主要国／地域の社会と経済 (4) : インドネシア－多様性の中の権威主義的開発体制	アセアン (Association of South East Asian Nations) の一員としてNIESに続き経済成長を遂げたインドネシアをとりあげ、政治体制と経済成長 (経済発展) の関係について考える。
第12回	主要国／地域の社会と経済 (5) : マレーシア－カリスマと経済成長	強力なリーダーによる経済成長戦略を通じて発展したマレーシア経済・社会を概観する。
第13回	民主主義と経済成長	アジアの価値がアジア諸国の経済成長をもたらしたのか。民主主義と経済成長の関係を、アジア諸国を例に考える。
第14回	経済成長、進歩、貧困	先進国、途上国いずれもが経済成長を通じた社会の進歩、貧困の克服を目指してきた。現代の途上国は経済成長によって貧困をなくすことができるのか、という問いを概観する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

各回に指定される参考文献および参考図書該当部分を講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

グラボウスキー他 (2008年) 『経済発展の政治経済学』 (日本評論社)
渡辺利夫編 (2007年) 『アジア経済読本 (第4版)』 (東洋経済新報社)
大塚啓二郎 (2020年) 『なぜ貧しい国はなくなるのか (第2版) 正しい開発戦略を考える』 (日本経済新聞出版)

【成績評価の方法と基準】

成績評価は中間レポートと期末試験による。成績配分は中間レポート20%、期末試験80%を予定する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内で学生の発言を促す工夫を行う。

【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したものやスライドなどは、学習支援システム上に掲示する。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は、途上国への経済協力の実務に携わっていた経験がある。本講義に関しては途上国での駐在も含めた業務経験で得られた知見が活用されている。

【Outline (in English)】**[Course Outline]**

This is a first part of the course on the economy and society of developing countries. Students will be able to obtain a reference framework and to understand basic structure of developing countries' economy including particular historical, cultural, and geographical settings. Those basic knowledge are also the basis for understanding the various issues/goals set forth in the Sustainable Development Goals (SDGs).

[Learning Objectives]

The objectives of this lecture are to a) learn about the analytical framework and characteristics of developing economies, b) learn about the characteristics of the economies and societies of major regions and major countries, c) better understand the position of Japanese society and economy in the world, and d) be able to communicate meaningfully with people in other countries based on basic knowledge in the future.

[Learning Activities outside of classroom]

Students are required to prepare for and review the materials introduced in each lecture.

It is necessary to refer to the relevant parts of the reference literature and reference books specified for each lecture before and after the lecture to deepen understanding of the lecture contents. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

Grading will be based on mid-term report and final exam. Grading will be based on mid-term report 20%, final exam 80%. If face-to-face classes and final examinations cannot be held due to the spread of coronavirus infection, the grading system may be changed to one based on report assignments. If this is the case, the grading method will be announced through the learning support system (Hoppii).

ECN300HA (経済学 / Economics 300)

途上国経済論Ⅱ

武貞 稔彦

配当年次／単位：1～4年／2単位
 開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火5/Tue.5
 備考（履修条件等）：環ア：経、ゲ
 その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の経済は、様々な資源の供給元や市場として世界各国との相互依存を強めている。この講義は、世界人口の半数以上が暮らす、開発途上国と呼ばれる国や地域の経済と社会について、固有の歴史／文化的背景も含め日本とのかかわりを念頭におきながら基礎的な知識の習得をめざす。それらの基礎的な知識は、持続可能な開発目標（SDGs）に掲げられた課題／目標の理解の基礎となるものでもある。

【到達目標】

本講義においては、途上国経済論Ⅰに引き続き、ア）主要地域や主要国の経済・社会の特徴について学び、イ）日本社会や経済の世界における位置づけをよりよく理解し、ウ）南北問題や世界貿易など、個々の国や地域が置かれている「構造」への理解を深めることで、エ）将来社会に出た際に諸外国の人々と基礎的な知識に基づいた意味あるコミュニケーションができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

途上国経済論Ⅱにおいては、新興国と呼ばれる経済成長著しい国、今後の経済発展が見込まれる国などの歴史と社会の概要、国際経済の成り立ちなどを講義形式で学ぶ。

学生の将来に関わりの深い日本企業の活動や、新聞などでとりあげられる現実の出来事、ニュースと関連づけて講義を行うことにより、自らの日々の生活にひきつけた現実社会の理解を目指す。

また学習支援システム（Hoppii）を通じたコメント／質問の提出も可能とする。フィードバックはHoppiiを通じて個別に行うが、必要に応じて授業内でも内容を紹介する。

授業形態の詳細は学習支援システムで必要に応じて知らせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション ：途上国経済を見る 目	途上国経済論Ⅰの概要の復習とⅡの主題についての概観。
第2回	世界経済の歴史	「経済」と呼ばれるものの誕生も含め、「世界経済」の成り立ち、発展について概観する。
第3回	世界貿易の構造をめぐる議論	国際経済の主要な活動である貿易について、その理論、構造、課題を概観する。
第4回	途上国社会・経済の概況（1）：中国（1） 社会主義と資本主義	中国は世界有数の大国であり、計画経済から市場経済へと緩やかに転換しつつ経済成長を続けている。議論の前提として社会主義／共産主義の考え方についての理解を深める。
第5回	途上国社会・経済の概況（2）：中国（2） 持続的経済成長と大国としての復活	世界経済にインパクトを与える存在となった中国の社会と経済について概観する。

第6回	途上国社会・経済の概況（3）：インドー 目覚めた大国	インドは、近年、経済成長著しいBRICsの一つ。イギリス植民地から独立した後のインドの長い経済停滞、1990年代以降の目覚ましい経済発展という大きな流れを理解する。
第7回	途上国社会・経済の概況（4）：映像でみる途上国社会経済	映像を通じて、途上国の社会と経済について知る。
第8回	主要国／地域の社会と経済（5）：タイー 東南アジアの「先進国」	東南アジア諸国のなかでもNIESに続く目覚ましい経済発展を遂げたタイ。アジア通貨危機の発端となるなど途上国の中の「先進国」の経済社会を概観する。
第9回	主要国／地域の社会と経済（6）：ベトナムー 戦場から市場へ	1960年代にベトナム戦争で大きな傷を受けたベトナムが新興経済国の一角として名乗りを上げる過程を概観する。
第10回	主要国／地域の社会と経済（7）：ブラジルー 南米の大国	ブラジルはインドや中国とならび21世紀に入って新興国として台頭著しい。豊かな自然を抱える大国の姿を概観する。
第11回	主要国／地域の社会と経済（8）：南アフリカー アパルトヘイト	アパルトヘイトという大きな問題を克服して以降の南アフリカ経済の新興国としての経済成長を概観する。
第12回	主要国／地域の社会と経済（9）：ボツワナー 資源の呪いを越えて	アフリカ大陸にありながら世界でも有数の高経済成長を続けたボツワナの経済社会を概観する。
第13回	国際経済の中の域内協力	ASEAN（東南アジア諸国連合）を例に、グローバル化がすすむ国際社会における域内協力の重要性を概観する。
第14回	まとめ：途上国経済および世界経済の未来	講義全般の復習を行うとともに、今後の世界経済、途上国経済の姿について想像する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

各回に指定される参考文献および参考図書の該当部分を講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

グラボウスキー他（2008年）『経済発展の政治経済学』（日本評論社）
 渡辺利夫編（2007年）『アジア経済読本（第4版）』（東洋経済新報社）
 大塚啓二郎（2020年）『なぜ貧しい国はなくなるのか（第2版）正しい開発戦略を考える』（日本経済新聞出版）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は中間レポートと期末試験による。成績配分は中間レポート20%、期末試験80%を予定する。

【学生の意見等からの気づき】

学生が記入したリアクションペーパーに対する、教員からのコメントなどを充実することを目指す。

【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したもののやスライドなどは、学習支援システム上に掲示する。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は、途上国への経済協力の実務に携わっていた経験がある。本講義に関しては途上国での駐在も含めた業務経験で得られた知見が活用されている。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This is a second part of the course on the economy and society of developing countries. Students will be able to obtain a reference framework and to understand basic structure of developing countries' economy including particular historical, cultural, and geographical settings. Those basic knowledge are also the basis for understanding the various issues/goals set forth in the Sustainable Development Goals (SDGs).

[Learning Objectives]

The objectives of this lecture are to a) learn about the analytical framework and characteristics of developing economies, b) learn about the characteristics of the economies and societies of major regions and major countries, c) better understand the position of Japanese society and economy in the world, and d) be able to communicate meaningfully with people in other countries based on basic knowledge in the future.

[Learning Activities outside of classroom]

Students are required to prepare for and review the materials introduced in each lecture.

It is necessary to refer to the relevant parts of the reference literature and reference books specified for each lecture before and after the lecture to deepen understanding of the lecture contents. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

Grading will be based on mid-term report and final exam. Grading will be based on mid-term report 20%, final exam 80%.

SOC200HA (社会学 / Sociology 200)

現代社会論 I

佐伯 英子

配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金5/Fri.5

その他属性：〈他〉〈ダ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

社会学理論は、社会を分析し理解するための重要な道具です。本科目では理論とその使い方を学び、「社会的に社会を見る」面白さを体験します。まずは現代社会がどのように形作られてきたかを理解するために近代化についての理論を学び、その後は個人と社会の関係、労働と経済的格差、教育、多様性等の問題とそれに関連する理論を、具体的な事例や日常生活と関連づけながら多面的・多角的に検討します。

【到達目標】

本科目は現代社会が直面している諸問題を社会学の概念や理論を使って分析することによって、それぞれの学生が自分で考え、それを言語化する力をつけることを目標とします。新たな視点を得ることで「当たり前」を疑い、主体的に調べ、議論する力を涵養することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

オンデマンドで講義ビデオを配信し、小課題を出します。学習支援システムにおいて、提出されたコメントシートや課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	理論と概念の重要性、社会学と持続可能な社会の構築、授業の進め方
第2回	「社会を社会的に考える」とは	社会学的想像力
第3回	近代化と社会	分業、連帯、アノミー、社会的事実
第4回	個人と社会	社会的存在としての人間、アイデンティティ、社会化
第5回	資本主義と労働	労働、階級、搾取
第6回	格差の再生産	ハビトゥス、文化資本、教育、文化的再生産
第7回	前半のまとめ、試験1	前半の内容の理解度を試験し、フィードバックを行う
第8回	管理社会	「従順な身体」、権力とまなざし
第9回	フェミニズム理論	知識とジェンダー、労働としての家事、感情労働、インターセクショナリティ
第10回	ポストコロニアリズム	オリエンタリズム、サバルタン、人種、多様性
第11回	社会変化	構造機能主義と紛争理論、社会運動論
第12回	テクノロジー	格差、ジェンダー、人種、権力の理論を使って検討
第13回	現代日本社会と社会学理論	理論を使って社会を分析するとは
第14回	後半のまとめ、試験2	後半の内容の理解度を試験し、フィードバックを行う

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは用いない。

【参考書】

奥村隆 2014『社会学の歴史 I』有斐閣

クリストファー・ソープ他、沢田博訳 2015『社会学大図鑑』三省堂
クリス・ユール・クリストファー・ソープ、田中真知訳 2017『10代からの社会学大図鑑』三省堂

【成績評価の方法と基準】

平常点 (毎週の小課題を含む) 50%、試験 50%

【学生の意見等からの気づき】

前回に引き続き、リアクションペーパーや課題に書かれた考えや質問を共有しコメントすることから、受講者間での学びの共有や教員との対話的な要素を確保する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】

In this course, students are expected to gain foundational knowledge of sociological theory and the ability to apply such knowledge to issues we face in contemporary society.

【Course outline】

Specific topics to be covered include modernization, inequality, identity, education, and diversity. Each class consists of lectures and activities to apply theories to social issues we have today.

【Learning activities outside of classroom】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Participation (including small weekly assignments) 50%; Exams 50%

SOC200HA (社会学 / Sociology 200)

現代社会論Ⅱ

佐伯 英子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

その他属性：〈他〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「社会」は、多くの場合その構成員全ての経験や考えを平等に反映したものではありません。この歪みのひとつがジェンダーであり、社会を理解し議論する上で欠かすことのできない視点です。この授業では、家族、教育、労働、政治を含む社会の様々な側面をジェンダーの観点から検討します。学生一人一人が講義内容を理解するだけでなく、理論や概念を使って社会問題について議論することから主体的に学び、考える力を身につけることを目指します。

【到達目標】

本科目では、ジェンダーの規範が個人の経験や社会の構築に与える影響を、基本的な理論と概念、国内の歴史の変遷、諸外国との比較を通して探ります。日常生活や現代日本社会における制度、規範を多角的・多面的に分析することから新たな知見を獲得することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を中心に進めます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ジェンダーの視点で社会を分析する意義、本科目の進め方
第2回	ジェンダーとセクシュアリティ	性別と性差、ジェンダーの規範、家父長制、グラデーションとしての性
第3回	家族の歴史と現在	家族とジェンダー、異性愛規範、母性イデオロギー、婚姻制度
第4回	子ども	家庭において子どもは何を学び育つのか、社会化
第5回	学校教育、スポーツ	学校教育の歴史、機会の平等と結果の平等、顕在的カリキュラムと潜在的カリキュラム、スポーツとジェンダー
第6回	前半のまとめ、試験1	前半の内容の理解度を試験し、フィードバックを行う
第7回	科学、知識、医療	科学史の中の女性、ジェンダー・イノベーション
第8回	賃金労働	少子化問題と労働問題、雇用体系、賃金格差、ワークライフバランス
第9回	リプロダクティブ・ライツ	生殖、性教育、セクシュアリティ
第10回	暴力	性犯罪と性暴力、法制度
第11回	表象と言葉	構築物としてのメディア
第12回	政治	民主主義、政治参画
第13回	フェミニズム	社会変革、持続可能な社会の構築
第14回	後半のまとめ、試験2	後半の内容の理解度を試験し、フィードバックを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは用いません。

【参考書】

伊藤公雄・牟田和恵編 2015『ジェンダーで学ぶ社会学』世界思想社
千田有紀・中西祐子・青山薫 2013『ジェンダー論をつかむ』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%; 課題 20%; 試験 50%

【学生の意見等からの気づき】

前回に引き続き、リアクションペーパーや課題に書かれた考えや質問を共有しコメントすることから、受講者間や教員との対話的な要素を確保します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】

In this course, students are expected to gain foundational knowledge and skills that enable them to examine various aspects of contemporary society (e.g., family, education, labor, and politics) from perspectives of gender.

【Course outline】

Lectures introduce historical changes and international comparisons, as well as theories. In addition to comprehending concepts and specific cases, students are required to complete assignments where they demonstrate their knowledge and ability to analyze social issues with gender perspectives.

【Learning activities outside of classroom】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Participation: 30%; Assignments 20%; Exams 50%

SOC200HA (社会学 / Sociology 200)

現代社会論Ⅲ

佐伯 英子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講semester：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

その他属性：〈他〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちは「身体」や「生命」について理解を深めようとする際、しばしば医学や生物学等の自然科学に頼ろうとします。しかし、「健康」とは何か、性別や人種におけるカテゴリーはどのようにつくられるか、「美しい身体」や「正しい身体」という規範にどのような意味があるのか、生殖医療や臓器移植等の技術を通して私たちはどこまで「いのち」をコントロールすることができ、すべきなのか、といった問いには、社会科学的視点が欠かせません。それは、「身体」が極めて個人的な体験であると共に社会的、文化的、歴史的な要因に左右されるものであり、また、「生命」という概念の定義が社会や文化の文脈の中で作りだされるものだからです。

社会学は「常識」や「当たり前」を疑うことを可能にしますが、身体社会学はその醍醐味を特にダイレクトに感じることのできる領域であると言えます。受講者ひとりひとりが自分で社会を観察し、考え、議論することを通して、身体と医療の社会学の内容の理解と共に、社会学的想像力を身につけることのできる授業とすることを目指します。

【到達目標】

本科目では、一般的に自明なものであると考えられている「身体」及び「生命」を社会的観点から捉えることにより新しい知見を得ることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

身体社会学という領域は近年、急速な発展を遂げましたが、一方でその蓄積や議論の多くは日本語に翻訳されていないため、多くの学生にとってアクセスの難しいものでもあります。講義では理論を含めたこのような流れを、画像や短い映像資料を使用しながらわかりやすく紹介し、理解を深めるための枠組みを作ります。小課題では、理解した内容を身近な例を使って自分の言葉で説明し、学びを深めます。また、課題提出後は、授業もしくは学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要とねらい、身体を社会的に分析する意義
第2回	身体社会学とは何か、階級と身体	労働、貧困、食、健康格差
第3回	人種	植民地主義、レイシズム、人種に関するカテゴリーの歴史的変遷
第4回	現代日本社会と人種	人種差別問題を自分たちの問題として考える
第5回	ジェンダー	「男らしさ」「女らしさ」と身体、身体の客体化、ステレオタイプ
第6回	ボディ・イメージ	身体の表象、「美」とされる姿の変遷、摂食障害、美容整形
第7回	セクシュアリティとジェンダーアイデンティティ	性自認と身体、異性愛規範

第8回	前半のまとめ、試験1	前半の内容の理解度を試験し、フィードバックを行う
第9回	「正しい」と考えられている身体とは何か、逸脱は何を意味するか	障がい、医療化、障がいの社会モデル
第10回	優生思想	優生政策、優生思想は過去のものか、日本におけるハンセン病の歴史
第11回	いのちの始まりと生命倫理	リプロダクティブ・ライツ、生殖補助医療
第12回	いのちの終わりと生命倫理	終末期医療と尊厳死、脳死と臓器移植
第13回	身体と未来	機械と人間の融合、ナラティブを変える
第14回	後半のまとめ、試験2	後半の内容の理解度を試験し、フィードバックを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。各回に指定されたテキストを読んで授業に備え、授業の後は講義内容について復習してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは用いません。

【参考書】

安藤泰至、高橋都編『シリーズ生命倫理学 終末期医療』丸善出版(2012年)

磯野真穂『なぜふつうに食べられないのか 拒食と過食の文化人類学』春秋社(2015年)

谷本菜穂『美容整形と化粧の社会学—プラスチックな身体』新曜社(2008年)

マーゴ・デメット『ボディ・スタディーズ—性、人種、階級、エイジング、健康/病の身体学への招待』(2017年)

アリス・ドムラット・ドレガー『私たちの仲間 結合双生児と多様な身体の未来』緑風出版(2004年)

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%; 課題 20%; 試験 50%

【学生の意見等からの気づき】

前回に引き続き、リアクションペーパーや課題に書かれた考えや質問を共有しコメントすることから、受講者間や教員との対話的な要素を確保します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】

This course on Sociology of the Body and Medicine will examine sociocultural aspects of our knowledge and experiences on the body. By completing this course, students are expected to be able to identify social issues pertaining to the theme of this class in their everyday lives and analyze them critically using sociological perspectives.

【Course outline】

We will consider topics including social class, gender, race, eugenics, and bioethics. After each lecture, students are expected to reflect on the contents and outline their thoughts on their comment sheets.

【Learning activities outside of classroom】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Participation: 30%; Assignments 20%; Exams 50%

DES300HA (デザイン学 / Design science 300)

自然環境論Ⅳ

高田 雅之

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

備考（履修条件等）：環コア：G,サ

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境と人間活動との持続的な調和を探索するためには、地球規模から私たちの身近なところまでズームの効いた視点で自然環境を理解することが欠かせません。本講義では、地理的視点と生態系の違いの視点から、地球上の各地の自然環境及び野生生物について理解を深めるとともに、人間活動による影響とツーリズムなどを通じた共生の可能性について学び、今後の人と自然との望ましい関係を考究することを目的とします。

【到達目標】

以下の4点について知識と理解を深め、その要点を説明できることを目標とします。

- ①生物地理とバイオーム（生物群の違い）の理解
- ②世界の各地域ごとの野生生物と生態系の特徴
- ③世界の各地域ごとの野生生物と生態系を取り巻く問題と人間との軋轢・共生
- ④生物や自然を対象としたツーリズムとその課題

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

「生物地理とバイオーム」、「世界の各地域における生物多様性」、「世界の各地域における自然と人間との軋轢と共生」、「自然を対象としたツーリズムの可能性」などについて学びます。最近の話題やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、科学的な理解とそれに基づく生物多様性保全のあり方を考える能力を高めていきます。また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと序論	講義のねらいと進め方、地球視点でみる自然、生物地理とバイオーム
第2回	南米の自然	南米の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第3回	中米の自然	中米の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第4回	北米の自然1	北米の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第5回	北米の自然2	北米の国立公園と生態系
第6回	ニュージーランドの自然	ニュージーランドの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第7回	オーストラリアの自然	オーストラリアの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第8回	アフリカの自然	アフリカの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第9回	ヨーロッパの自然	ヨーロッパの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第10回	ロシア・中国・朝鮮半島の自然	ロシア・中国・朝鮮半島の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり

第11回	南～東南アジアの自然	南～東南アジアの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第12回	極地の自然	極地の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第13回	海洋島の自然	海洋島の生物と生態系の特徴、人間活動との関わりなど
第14回	世界の自然とツーリズム	生物や自然を対象としたツーリズムの可能性と課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をします。毎回のテーマに関わる基礎知識について予習するとともに、講義で抱いた疑問について毎回の講義後に自主学習によって解決します。また日頃接するメディアでの自然環境に関する話題や、身の回りで目にする生き物に関心を払うよう努めます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものを使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出するリアクションペーパー（50%）と期末試験（50%）により評価します。詳しくは学習支援システムでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】

基礎的な知識や理解としてサイエンスカフェⅢ（生態学）（春期）を受講しておくことが望ましいです。人間との関わりや保全のための政策について学習したい人には自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）を受講することを勧めます。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は、公務員（国家・地方）、独立行政法人（研究機関）、民間企業で環境分野特に生態系に関わる実務及び研究経験があります。本講義ではそれらを通して得た具体的な事例や知見、フィールド経験等が活用されています。

【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to understand the wildlife and ecosystems on the earth from the viewpoint of geography and biome, and to learn about the impact to nature by human activities and the harmonization between human and nature in future.

The goals of this lecture are to deepen the understanding and acquire knowledge of the above-mentioned matters.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.

Grading will be decided based on every time reaction paper:50%, term-end examination:50%.

PHL200HA (哲学 / Philosophy 200)

現代思想と人間 I

竹本 研史

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金3/Fri.3

備考 (履修条件等)：環コア：文

その他属性：〈他〉〈ダ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

テーマ：現代社会哲学・思想 (個人の自由と反差別)

私たちが共生している現代社会で基本的かつ不可欠だとされている諸概念 (自由、人権、民主主義、平等、所有、市民、公共性、他者、反差別…) は、自明のものとして存在しているのではなく、長い思想的伝統のなかで多くの議論を積み重ね、培われてきたものです。

そこで本講義では、現代社会思想の文献や各種作品などを分析しながら、現代社会を構成しているさまざまな社会概念について、広い視野に立って、それら諸概念に関する歴史的議論の内容と背景を検討します。

今学期は、「個人の自由と反差別」をテーマに20世紀の思想を扱います。

【到達目標】

さまざまな学問領域において持続可能でインクルーシブな社会の実現のためにマイノリティと不平等の問題を考察していくうえで、現代社会思想を中心に、基本的かつ不可欠な諸概念に関する思想的営為の系譜をたどり、それら諸概念にかけられている負荷を把握します。

そこで得た知見を基に、それらの現代社会における意義を主体的に考察し、見解を示せるようになることで、広い視野に立ちながら、平和で民主的な社会を形成していく市民として必要な知識と思考力を涵養します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式でおこなうが、リアクションペーパー提出による質疑 + 次回授業での応答など、インタラクティブな授業になるように心がけます。

単に思想内容の解説だけではなく、当該文献の抜粋を配布したり、映像や写真などの視聴覚教材も用いたりする予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要、目的、進め方の説明
第2回	個人の自由と反植民地主義 (1)	実存と自由の問題——ジャン＝ポール・サルトル『存在と無』を中心に (1) ジャン＝ポール・サルトルの思想 (2) —— 『弁証法的理性批判』を中心に
第3回	個人の自由と反植民地主義 (2)	実存と人種差別・植民地主義の問題 (1) —— ジャン＝ポール・サルトル『ユダヤ人問題』、「黒いオルフェ」、「植民地主義は一つの体制である」を中心に (1)
第4回	個人の自由と反植民地主義 (3)	実存と人種差別・植民地主義の問題 (2) —— ジャン＝ポール・サルトル『ユダヤ人問題』、「黒いオルフェ」、「植民地主義は一つの体制である」を中心に (2)

第5回	個人の自由と反植民地主義 (4)	実存と人種差別・植民地主義の問題 (3) —— フランツ・ファノン『地に呪われた者』、『黒い皮膚・白い仮面』を中心に (1)
第6回	個人の自由と反植民地主義 (5)	実存と人種差別・植民地主義の問題 (4) —— フランツ・ファノン『地に呪われた者』、『黒い皮膚・白い仮面』を中心に (2)
第7回	実存とフェミニズム	シモーヌ・ド・ボーヴォワール『第二の性』
第8回	実存と老いの問題	シモーヌ・ド・ボーヴォワール『おだやかな死』、『老い』
第9回	全体主義批判と人間性の問題 (1)	フランク・パヴロフ『茶色の朝』、フロリアン・ヘンケル・フォン・ドナースマルク『善き人のためのソナタ』を中心に
第10回	全体主義批判と人間性の問題 (3)	ハンナ・アーレント『全体主義の起源』を中心に
第11回	全体主義批判と人間性の問題 (3)	ハンナ・アーレント『全体主義の起源』・クロード・ランズマン・『シヨア』を中心に
第12回	全体主義批判と人間性の問題 (4)	ハンナ・アーレント『エルサレムのアイヒマン』・ロニー・ブローマン/エイアル・シヴァン『スペシャリスト』を中心に
第13回	全体主義批判と人間性の問題 (5)	ハンナ・アーレント『人間の条件』、『革命について』を中心に
第14回	春学期のまとめ	春学期の授業内容の総括

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業で取り上げた思想家の著作とそのつど時間をかけて格闘すること。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

教場でプリントを配布します。

【参考書】

参考文献については教場で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

コメントシート (30%) + 期末試験 (70%)

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

【その他の重要事項】

2016年度に「人間環境特論 (西洋社会思想史I)」の単位を取得済みの学生は履修不可。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

【Course outline】

We examine historical understandings of the basic and essential concepts for the contemporary society, by the analyses of the philosophical texts, the movies, the arts and etc.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to understand of the basic and essential concepts for the contemporary society.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read philosophical texts and to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 70 %

Short reports : 30 %

PHL300HA (哲学 / Philosophy 300)

現代思想と人間Ⅱ

竹本 研史

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金3/Fri.3

備考（履修条件等）：環コア：文

その他属性：〈他〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：近現代社会哲学・思想（個人の自由・所有・権力・社会の関係）

私たちが共生している現代社会で基本的かつ不可欠だとされている諸概念（自由、人権、民主主義、平等、所有、市民、公共性、他者、反差別…）は、自明のものとして存在しているのではなく、長い思想的伝統のなかで多くの議論を積み重ね、培われてきたものです。

そこで本講義では、現代社会思想の文献や各種作品などを分析しながら、現代社会を構成しているさまざまな社会概念について、広い視野に立って、それら諸概念に関する歴史的議論の内容と背景を検討します。

今学期は、近現代ヨーロッパ社会哲学・思想を紐解きながら、個人の自由・所有・権力・社会について考えます。

【到達目標】

さまざまな学問領域において持続可能でインクルーシブな社会の実現のためにマイノリティと不平等の問題を考察していくうえで、現代社会思想を中心に、基本的かつ不可欠な諸概念に関する思想的営為の系譜をたどり、それら諸概念にかけられている負荷を把握します。

そこで得た知見を基に、それらの現代社会における意義を主体的に考察し、見解を示せるようになることで、広い視野に立ちながら、平和で民主的な社会を形成していく市民として必要な知識と思考力を涵養します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式でおこないますが、ご提出いただいたコメントシート提出による質疑+次回授業での応答形式を用いることで、インタラクティブな授業になるようにいたします。

思想系の授業ということで難しくはあるのですが、なるべく関連するような映像や写真などの視聴覚教材も積極的に活用していく予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要、目的、進め方の説明
第2回	自由・所有・契約（1）	社会契約論者たちの考えた自由（1）
第3回	自由・所有・契約（2）	社会契約論者たちの考えた自由（2）
第4回	功利主義の罫	功利主義者たちの考える「効用」
第6回	古典派経済学の誕生	アダム・スミスの道徳感情論と労働価値説
第7回	産業社会の夢	初期社会主義者と「産業社会」
第7回	労働と疎外（1）	カール・マルクス『ドイツ・イデオロギー』、『共産主義者宣言』、『ルイ・ボナパルトのブリュメール18日』など
第8回	労働と疎外（2）	カール・マルクス『資本論』
第9回	勤勉さと資本主義	マックス・ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』

第10回	権力と規律社会（1）	ミシェル・フーコー『狂気の歴史』、『監視と処罰』、『性の歴史』を中心に
第11回	権力と規律社会（2）	ミシェル・フーコーの講義録を中心に
第12回	可視化されない労働	イヴァン・イリイチ『シャドウ・ワーク』
第13回	境界の内と外	エティエンヌ・バリバルの市民権論
第14回	秋学期のまとめ	秋学期の授業内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げた思想家の著作とそのつど時間をかけて格闘すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教場でプリントを配布します。

【参考書】

参考文献については教場で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

コメントシート（30%）+期末試験（70%）

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

【その他の重要事項】

2016年度に「人間環境特論（西洋社会思想史Ⅱ）」の単位を取得済みの学生は履修不可。

【関連の深いコース】

人間文化コース（旧・環境文化創造コース）

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

【Course outline】

We examine historical understandings of the basic and essential concepts for the contemporary society, by the analyses of the philosophical texts, the movies, the arts and etc.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to understand of the basic and essential concepts for the contemporary society.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read philosophical texts and to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 70 %

Short reports : 30 %

SOC300HA (社会学 / Sociology 300)

Social Development and Sustainability 2

王 川 菲

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
 曜日・時限：木1/Thu.1 | キャンパス：市ヶ谷 / Ichigaya
 毎年・隔年： | 科目主催学部：人間環境 Sustainability Studies
 備考（履修条件等）：
 その他属性：〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course explores social issues with sociological approaches. It introduces students to some major social theories and concepts in sociology. Topics include a review of sociology as a discipline, culture, socialization, social interaction, education, social stratification, networks, work, economic life, body and health, urbanization, population, environment, and globalization. It is a theory-oriented course. However, it addresses empirical questions such as (1) What is society? (2) How is society organized and structured? (3) Who are individuals and their roles in society? (4) How do individuals and society affect each other? and (5) What does sustainability mean to our contemporary and future human society? The goal of this course is to provide students with conceptual tools for understanding society, thereby some inspirations of how individuals can live a happy and meaning life and contribute to a sustainable world.

【到達目標】

By emphasizing reading, discussing, and critical thinking skills, this course helps students build the foundation for a deeper understanding of theory and methods in the social sciences. Upon completion of this course, students will be empowered an eye to consider what happens in daily life with evidence-based reasoning. This course is designed to inspire students to think with their own talents, interests, and passion. Students have plenty of time expressing their own opinions and exchanging ideas with peers and instructor in each class.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

Among diploma policies, "DP3" is related

【授業の進め方と方法】

This is a lecture-and-discussion-based course. Instructor will lead each class session by giving a lecture on the topic of the day. Students are required to join several rounds of group discussions in class.

These are very basic. Students are always encouraged to think beyond the box, be creative, and be their own leader of their learning experience!

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Course Orientation and Lecture	Orientation: Welcome students! Review Syllabus. Lecture: What is sociology? I

Week 2	What is sociology? II	Learn what sociology covers as a field and how everyday topics are shaped by social and historical forces. Recognize that sociology involves not only acquiring knowledge but also developing a sociological imagination.
Week 3	Asking and answering sociological questions.	Learn the steps of the research process. Name the different types of questions sociologists address in their research—factual, theoretical, comparative, and developmental.
Week 4	Culture and Society	Learn about the “cultural turn” and sociological perspectives on culture. Understand the processes that changed societies over time.
Week 5	Socialization and the Life Course	Understand how the four main agents of socialization contribute to social reproduction. Learn the stages of the life course, and see the similarities and differences among cultures.
Week 6	Social Interaction and Everyday Life in the Age of the Internet	Understand the core concepts of the “impression management” perspective. Recognize how we use impression management techniques in everyday life.
Week 7	Groups Networks and Organizations	Learn the variety and characteristics of groups, as well as the effect groups have on individual behavior. Know how to define an organization and understand how organizations developed over the last two centuries.
Week 8	Stratification, Class and Inequality	Learn about social stratification and the importance of social background in an individual’s chances for material success. Know the most influential theories of stratification, including those of Karl Marx, Max Weber, and Erik Olin Wright.
Week 9	Work and Economic Life	Understand that modern economies are based on the division of labor and economic interdependence. Consider the different forms that capitalism has taken, and understand on a shift in the predominant form of industrial organization in modern society has shaped the kinds of jobs people are likely to find.

Week 10	Education	Learn sociologists' explanations for achievement gaps among different groups of students. Learn four major sociological perspectives on the role of schooling in society.
Week 11	The Sociology of Body	Understand how social, cultural, and historical contexts shape attitudes toward health, illness, and sexuality. Two theories of understanding health and illness, and historical approaches to sexuality
Week 12	Population, Urbanization and Environment	Learn the key concepts demographers use to understand world population growth (and Japanese depopulation) and the changes in cities. Some Influential Theories Understand how theories of urbanism have placed an increasing emphasis on the influence of socioeconomic factors on city life.
Week 13	Course conclusion and reflection I	Student's individual research presentation and peer review with selected topics covered in this course.
Week 14	Course conclusion and reflection II	Student's individual research presentation and peer review with selected topics covered in this course.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will spend 4-5 hours on class related work including read before class as well as review textbook and complete study log after class each week.

【テキスト（教科書）】

Deborah Carr, Anthony Giddens, Mitchell Duneier, Richard P. Appelbaum. (2018).
Introduction to Sociology. Seagull Eleventh Edition. W. W. Norton & Company.

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

Students will complete the following assignments to earn credits.

1. In-class discussions except for weeks 1, 13 and 14 (1 x11 times) 11%
2. Study logs (6 x 11 pieces) 66 %
3. Final research presentation 12%
4. Peer-review final presentation 11%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

Students prepare themselves for speaking and discussing in all class sessions except for weeks 1, 13 and 14.

SOC300HA (社会学 / Sociology 300)

Social Development and Sustainability 2

王 川 菲

Term : 春学期授業/Spring | Credit(s) : 2 | Day/Period : 木1/Thu.1 | Campus : 市ヶ谷 / Ichigaya | Grade : 1~4
Notes :

その他属性 : 〈グ〉〈ダ〉

[Outline and objectives]

This course explores social issues with sociological approaches. It introduces students to some major social theories and concepts in sociology. Topics include a review of sociology as a discipline, culture, socialization, social interaction, education, social stratification, networks, work, economic life, body and health, urbanization, population, environment, and globalization. It is a theory-oriented course. However, it addresses empirical questions such as (1) What is society? (2) How is society organized and structured? (3) Who are individuals and their roles in society? (4) How do individuals and society affect each other? and (5) What does sustainability mean to our contemporary and future human society? The goal of this course is to provide students with conceptual tools for understanding society, thereby some inspirations of how individuals can live a happy and meaning life and contribute to a sustainable world.

[Goal]

By emphasizing reading, discussing, and critical thinking skills, this course helps students build the foundation for a deeper understanding of theory and methods in the social sciences. Upon completion of this course, students will be empowered an eye to consider what happens in daily life with evidence-based reasoning. This course is designed to inspire students to think with their own talents, interests, and passion. Students have plenty of time expressing their own opinions and exchanging ideas with peers and instructor in each class.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Among diploma policies, "DP3" is related

[Method(s)]

This is a lecture-and-discussion-based course. Instructor will lead each class session by giving a lecture on the topic of the day. Students are required to join several rounds of group discussions in class.

These are very basic. Students are always encouraged to think beyond the box, be creative, and be their own leader of their learning experience!

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
Week 1	Course Orientation and Lecture	Orientation: Welcome students! Review Syllabus. Lecture: What is sociology? I
Week 2	What is sociology? II	Learn what sociology covers as a field and how everyday topics are shaped by social and historical forces. Recognize that sociology involves not only acquiring knowledge but also developing a sociological imagination.

Week 3	Asking and answering sociological questions.	Learn the steps of the research process. Name the different types of questions sociologists address in their research—factual, theoretical, comparative, and developmental.
Week 4	Culture and Society	Learn about the “cultural turn” and sociological perspectives on culture. Understand the processes that changed societies over time.
Week 5	Socialization and the Life Course	Understand how the four main agents of socialization contribute to social reproduction. Learn the stages of the life course, and see the similarities and differences among cultures.
Week 6	Social Interaction and Everyday Life in the Age of the Internet	Understand the core concepts of the “impression management” perspective. Recognize how we use impression management techniques in everyday life.
Week 7	Groups Networks and Organizations	Learn the variety and characteristics of groups, as well as the effect groups have on individual behavior. Know how to define an organization and understand how organizations developed over the last two centuries.
Week 8	Stratification, Class and Inequality	Learn about social stratification and the importance of social background in an individual’s chances for material success. Know the most influential theories of stratification, including those of Karl Marx, Max Weber, and Erik Olin Wright.
Week 9	Work and Economic Life	Understand that modern economies are based on the division of labor and economic interdependence. Consider the different forms that capitalism has taken, and understand on a shift in the predominant form of industrial organization in modern society has shaped the kinds of jobs people are likely to find.

Week 10	Education	Learn sociologists' explanations for achievement gaps among different groups of students. Learn four major sociological perspectives on the role of schooling in society.
Week 11	The Sociology of Body	Understand how social, cultural, and historical contexts shape attitudes toward health, illness, and sexuality. Two theories of understanding health and illness, and historical approaches to sexuality
Week 12	Population, Urbanization and Environment	Learn the key concepts demographers use to understand world population growth (and Japanese depopulation) and the changes in cities. Some Influential Theories Understand how theories of urbanism have placed an increasing emphasis on the influence of socioeconomic factors on city life.
Week 13	Course conclusion and reflection I	Student's individual research presentation and peer review with selected topics covered in this course.
Week 14	Course conclusion and reflection II	Student's individual research presentation and peer review with selected topics covered in this course.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will spend 4-5 hours on class related work including read before class as well as review textbook and complete study log after class each week.

[Textbooks]

Deborah Carr, Anthony Giddens, Mitchell Duneier, Richard P. Appelbaum. (2018).

Introduction to Sociology. Seagull Eleventh Edition. W. W. Norton & Company.

[References]

None.

[Grading criteria]

Students will complete the following assignments to earn credits.

1. In-class discussions except for weeks 1, 13 and 14 (1 x11 times) 11%
2. Study logs (6 x 11 pieces) 66 %
3. Final research presentation 12%
4. Peer-review final presentation 11%

[Changes following student comments]

特になし

[Others]

Students prepare themselves for speaking and discussing in all class sessions except for weeks 1, 13 and 14.

POL200HA (政治学 / Politics 200)

Global Society 1

伊藤 弘太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
 曜日・時限：火3/Tue.3 | キャンパス：市ヶ谷 / Ichigaya
 毎年・隔年： | 科目主催学部：人間環境 Sustainability Studies
 備考（履修条件等）：
 その他属性：〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course examines "peace," which is one of the "Sustainable Development Goals (SDGs)" listed in the "2030 Agenda for Sustainable Development" adopted at the United Nations Summit in 2015. The SDGs are the goal of realizing a sustainable and better society where no one is left behind, and in order to achieve that goal, the realization of "human security" is required.

Understand the concepts of "peace and security" and learn about the "threats" that impede them.

The feature of this lecture is how to maintain peace based on the "fictitious scenario" of peace by utilizing the active learning method and actually becoming a political leader or policymaker. Incorporate a policy simulation that discusses and presents the best method with other students on whether to foster it.

In addition, we will deepen our understanding of the work of achieving peace and conduct off-campus training to interview practitioners engaged in peacebuilding.

【到達目標】

- (1) What is "peace"? Organize what kind of state is called 'peace'.
- (2) Understand the concept of "security" and learn examples of what threatens 'peace'.
- (3) Learn the problems that must be overcome in creating peace through policy simulation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

Among diploma policies, "DP3" is related

【授業の進め方と方法】

This course consist of lectures, discussions, group research, presentations, policy simulation, and various activities including final exam.

Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the learning management system.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Overview of this lecture
Week 2	What is 'Peace'?	About the concept of peace
Week 3	What is 'Security'?	Organize the concept of the difference between human security and national security.
Week 4	International Relations Theory (1) Realism and Liberalism	Introduce the theory as a tool for understanding international relations.
Week 5	International Relations Theory (2) Neorealism and Neoliberalism	Introduce the theory as a tool for understanding international relations.

Week 6	Globalization	What is the impact of globalization on international affairs?
Week 7	Terrorism and Religion	Understand terrorism, which has become a global threat after the collapse of the Cold War, including its relationship with religion.
Week 8	Nuclear and International Relations	Think about the impact of nuclear weapons on international affairs and will deal with the issue of nuclear proliferation.
Week 9	United Nations and the international community	Think about the role and significance of the United Nations in building peace.
Week 10	What is 'Peacebuilding'? (Fieldwork)	Interview with practitioners who are actually doing the work of "creating peace".
Week 11	Discussion	In order to organize the knowledge gained through the lectures and fieldwork so far, the instructor will give various issues and the students will discuss with each other.
Week 12	Experience "what peace is". (Policy Simulation 1)	Experience what it takes to maintain or build peace based on fictitious scenarios.
Week 13	Experience "what peace is". (Policy Simulation 2)	Make final policy decisions and evaluate the results together.
Week 14	Summary / Overall Feedback	Reflections and final remarks

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

(1) Pick up news related to each lecture theme by the next lecture, and summarize where the problem is and (2) possible solutions.

(2) Reviewing is also important. Summarize the points learned in the lecture and review the advice from the lecturer.

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

Materials will be distributed in this lecture.

Use news search on the Internet for your pre-learning.

【参考書】

References will be introduced in this lecture.

【成績評価の方法と基準】

Participation (30%), Presentation and Discussion (30%), Final Exam (40%)

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【学生が準備すべき機器他】

No equipment is needed in this class.

【その他の重要事項】

Please note that if the number of students attending the first class significantly exceeds expectations, in order for the instructor to effectively manage the class, the number of students who are allowed to register for the course may be limited.

I have working experiences in the Executive and the Legislative bodies of Japan to deal with international relations, especially national security affairs. I will introduce actual examples from a practical point of view.

You can use Generation AI services but sentences produced by the generation AI cannot be copied verbatim. You can just utilize the idea.

POL200HA (政治学 / Politics 200)

Global Society 1

伊藤 弘太郎

Term : 秋学期授業 / Fall | Credit(s) : 2 | Day/Period : 火3/Tue.3 | Campus : 市ヶ谷 / Ichigaya | Grade : 1~4
Notes :

その他属性 : 〈ゲ〉〈ダ〉

[Outline and objectives]

This course examines "peace," which is one of the "Sustainable Development Goals (SDGs)" listed in the "2030 Agenda for Sustainable Development" adopted at the United Nations Summit in 2015. The SDGs are the goal of realizing a sustainable and better society where no one is left behind, and in order to achieve that goal, the realization of "human security" is required.

Understand the concepts of "peace and security" and learn about the "threats" that impede them.

The feature of this lecture is how to maintain peace based on the "fictitious scenario" of peace by utilizing the active learning method and actually becoming a political leader or policymaker. Incorporate a policy simulation that discusses and presents the best method with other students on whether to foster it.

In addition, we will deepen our understanding of the work of achieving peace and conduct off-campus training to interview practitioners engaged in peacebuilding.

[Goal]

(1) What is "peace"? Organize what kind of state is called 'peace'.

(2) Understand the concept of "security" and learn examples of what threatens 'peace'.

(3) Learn the problems that must be overcome in creating peace through policy simulation.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Among diploma policies, "DP3" is related

[Method(s)]

This course consist of lectures, discussions, group research, presentations, policy simulation, and various activities including final exam.

Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the learning management system.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

あり / Yes

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
Week 1	Introduction	Overview of this lecture
Week 2	What is 'Peace'?	About the concept of peace
Week 3	What is 'Security'?	Organize the concept of the difference between human security and national security.
Week 4	International Relations Theory (1) Realism and Liberalism	Introduce the theory as a tool for understanding international relations.
Week 5	International Relations Theory (2) Neorealism and Neoliberalism	Introduce the theory as a tool for understanding international relations.
Week 6	Globalization	What is the impact of globalization on international affairs?

Week 7	Terrorism and Religion	Understand terrorism, which has become a global threat after the collapse of the Cold War, including its relationship with religion.
Week 8	Nuclear and International Relations	Think about the impact of nuclear weapons on international affairs and will deal with the issue of nuclear proliferation.
Week 9	United Nations and the international community	Think about the role and significance of the United Nations in building peace.
Week 10	What is 'Peacebuilding'? (Fieldwork)	Interview with practitioners who are actually doing the work of "creating peace".
Week 11	Discussion	In order to organize the knowledge gained through the lectures and fieldwork so far, the instructor will give various issues and the students will discuss with each other.
Week 12	Experience "what peace is". (Policy Simulation 1)	Experience what it takes to maintain or build peace based on fictitious scenarios.
Week 13	Experience "what peace is". (Policy Simulation 2)	Make final policy decisions and evaluate the results together.
Week 14	Summary / Overall Feedback	Reflections and final remarks

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

(1) Pick up news related to each lecture theme by the next lecture, and summarize where the problem is and (2) possible solutions.

(2) Reviewing is also important. Summarize the points learned in the lecture and review the advice from the lecturer. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

Materials will be distributed in this lecture.

Use news search on the Internet for your pre-learning.

[References]

References will be introduced in this lecture.

[Grading criteria]

Participation (30%), Presentation and Discussion (30%), Final Exam (40%)

[Changes following student comments]

N/A

[Equipment student needs to prepare]

No equipment is needed in this class.

[Others]

Please note that if the number of students attending the first class significantly exceeds expectations, in order for the instructor to effectively manage the class, the number of students who are allowed to register for the course may be limited.

I have working experiences in the Executive and the Legislative bodies of Japan to deal with international relations, especially national security affairs. I will introduce actual examples from a practical point of view.

You can use Generation AI services but sentences produced by the generation AI cannot be copied verbatim. You can just utilize the idea.

MAN200MA (経営学 / Management 200)

産業・組織心理学Ⅱ

展開科目

坂爪 洋美

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木2/Thu.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

産業・組織心理学Ⅰに続き、産業・組織心理学の主要なトピックスについて学んでいきます。産業・組織心理学Ⅱでは、特にキャリアに関連する領域、ならびに産業・組織心理学と隣接する人材マネジメントにフォーカスをあてます。組織は働き手の思いと雇用側の思いが時には調和し、時には対立するフィールドです。そこではどのようなことが問題となるのか見ていきます。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下の3点です。

- (1) 産業・組織心理学の主要な概念を理解し、それらを用いて組織の諸問題を説明できるようになること
- (2) 組織の様々な取り組みが、個人に対して与える影響について理解できるようになること
- (3) 自らのキャリアを考える上で重視する人材マネジメントについて語れるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行われます。各回のテーマに則したテーマに関するリアクションペーパーの提出が求められることがあります。また、各回の授業終了後に提出された感想並びに質問に対するフィードバックを、翌授業回の冒頭に、全体に対して行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業オリエンテーション	授業の概要ならびに進め方について紹介します。
第2回	キャリアを理解する①	キャリア発達段階の理論と職業興味理論について紹介します
第3回	キャリアを理解する②	キャリア探索段階におけるインターンシップの意義について紹介します
第4回	キャリアを理解する③	内的キャリアと外的キャリアについて紹介します
第5回	キャリアを理解する④	キャリアの成功とは何かについて紹介します
第6回	組織風土を理解する①	組織風土と組織文化について紹介します
第7回	組織風土を理解する②	昨今関心が高まる心理的安全性について紹介します
第8回	ダイバーシティ①	WLBの考え方と企業の施策の動向を紹介します
第9回	ダイバーシティ②	男性の子育て参加と育児休業取得について紹介します
第10回	ダイバーシティ③	女性ならびにシニアの活用について紹介します
第11回	ダイバーシティ④	ダイバーシティ経営の課題について紹介します
第12回	職場の学習・職場以外の学習①	働く人の学習について紹介します
第13回	職場の学習・職場以外の学習②	企業の育成の広がりについて紹介します
第14回	まとめ	授業全体を振り返ります

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

私達のキャリアを取り巻く環境に興味を持ちましょう。キャリアや「働く」こと、「人事管理」「人材マネジメント」に関する新聞記事・雑誌記事等に広く目を通して下さい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教科書は使用しない

【参考書】

金井壽宏 働くひとのためのキャリア・デザイン 2002年 PHP新書
守島基博 人材マネジメント入門 2004年 日経文庫

【成績評価の方法と基準】

期末テスト 80%

授業内で実施するリアクションペーパー 20%

【学生の意見等からの気づき】

zoomでの授業実施時に、これまで授業内容に関する質問を適宜チャットに書き込むようにしていましたが、質問を書き込む機会を作るようにします。

【学生が準備すべき機器他】

授業で用いるPPTを事前に授業支援システムにアップするので、必要に応じて各自でダウンロードして、持参すること

【その他の重要事項】

1-2回外部講師による講演を実施する可能性があります。

【Outline (in English)】

This course introduces basic topics/theories covered in industrial and organizational psychology, especially career development, mental health and diversity management. These are very important topics to future human Resource Management. The goal of this course to engage students in thinking critically about the needs of workplaces and understand how the science of I-O Psychology helps address those needs. Students will also develop skills for analyzing and integrating social phenomena from the perspective of industrial and organizational psychology.

Students are expected to gather information on issues arising in the current Japanese corporate workplace through reading newspapers and other sources. Self-study time will be two hours per class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 80%、Short reports :20%

MAN200MA (経営学 / Management 200)

キャリア開発論

展開科目

武石 恵美子

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木3/Thu.3 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業では、経済社会や企業の雇用システムの構造変化の下で、個人のビジネスキャリアがどのように開発・形成されているのかを考察していきます。

今、社会は大きく変化しています。「人生100年時代」というように長寿化によりキャリアを考える期間は長期化し、同時に、人口構造の変化、デジタル化など社会の変動は大きく予測が難しくなっており、ビジネスキャリアのあり方も変化しています。個人のビジネスキャリア開発を社会構造、雇用システムとの関連においてとらえ直す必要性が高まっているといえます。

本授業では、キャリア開発にかかわる理論的な枠組みを踏まえ、キャリア開発の現状や課題をとらえる視点、方法論を学びます。近年話題のトピックである、「キャリア自律」、「ダイバーシティマネジメント」、「ワークキャリアとライフキャリアのバランス」などを重点的に取り上げます。

【到達目標】

本授業では、①ビジネスキャリア開発に関する基礎的な理論や知識の習得と、②キャリア開発が経済社会および企業の人事管理と関連し変化することの理解を目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

授業は、ビジネスキャリア開発に関連して、理論等の概説や講義を中心に進めます。

適宜ミニレポート等を書いてもらい、それによって出席を確認します。この授業で使用する資料等は、法政大学のwebサイト上にある「学習支援システム」において受講登録者に授業の前に提供します。授業に出席する際には、この資料をプリントアウトしてることが必須要件です。また、欠席した場合などは、ここで必ず資料を確認してください。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、キャリア開発概論	授業のオリエンテーション、キャリア開発概論
2	キャリア開発とは何か	ビジネスキャリア開発の現状
3	キャリア開発の主体	キャリア開発の主体は企業か個人か、キャリア開発の主体についての考え方を整理する。
4	経営環境とキャリア開発の変化	日本のキャリア開発や働き方の現状、その背景にある日本的雇用システムとその変化の動向
5	キャリア自律	キャリア自律の考え方とキャリア政策の概要
6	ダイバーシティ経営	キャリア開発を取り巻く重要な経営動向であるダイバーシティ・マネジメント
7	正社員の多元化とキャリア開発	正社員の働き方の現状、多元化の動向、勤務地政策の現状
8	ワーク・ライフ・バランスと働き方改革	ワークキャリアとライフキャリアの調和の問題、働き方改革の現状や課題

9	女性のキャリア開発	女性のキャリアをめぐる課題、政策
10	育児期のキャリア開発	育児と仕事の両立、育児期の男女のキャリア開発の課題
11	介護責任とキャリア開発	介護と仕事の両立、育児との違い、病気治療との両立も含めて議論
12	非正規労働者のキャリア開発	パート、派遣などの非正規労働者のキャリア開発の現状と課題
13	職場の問題への対処	ブラック企業、ハラスメントなど職場の問題への対処のあり方
14	総括	講義の総括、まとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業では、テキストに加えて、パワーポイント資料を使います。資料は学習支援システムを通じて事前に提供するので、それを必ずプリントアウトして出席してください。そうしないと授業のスピードについてこれられません。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

教科書は、武石恵美子『キャリア開発論－自律性と多様性に向き合う (第2版)』(中央経済社)です。テキストを参照しながら授業を進めます。

【参考書】

それぞれの授業で取り上げるテーマに関連して、適宜参考文献を紹介いたします。関心のあるテーマがあれば、是非読んでください。

【成績評価の方法と基準】

評価は、期末試験結果と授業出席内容で行います。期末試験を重視し、出席内容 (ミニレポート形式、内容も重視する) を加味して評価します。

期末試験60%、平常点40%。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の人数にもよりますが、受講者が主体的に参加できるように討議等の時間を取りたいと思います。また、受講者からの質問は歓迎しますので、積極的に質問してください。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course is intended that students understand how a personal business carrier is developed under the structural change of the economic society and the employment system. Students will learn how the circumstances surrounding careers are changing amid changes in the economy and society. This course covers such topics as career self-reliance, the diversity management, and work/life balance.

【Learning Objectives】 The goal of this course is to acquire basic theories and knowledge about business career development, and to understand how career development changes in relation to economic society and corporate personnel management.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be calculated according to the following process

Term-end examination(60%) and in-class contribution(40%).

CAR200MA (キャリア教育 / Career education 200)

就業機会とキャリア特講E-働くことと労働組合-

梅崎 修、上西 充子

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火4/Tue.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業は、連合(日本労働組合総連合会)と教育文化協会が主催する寄付講座です。毎回、職場の最前線で活躍するユニオンリーダーをゲスト講師としてお招きし、働くことに伴う様々な課題や課題解決のための労働組合の活動などについて、働く側の目線で事例を交えながら講義していただき、受講者からの質疑により理解を深めます。

講義は、働く意味を見つけること、働く環境や労働条件をより良くすること、職場の仲間を作っていくことなど、具体的な企業情報や業界情報を交えながら行います。変動する職場環境の中で、働く人たちのキャリアデザインも揺らいでいます。その中で働く人々はどのような困難を抱え、労働組合はどのような役割を果たしているのでしょうか。様々な立場にある労働組合関係者のお話を聞きながら、一緒に考えていきます。

学生の中に、働く現場のリアルで最新の情報を開けるのはとても貴重な機会です。

【到達目標】

働く現場の変化や、安心して働く上での問題について、深く理解している。

企業や業界の実務知識や労働法制、社会的支援などの知識を身につけている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

本授業は、ゲスト講師に自らの経験に基づいて講義していただき、その後質疑応答を行います。質疑にあたっては、適宜、グループワークを取り入れる予定です。

授業の進め方やレポートに関する説明は第1回目の授業で行いますので、受講を考えている学生は、第1回目授業を必ず受講してください。

ゲスト講師からは、労働組合の活動について説明していただくだけでなく、様々な業界や企業の最新の情報についても講義してもらいます。学生からの主体的な参加により理解が深まりますので、積極的に質問などをしてください。なお、ゲスト講師との調整により、計画に変更が生じる可能性がありますので、定期的に学習支援システムで予定を確認してください。

授業で使用する資料等は、学習支援システムにおいて、受講登録者に当該授業の前に提供します。資料内容を確認してから授業を受講してください。各回の授業では質問の時間を多めに確保しますので、積極的に質問をおこなってください。そのことが、皆さんの疑問や問題意識に対するフィードバックとなり、また、毎回のゲスト講師の方の論点の深掘りにも寄与することとなります。なお、若手組合員とのグループディスカッションも可能な範囲で組み込む予定です。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	【オリエンテーション】	担当教員から授業の導入、「労働組合とは何か」を理解する

2	<p>【開講の辞】 連合寄付講座で法政大学の皆さんに学んでほしいこと</p> <p>【課題提起①】 「働くこと」について考える～労働組合の役割と意義～</p>	<p>【開講の辞】 連合寄付講座の開講の趣旨を伝えることで、本講座を通じて学んでほしいことは何かを理解してもらおう。</p> <p>【課題提起①】 「働くこと」について考えてもらうとともに、労働者を取り巻く現状と課題を明確化する。また、労働組合の役割や意義について学び、労働組合がめざす社会のイメージを掴んでもらおう。 (2023年度ゲストは教育文化協会)</p>
3	<p>【課題提起②】 いま働く現場で何が起きているのか～職場における課題と労働組合の役割～</p>	<p>若者に関わる労働相談事例等からいま職場で起きている問題を身近なものとして捉えてもらうとともに、それらの解決に向けた労働組合の役割(職場における課題解決に向けてどのような取り組みを行っているのか)と意義について理解してもらおう。 (2023年度ゲストは連合事務局)</p>
4	<p>【ケーススタディ①】 労働時間の短縮に向けた取り組み</p>	<p>働く者が健康で安心して暮らすために、労働組合はどのように取り組んでいるのか。長時間労働の是正や休暇取得の促進など、労働時間の短縮に向けた取り組み事例を聴き、理解してもらおう。近年導入の進んでいるテレワークに関する事例にも触れてもらう。 (2023年度ゲストは生保労連)</p>
5	<p>【ケーススタディ②】 非正規雇用労働者の組織化と処遇改善に向けた取り組み</p>	<p>なぜ、非正規雇用労働者の組織化や処遇改善が必要なのか。企業別労組における非正規雇用労働者の労働組合加入および正規雇用労働者との処遇格差是正に向けた取り組み事例を聴き、考えてもらう。 (2023年度ゲストは伊藤ハム労働組合)</p>
6	<p>【ケーススタディ③】 公務労働の現状と公共サービスの役割</p>	<p>「安定した職場」と言われる公務員の働き方の現状はどうなっているのか。公務職場の現状・課題と良質な公共サービス(新しい公共)の実現に向けた公務労組の取り組み事例を聴き、理解してもらおう。 (2023年度ゲストは自治労)</p>
7	<p>【ケーススタディ④】 男女がともに働きやすい職場づくりに向けた取り組み</p>	<p>男女がともに活き活きと働き続けるための課題や具体策とは何か。職場の環境改善や当該課題の解決に取り組む労働組合役員から話を聴き、考えてもらう。 (2023年度ゲストはJP労組)</p>
8	<p>【ケーススタディ⑤】 AI技術やDXの進展に伴う課題と労働組合の役割</p>	<p>AI技術やDXの進展に伴う働き者への影響と、それに対して労働組合ではどのような対応が行われているのかを聞き、デジタル化が進展する中で働くということについて考えてもらう。 (2023年度ゲストはKDDI労働組合)。</p>

- 9 **【ケーススタディ⑥】** 雇用と生活を守る取り組み
技術革新やグローバル化が進む中、労働組合はどのように働く者の雇用と生活を守るのか。企業組織再編や倒産時などにおける中小企業労組の取り組み事例、ものづくり産業における熟練技能継承支援の取り組み事例、外国人労働者を取り巻く実情等を聴き、理解してもらう。(2023年度ゲストはJAM)
- 10 **【課題への対応①】** 労働者保護ルールの堅持・強化に向けた取り組み
働く者を守るために、労働組合は働き方に関わる法改正にどのように関わっているのか。健康・安全確保のための労働時間制度の見直しや、雇用形態に関わらないすべての働く者の雇用安定・処遇改善に向けた取り組みを聴き、理解してもらう。(2023年度ゲストは連合労働法制局)
- 11 **【課題への対応②】** 国際労働運動の役割～グローバル化への対応～
進行するグローバル化に労働組合はどのように対応しているのか。国際労働機関との関わり、多国籍企業問題に対する取り組み、国内だけでは解決できない課題に対する労働組合の国際的な役割について考えてもらう。(2023年度ゲストはITUC/ ILO)
- 12 **【課題への対応③】** 労働諸条件の維持・向上に向けた取り組み
労働組合は、働く者の労働条件の維持・向上に向けて、どのように取り組んでいるのか。なかでも代表的な取り組みとして挙げられる「春闘」は、なぜ同時期に全国一斉に行うのか。連合の取り組みを聴き、学生に理解してもらう。(2023年度ゲストは連合労働条件・中小地域対策局)
- 13 **【修了講義】** 連合運動の現在と未来～これから社会へ出る皆さんへ～
すべての働く者が安心して働くことができる社会の実現に向けて、連合・労働組合は何をすべきか。連合の課題認識を聴いて、これからの社会や働き方、連合運動の役割について具体的に考えてもらう。(2023年度ゲストは連合事務局)
- 14 **【論点整理】** 「働くということ」と労働組合
ケーススタディーを振り返り、それぞれの課題と労働組合の役割の確認を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回授業時に全14回分の講義概要を配布します。それをもとに、会社、業界、労働組合について下調べをしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

授業内で随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（コメント内容含む）が50%、レポートが50%。
毎回の授業への積極的な参加を重視する。

【学生の意見等からの気づき】

労働用語、組合関連用語も随時説明していきます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class is a donation course sponsored by the Union (Japan Trade Union Confederation) and the Education and Culture Association. Each time, we invite labor union officials who are active on the front lines of the workplace as guest lecturers to give lectures on the activities of the labor union with examples. Lectures will be given with company information and industry information, such as finding the meaning of work, improving the working environment and working conditions, and making colleagues in the workplace. In the changing work environment, the career design of workers is also shaking. What difficulties do the people working in it have, and what role does the union play? We will think together while listening to the stories of labor union officials from various positions.

【Learning Objectives】

Students are expected to understand deeply the changes in the workplace and the issues involved in working in a safe and secure environment.

They are also expected to acquire practical knowledge of companies and industries, labor laws, and social support.

【Learning activities outside of classroom】

A total of 14 lecture outlines will be distributed at the time of the first class. Use it to do some preliminary research on companies, industries, and trade unions. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

In-class contributions (including comments): 50%

Term-end report: 50%.

LIN200LA (言語学 / Linguistics 200)

Intercultural Communication D 2017年度以降入学者

サブタイトル：Arts-Based Learning of Equity, Diversity, and Social Activism

石原 紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

定員制

必要とされる英語能力基準は、TOEFL iBT 61以上のスコア。TOEFL® iBT 61 is required.

その他属性：〈グ〉〈ダ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

In this course, we start by discussing how arts facilitate learning, especially of current social issues related to equity, diversity, and social justice in the globalized world today. You are invited to become part of this learning community sharing your cultural and social knowledge and experience while learning from others of all majors enrolled in this course. You will experience various forms of art incorporated into social activism calling for social and ecological justice. Through this experience, you will understand social, political, and historical backgrounds associated with the given activism. Your learning will be facilitated through the modeling by the instructor as well as through peer teaching. We will also collaboratively research, discuss, and learn about non-violent peace activists from various cultures and ethnic groups in the world. This will provide you with an opportunity to consider a method and option of acting and relating to others with respect, empathy, and compassion within and across cultural borders.

【到達目標】

In this course, you will: 1) understand and appreciate artistic expressions of equity and diversity, 2) understand social activism behind artistic expressions, and 3) participate in an arts-based approach to social justice issues. You will also reflect on your own reactions to issues of equity and diversity and consider how this learning may influence your values, identities, and worldview in relation to your major field of study and career choice.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Before class you are required to work on some reading assignments. In class we study new material, complete relevant tasks in pairs or small groups, and share your discussion with the class. You are encouraged to actively participate in group work and problem-based learning (PBL). Feedback will be given orally in interaction throughout the course. Written feedback will also be provided for your writing and oral presentations within a week of your assignment submission.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Course information, getting to know each other

2	Learning language from/with art	Learning about social activism from poetry, Marshall Rosenberg
3	Poetry - 1, social activism	Developing multicultural identities through poetry, Mother Teresa
4	Poetry - 2, social activism	Appreciating poetry writing, Mahatma & Katurabai Gandhi
5	Film, social activism	Film for art and social justice, Nelson Mandela
6	Stories/Story-telling, social activism	Narratives for equity and diversity, Mairead Corrigan McGuire & Betty Williams
7	Artistic creativity in peace linguistics, social activism	Language and peace, H. H. The Dalai Lama
8	Music - 1, social activism	Social activism through music, social activist (TBA)
9	Music - 2, social activism	Social activism through music, Peter Benenson
10	Children's literature,	Art and social justice in picture books, Sister Chan Khong
11	Folk tales	Peace education via kamishibai theater, Cesar Chavez
12	Novels	Social/ecological justice through literature, Meena Keshwar Kamal
13	Documentaries	Equity and diversity in documentary films, social activist (TBA)
14	Wrap-up	Reflection and your artistic expression

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

You should complete assigned reading and/or homework ahead of time and come to class ready for discussion. Review your lesson after class and complete reflective writing when assigned.

For your presentations, develop a peer teaching session on artistic expressions of diversity or equity issues (Micro Teaching) and creative multi-media talk on a social activist of your choice (Mini-Research presentation). Prepare a presentation and discussion appealing and engaging for your peers and rehearse it to be effective.

University guidelines suggest the preparation and review time of around two hours a week for a two-credit course like this one.

【テキスト (教科書)】

Censor, Meera. (2011). Humanitarians for justice, nonviolence, and peace. San Bernadino, California.

【参考書】

Other readings will be distributed through the course website, Google Classroom. Handouts and resources related to the course content are to be provided in class or made available in Google Classroom as well.

【成績評価の方法と基準】

You will receive a formal assessment of your work at the end of the term. The grade on a late assignment may be lowered. You will be graded on:

- 1) Attendance and participation (20%)
- 2) Micro teaching and mini research presentations (50%)
- 4) Online reactive writing (16%)
- 5) Final reflection (14%)

Regular attendance is essential in order to benefit from the interactive nature of this course. You will not be able to pass this course if you miss more than three class periods a semester except in extreme circumstances.

【学生の意見等からの気づき】

Message to the course participants:

This is a course that requires you to share your ideas, knowledge, and experiences. You will meet interesting peers from various cultures and learn from working with them as well as the instructor. Be ready to interact with different peers each time.

This course is conducted in English. Students must be competent speakers of English (native or proficient with TOEFL® iBT 81+ or equivalent). If your scores are TOEFL® iBT 81 - 100, you can take this course but be ready to make a little more thorough preparation each week.

I expect international and Japanese students of all majors to work collaboratively despite their different cultural and linguistic backgrounds. Come with an open mind and learn from each other!

【学生が準備すべき機器他】

Become familiar with the course website to download readings and post your work. You are also expected to check your university email on a daily basis to keep up with course announcements.

【その他の重要事項】

Depending on the pandemic situation and your preferences, the course delivery method may change. Please check announcements on Hoppii before the start of the course and Google Classroom during the semester.

ARSa200LA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 200)

Intercultural Communication F 2017年度以降入学者

サブタイトル：A Global History of France

ルルー 清野 ブレندان

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈グ〉〈ダ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This course explores topics in the history of France from a global perspective. In recent years, global history, alongside connected history or transnational history, has revealed complex interactions between goods, ideas, people across nation-states and regions.

The aim of this course, thus, is to provide students with an overview of the History of France, not as a nation-state per se but as a part of a connected, global world. The course will principally follow the (mainly) acclaimed *France in the World - A New Global History*, edited by Patrick Boucheron and Stéphane Gerson.

【到達目標】

By the end of this course, students should be able to:

- understand and explain key concepts and ideas about the history of France in a global perspective;
- critically read and analyse academic readings on the history of France by incorporating the framework of global history;
- discuss their ideas on the history of France with others;
- deploy appropriate analytical tools to critically examine various historical materials.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

The course consists of lectures, class discussions, group activities, and student presentations (depending on the number of enrolled students).

All work is carried out in English in class and that includes interaction between students and from students to teacher. Students will deal with reading various historical and academic texts, looking at visual documents such as pictures and diagrams, watching videos, then they will discuss these, try to answer questions, and apply strategies to solve problems. The format of the course will be as interactive and participatory as possible, with the help of screened slides in order to explain important facts and/or concepts.

The key to success in this course is weekly preparation and review of the class content, and active participation during class discussion and group works, in order to build a common knowledge about the history of France in a global perspective.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	- Self-introductions - Overview of the syllabus - Introduction of the course: "Early stirrings in one corner of the World"
2	From one Empire to another	- Romans like the rest - The Franks choose Paris as their capital - Africa knocks at the Franks' door
3	The feudal order triumphs	- When languages did not make kingdoms - Normans in the four corners of the World - Troyes, a Talmudic capital
4	France expands	- The two Europes, and the France of Bouvines - Universitas: the "French model" - Saint Louis is born in Carthage
5	The great Monarchy of the West	- An image of the World in a library - An enslaved black man in Pamiers - Jacques Cartier and the new lands - The Empire of the French language
6	Absolute power	- Spain cedes supremacy and cocoa to France - Versailles, capital of French Europe - 1492, French-style? - Siam: a missed opportunity
7	Enlightenment Nation	- A Kingdom for an Empire - The World's a conversation - The Global Revolution - Plantations in Revolution
8	A homeland for a universal Revolution	- Many nations under one code of law - Utopian year - Paris, Revolution ground zero - Penal colonization
9	Globalization in the French style (1)	- The other free trade country - The inauguration of the Suez canal - Local revolution, global myth
10	Globalization in the French style (2)	- Measuring the world - Dreyfus, a European affair - France hosts the World
11	Modernizing in troubled times (1)	- The view from New Caledonia - Two World-changing conferences - Naturalizing
12	Modernizing in troubled times (2)	- Empire at the gates of Paris - A French New Deal - Reinventing feminism - The end of the federalist dream and the invention of Françafrique

- | | | |
|----|--|---|
| 13 | Leaving the colonial empire, entering Europe | <ul style="list-style-type: none"> - "The wretched of the Earth": mourn Frantz Fanon - "A specter haunts the planet" - The other 9/11 - Socialism and globalization |
| 14 | Today in France | <ul style="list-style-type: none"> - France and multiculturalism: "Black-Blanc-Beur" - "This message comes to you from an old country" - The return of the flag |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are required to read all the assignments (given in advance) and be ready for class discussions, group activities and presentations in class.

University guidelines suggest preparation and review should be around two hours a week for a two-credit course like this one.

【テキスト（教科書）】

There is no textbook to be bought for this class.

However, reading and viewing assignments will be made available in the reserve section of the library and/or uploaded to the course website on Hoppii (student information management system).

【参考書】

France in the World - A New Global History, edited by Patrick Boucheron and Stéphane Gerson, Other Press, 2019.

【成績評価の方法と基準】

50% - Attendance, class participation, short tests (in class)

30% - Homework, "preparation sheets" etc. (at home)

20% - Final group presentation or report or final exam (depending on the number of enrolled students)

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

* Regular attendance is essential in order to benefit from the interactive nature of this course. Therefore, you will not be able to pass this course if you miss more than three classes. Moreover, full score for regular attendance is only given to those students attending all classes. Each absence will result in a 10% lowering of your final grade. If you are absent for any reason, you must contact the lecturer through e-mail and explain.

【学生の意見等からの気づき】

n/a (First time the instructor is teaching this course.)

【その他の重要事項】

- The course will be given in English, therefore students are expected to have a basic knowledge of English at university level. But perfect English is NOT required to take this class (the lecturer does not use himself a perfect English). The will to develop your English skills and an interest in history and historical texts is also expected. When necessary, additional explanations (e.g. difficult terms) may be given in Japanese or other languages.

- Students being late more than 15 minutes for no valid reason will be counted as being absent!

- Depending on the number of enrolled students and on the rhythm of the class, the above schedule is subject to change.

- Please refrain from private conversations during class, but feel free to ask any questions you may have.

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

国際協力論

佐野 竜平

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

備考（履修条件等）：2018年度以降入学者のみ受講可能。2017年度以前入学者は「N6116 国際支援論」を受講すること。

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ダ〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代福祉に関連したインクルーシブな国際協力・開発の理論および実践の基礎を学ぶ。

【到達目標】

学生が将来何らかの形で国際社会に関わることを前提に、現代福祉とインクルーシブ開発に関する基礎知識とスキルを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

現代福祉と国際協力について、インプットとアウトプットを繰り返しつつ触れていく。対面を基本に、一部オンラインを組み合わせて実施する。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システムまたはGoogle フォーム等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	各講義の概要、ポイントを紹介
第2回	SDGsと現代福祉①	SDGsと国際社会に関する学び①
第3回	SDGsと現代福祉②	SDGsと国際社会に関する学び②
第4回	国際機関と国際協力①	国連による現代福祉に関する学び①
第5回	国際機関と国際協力②	国連による現代福祉に関する学び②
第6回	国際協力の現場から①	海外の現場から実際に学ぶ①
第7回	日本政府と国際協力①	日本政府による国際協力に関する学び①
第8回	日本政府と国際協力②	日本政府による国際協力に関する学び②
第9回	国際協力と人材	国際協力に必要な人材と職種
第10回	国際協力の現場から②	海外の現場から実際に学ぶ②
第11回	NGO/民間企業と国際協力①	NGO/民間企業による現代福祉に関する実践①
第12回	NGO/民間企業と国際協力②	NGO/民間企業による現代福祉に関する実践②
第13回	国際協力に関する課題	課題発表と質疑応答
第14回	講義の振り返り	各講義のレビュー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回講義で配布した資料等の復習。本講義の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定なし。

【参考書】

外務省 開発協力白書。必要に応じて資料等を適宜配布。

【成績評価の方法と基準】

Google フォームによるリアクションペーパーの提出（平常点）：50%、課題提出：50%（課題ファイル40%、発表10%）

【学生の意見等からの気づき】

講義内容・計画に関する学生からの積極的な提案をできるかぎり反映。

【学生が準備すべき機器他】

講義準備・履修のための機器（パソコン、スマートフォン等含む）

【その他の重要事項】

上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野】

障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング

【Outline (in English)】

【Course Outline】 With a focus on inclusive development, basic theories, practices, and important findings on international cooperation and development in the developing world are to be introduced.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students are expected to gain a foundational understanding of international cooperation in the context of social policy and administration.

【Learning activities outside of classroom】 Before and after each class, students are expected to spend 2 hours each to understand the course contents.

【Grading Criteria /Policy】 Grading will be determined based on reaction papers (50%) and report and presentation (50%).

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

Community Based Inclusive Development

佐野 竜平

配当年次 / 単位数：2～4年次 / 2単位

その他属性：〈グ〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This course is designed to provide an overview of the concept of inclusive development in relation to well-being studies.

【到達目標】

This course aims to provide practical and applicable knowledge and skills related to the mentioned subject.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

(福祉コミュニティ学科) ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

(臨床心理学科) ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

The course will be offered entirely online, with real-time Zoom sessions. Announcements, course materials, assignments, and feedback will be provided through the learning support system and Google Form. Additionally, guest speakers will be invited for practical discussions.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
No.1	Introduction	Overview the planned sessions
No.2	SDGs and Well-being(1)	Concept of inclusive development(1)
No.3	SDGs and Well-being(2)	Concept of inclusive development(2)
No.4	SDGs and Well-being(3)	Concept of inclusive development(3)
No.5	Good Practice on CBID(1)	Initiatives in a community(1)
No.6	Good Practice on CBID(2)	Initiatives in a community(2)
No.7	Good Practice on CBID(3)	Initiatives in a community(3)
No.8	Human rights issues(1)	Challenges in inclusive settings (1)
No.9	Human rights issues(2)	Challenges in inclusive settings (2)
No.10	Human rights issues(3)	Challenges in inclusive settings (3)
No.11	Going into the unknown(1)	Exploring the world(1)
No.12	Going into the unknown(2)	Exploring the world(2)
No.13	Going into the unknown(3)	Exploring the world(3)
No.14	Review	Reviewing the past lectures and feedback

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students are expected to review reference materials. The time for the preparation and review of this course is 2 hours each.

【テキスト (教科書)】

Handouts

【参考書】

Sustainable Development Goals <https://sdgs.un.org/>

World Health Organization <https://www.who.int/health-topics/disability>

【成績評価の方法と基準】

In-class participation:50%, Reaction papers through Google form:50%

【学生の意見等からの気づき】

Suggestions are to be reflected in the design of the course.

【学生が準備すべき機器他】

Online tools (PC, Smartphone)

【その他の重要事項】

Themes and contents are subject to change. Lectures are according to practical knowledge and experience gained in and out of Japan.

【担当教員の専門分野/Expertise】

Disability-Inclusive and Sustainable Development, International Cooperation, Regional Development in Asia (Southeast Asia in particular)

【Outline (in English)】

This course is designed to provide an overview of the concept of inclusive development in relation to well-being studies.

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

Community Based Inclusive Development

佐野 竜平

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：金2/Fri.2 | キャンパス：多摩

毎年・隔年： | 科目主催学部：

備考（履修条件等）：

その他属性：〈グ〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

【担当教員の専門分野/Expertise】

Disability-Inclusive and Sustainable Development, International Cooperation, Regional Development in Asia (Southeast Asia in particular)

【Outline (in English)】

This course is designed to provide an overview of the concept of inclusive development in relation to well-being studies.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to provide an overview of the concept of inclusive development in relation to well-being studies.

【到達目標】

This course aims to provide practical and applicable knowledge and skills related to the mentioned subject.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

(福祉コミュニティ学科) ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

(臨床心理学科) ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

The course will be offered entirely online, with real-time Zoom sessions. Announcements, course materials, assignments, and feedback will be provided through the learning support system and Google Form. Additionally, guest speakers will be invited for practical discussions.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
No.1	Introduction	Overview the planned sessions
No.2	SDGs and Well-being(1)	Concept of inclusive development(1)
No.3	SDGs and Well-being(2)	Concept of inclusive development(2)
No.4	SDGs and Well-being(3)	Concept of inclusive development(3)
No.5	Good Practice on CBID(1)	Initiatives in a community(1)
No.6	Good Practice on CBID(2)	Initiatives in a community(2)
No.7	Good Practice on CBID(3)	Initiatives in a community(3)
No.8	Human rights issues(1)	Challenges in inclusive settings (1)
No.9	Human rights issues(2)	Challenges in inclusive settings (2)
No.10	Human rights issues(3)	Challenges in inclusive settings (3)
No.11	Going into the unknown(1)	Exploring the world(1)
No.12	Going into the unknown(2)	Exploring the world(2)
No.13	Going into the unknown(3)	Exploring the world(3)
No.14	Review	Reviewing the past lectures and feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review reference materials. The time for the preparation and review of this course is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

Handouts

【参考書】

Sustainable Development Goals <https://sdgs.un.org/>

World Health Organization <https://www.who.int/health-topics/disability>

【成績評価の方法と基準】

In-class participation:50%, Reaction papers through Google form:50%

【学生の意見等からの気づき】

Suggestions are to be reflected in the design of the course.

【学生が準備すべき機器他】

Online tools (PC, Smartphone)

【その他の重要事項】

Themes and contents are subject to change. Lectures are according to practical knowledge and experience gained in and out of Japan.

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

Disability and Development in Asia

佐野 竜平

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈グ〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In line with the principles of the United Nations Convention on the Rights of Persons with Disabilities and the Sustainable Development Goals, this course is designed to provide an overview of the theory and practice of disability and development in Asia.

【到達目標】

Basic knowledge and skills on disability and development in Asia are to be acquired based on input from local perspectives.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

(福祉コミュニティ学科) ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

(臨床心理学科) ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

The course will be offered entirely online, with real-time Zoom sessions. Announcements, course materials, assignments, and feedback will be provided through the learning support system and Google Form. Additionally, guest speakers will be invited for practical discussions.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
No.1	Introduction	Overview of the planned sessions
No.2	Comparative Study(1)	Persons with disabilities in Pakistan
No.3	Comparative Study(2)	Persons with disabilities in Nepal
No.4	Comparative Study(3)	Persons with disabilities in Afghanistan
No.5	Comparative Study(4)	Persons with disabilities in India
No.6	Comparative Study(5)	Persons with disabilities in Bangladesh
No.7	Comparative Study(6)	Persons with disabilities in Vietnam
No.8	Comparative Study(7)	Persons with disabilities in Cambodia
No.9	Comparative Study(8)	Persons with disabilities in Malaysia
No.10	Comparative Study(9)	Persons with disabilities in Thailand
No.11	Comparative Study(10)	Persons with disabilities in Myanmar
No.12	Comparative Study(11)	Persons with disabilities in the Philippines
No.13	Comparative Study(12)	Persons with disabilities in Indonesia
No.14	Review	Reviewing the past lectures and feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review reference materials. The time allotted for the preparation and review of this course is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

Handouts

【参考書】

United Nations Convention on the Rights of Persons with Disabilities <https://www.ohchr.org/EN/HRBodies/CRPD/Pages/ConventionRightsPersonsWithDisabilities.aspx>

States parties reports of the Convention on the Rights of Persons with Disabilities <https://www.ohchr.org/EN/HRBodies/CRPD/Pages/CRPDIndex.aspx>

【成績評価の方法と基準】

In-class participation:50%, Reaction paper through Google form:50%

【学生の意見等からの気づき】

Suggestions are to be reflected in the design of the course.

【学生が準備すべき機器他】

Online tools (PC, Smartphone)

【その他の重要事項】

Themes and contents are subject to change. Lectures are according to practical knowledge and experience gained in and out of Japan.

【担当教員の専門分野/Expertise】

Disability-Inclusive and Sustainable Development, International Cooperation, Regional Development in Asia (Southeast Asia in particular)

【Outline (in English)】

In line with the principles of the United Nations Convention on the Rights of Persons with Disabilities and the Sustainable Development Goals, this course is designed to provide an overview of the theory and practice of disability and development in Asia.

SOW300JB (社会福祉学 / Social Welfare 300)

Disability and Development in Asia

佐野 竜平

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：金2/Fri.2 | キャンパス：多摩

毎年・隔年： | 科目主催学部：

備考（履修条件等）：

その他属性：〈グ〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

【学生が準備すべき機器他】

Online tools (PC, Smartphone)

【その他の重要事項】

Themes and contents are subject to change. Lectures are according to practical knowledge and experience gained in and out of Japan.

【担当教員の専門分野/Expertise】

Disability-Inclusive and Sustainable Development, International Cooperation, Regional Development in Asia (Southeast Asia in particular)

【Outline (in English)】

In line with the principles of the United Nations Convention on the Rights of Persons with Disabilities and the Sustainable Development Goals, this course is designed to provide an overview of the theory and practice of disability and development in Asia.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In line with the principles of the United Nations Convention on the Rights of Persons with Disabilities and the Sustainable Development Goals, this course is designed to provide an overview of the theory and practice of disability and development in Asia.

【到達目標】

Basic knowledge and skills on disability and development in Asia are to be acquired based on input from local perspectives.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

(福祉コミュニティ学科) ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

(臨床心理学科) ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

The course will be offered entirely online, with real-time Zoom sessions. Announcements, course materials, assignments, and feedback will be provided through the learning support system and Google Form. Additionally, guest speakers will be invited for practical discussions.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
No.1	Introduction	Overview of the planned sessions
No.2	Comparative Study(1)	Persons with disabilities in Pakistan
No.3	Comparative Study(2)	Persons with disabilities in Nepal
No.4	Comparative Study(3)	Persons with disabilities in Afghanistan
No.5	Comparative Study(4)	Persons with disabilities in India
No.6	Comparative Study(5)	Persons with disabilities in Bangladesh
No.7	Comparative Study(6)	Persons with disabilities in Vietnam
No.8	Comparative Study(7)	Persons with disabilities in Cambodia
No.9	Comparative Study(8)	Persons with disabilities in Malaysia
No.10	Comparative Study(9)	Persons with disabilities in Thailand
No.11	Comparative Study(10)	Persons with disabilities in Myanmar
No.12	Comparative Study(11)	Persons with disabilities in the Philippines
No.13	Comparative Study(12)	Persons with disabilities in Indonesia
No.14	Review	Reviewing the past lectures and feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review reference materials. The time allotted for the preparation and review of this course is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

Handouts

【参考書】

United Nations Convention on the Rights of Persons with Disabilities <https://www.ohchr.org/EN/HRBodies/CRPD/Pages/ConventionRightsPersonsWithDisabilities.aspx>

States parties reports of the Convention on the Rights of Persons with Disabilities <https://www.ohchr.org/EN/HRBodies/CRPD/Pages/CRPDIndex.aspx>

【成績評価の方法と基準】

In-class participation:50%, Reaction paper through Google form:50%

【学生の意見等からの気づき】

Suggestions are to be reflected in the design of the course.

HIS300LA (史学/History 300)

教養ゼミ I

2017年度以降入学者

神谷 丹路

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

定員制 (20)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

在日コリアンの歴史を学び、グローバル時代の多文化共生を考える：日本には「在日朝鮮人」「在日韓国人」「在日コリアン」と呼ばれる人々、また日本国籍を保持するがルーツは朝鮮半島にあるという人々も多数住んでいる。現代日本は、こうした人々とともに社会が構成されている。本授業では在日コリアンの歴史や現在を学び、日本における多文化共生のありかたを探る。またそれらの人々の祖国であり、日本の隣国である韓国・朝鮮についての理解も深め、グローバル時代のコリアンと日本人の相互理解、共生、境界と融合について考えていきたい。

【到達目標】

文献や映像などを手がかりに、受講生が日常生活の中で無意識に形成している「先入観」を再検証しながら、受講生同士の討論を深め、それぞれの考えや理解を発展させていくことを目指す。受身の勉強ではなく、受講生同士が見解を発表し、互いに刺激し合い、自ら調べたり、問題を発見したりして、積極的に授業内で発信していくスキルを磨くことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業の基本的な流れは、以下の通りである。

ゼミ形式で進める。春学期は、「在日コリアン」の歴史と現在について基本事項を学習することを柱とする。テキストの内容を毎回レポーターの報告と全員の討論で読み進めていく。参加型授業である。理解を深めるために、随時、映像資料なども視聴しながら進行する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、授業計画の説明
2	在日コリアン概説	世界のコリアン、日本のコリアン
3	1)「見えないものを見ること」	学生によるテキストの報告、映像、討論。
4	2)「多民族多文化のまち川崎」	学生によるテキストの報告、映像、討論。
5	3)「ヘイトは何を壊してしまうか」	学生によるテキストの報告、映像、討論。
6	4)「ヘイト現象を考えるための基礎知識」	学生によるテキストの報告、映像、討論。
7	5)「在日外国人差別の歴史」	学生によるテキストの報告、映像、討論。
8	6)「移民社会日本」	学生によるテキストの報告、映像、討論。
9	7)「人種差別とジェノサイド」	学生によるテキストの報告、映像、討論。
10	8)「私たちは差別と無関係か」	学生によるテキストの報告、映像、討論。

11	9)「共に生きる」というけれど」	学生によるテキストの報告、映像、討論。
12	10)「東アジア市民というありかた」	学生によるテキストの報告、映像、討論。
13	資料館見学	資料館見学
14	まとめの討論	在日コリアンの現状と共生社会への課題

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回、テキストの該当箇所を必ず熟読すること。テキスト以外の関連書籍も積極的に読むこと。新聞などニュースに注意を払い、ニュースを深く読むことを普段から心がけること。在日コリアンに関する時事問題などに、とりわけアンテナを張っておくこと。それぞれの課題にしっかり取り組むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

風巻浩・金迅野『ヘイトをのりこえる教室 ともに生きるためのレッスン』大月書店 1700円+税。受講生は、全員、必ず購入すること。

【参考書】

加藤圭木監修・一橋大学社会学部加藤圭木ゼミナール編『日韓』ももやもやと大学生のわたし』大月書店
加藤圭木監修・朝倉希実加・李相真・牛木未来・沖田まい・熊野功英編『ひろがる「日韓」のもやもやとわたしたち』大月書店
緒方義広・古橋綾編『韓国学ハンマダン』岩波書店

【成績評価の方法と基準】

討論への積極的な参加など授業への貢献度50%、プレゼンテーション・期末レポート50%。理由のある場合を除き、原則的に全回出席のこと。

【学生の意見等からの気づき】

共生のあり方には無限の可能性がある。現在進行形の諸問題にも、可能な限り取り組んでいきたい。

【その他の重要事項】

秋学期に開講される教養ゼミII「在日コリアンの歴史」とともに履修し、春学期秋学期通年で履修することを薦めます。春学期に学んだ基礎的事項が、秋学期の学習に活かされて、理解が深く広がります。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course deals with the History and Culture of Korean Japanese in Japan. In the history of Koreans in Japan in 20th century, Japan has been heavily involved.

< Learning Objectives >

The aim of this course is to learn the History and the Culture of Korean Japanese in Japan and understand their existences deeply.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end report&Presentation : 50%, in-class contribution:50%.

HIS300LA (史学/History 300)

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

神谷 丹路

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

単位数：2単位

定員制 (20)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

在日コリアンの歴史を学び、グローバル時代の多文化共生を考える：日本には「在日朝鮮人」「在日韓国人」「在日コリアン」と呼ばれる人々、また日本国籍を保持するがルーツは朝鮮半島にあるという人々も多数住んでいる。現代日本は、こうした人々とともに社会が構成されている。本授業では在日コリアンの歴史や現在を学び、日本における多文化共生のありかたを探る。またそれらの人々の祖国であり、日本の隣国である韓国・朝鮮についての理解も深め、グローバル時代のコリアンと日本人の相互理解、共生、境界と融合について考えていきたい。

【到達目標】

文献や映像などを手がかりに、受講生が日常生活の中で無意識に形成している「先入観」を再検証しながら、受講生同士の討論を深め、それぞれの考えや理解を発展させていくことを目指す。受身の勉強ではなく、受講生同士が見解を発表し、互いに刺激し合い、自ら調べたり、問題を発見したりして、積極的に授業内で発信していくスキルを磨くことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ゼミ形式で進める。秋学期は、「在日コリアン」の歴史と現在について基本事項を整理しつつ学習していく。テキストの内容を毎回レポーターの報告と全員の討論で読み進めていく。参加型授業である。理解を深めるために、随時、映像資料なども視聴しながら進行する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	1) ガイダンス	自己紹介、授業計画の説明
2	2) 「在日コリアン概説」	戦前戦後の在日コリアンの歴史
3	3) 「ひろがる「日韓」のモヤモヤ①」	学生によるテキストの報告、映像、討論。
4	4) 「ひろがる日韓のモヤモヤ②」	学生によるテキストの報告、映像、討論。
5	5) 「戦後の日韓関係・歴史否定論と第3次韓流ブーム」	学生によるテキストの報告、映像、討論。
6	6) 「加害の歴史を学ぶということ」	学生によるテキストの報告、映像、討論。
7	7) 「朝鮮学校と在日コリアン」	映像視聴、討論。
8	8) 「100年前の東京で起きたこと」	学生によるテキストの報告、映像、討論。
9	9) 「多摩川、生野、ウトロを歩いて考える」	学生によるテキストの報告、映像、討論。
10	10) 「沖縄と日本軍「慰安婦」問題」	学生によるテキストの報告、映像、討論。

11	11) 「終わらないモヤモヤとその先」	学生によるテキストの報告、映像、討論。
12	12) 映像	学生によるテキストの報告、映像、討論。
13	13) 資料館見学	資料館見学
14	14) まとめの討論	在日コリアンの現状と共生社会への課題

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回、テキストの該当箇所を必ず熟読すること。テキスト以外の関連書籍も積極的に読むこと。新聞などニュースに注意を払い、ニュースを深く読むことを普段から心がけること。在日コリアンに関する時事問題などに、とりわけアンテナを張っておくこと。それぞれの課題にしっかり取り組むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

加藤圭木監修・朝倉希実加・李相真・牛木未来・沖田まい・熊野功英編『ひろがる「日韓」のモヤモヤとわたしたち』大月書店 1800円+税。受講生は全員必ず購入すること。

【参考書】

加藤圭木監修・一橋大学社会学部加藤圭木ゼミナール編『「日韓」もモヤモヤと大学生のわたし』大月書店
緒方義広・古橋綾編『韓国学ハンマダン』岩波書店
風巻浩・金迅野『ヘイトをのりこえる教室 ともに生きるためのレッスン』大月書店

【成績評価の方法と基準】

討論への積極的な参加など授業への貢献度50%、プレゼンテーション・期末レポート50%。理由のある場合を除き、原則的に全回出席のこと。

【学生の意見等からの気づき】

共生のあり方には無限の可能性がある。現在進行形の諸問題にも、可能な限り取り組んでいきたい。

【その他の重要事項】

春学期に開講された教養ゼミⅡ「在日コリアンの歴史」とともに履修し、春学期秋学期通年で履修することを薦めます。春学期に学んだことが、秋学期の学習に生きてきて、理解が深く広がります。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course deals with the History and Culture of Korean Japanese in Japan. In the history of Koreans in Japan in 20th century, Japan has been heavily involved.

< Learning Objectives >

The aim of this course is to learn the History and the Culture of Korean Japanese in Japan and understand their existences deeply.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end report&Presentation : 50%, in-class contribution:50%.

GDR300LA (ジェンダー / Gender 300)

クィア・スタディーズ A

2017年度以降入学者

LETIZIA GUARINI

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

定員制 (100)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、フェミニズムやクィア・スタディーズの基礎的な知識について学びます。

私たちは、日々の生活の中で常にジェンダー化されます。それゆえに性やジェンダーと無関係に生きることはできません。この授業では、私たちの性、身体、欲望がどのように歴史的・社会的に作られているかについて考えます。ジェンダー・セクシュアリティの概念や歴史的背景を理解し、日本や世界各国におけるフェミニズム運動とLGBTQ+運動の歴史について学びます。また、普段の生活の中で「当たり前」とされている様々な事象を批判的に分析する力を培います。

【到達目標】

- 1) クィア・スタディーズについての基礎的な知識を身につける。
- 2) ジェンダー・セクシュアリティの表象を批判的に分析する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めます。グループディスカッションも行います。フィードバックは、寄せられた課題やコメントに対して授業内で回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業計画について説明を行う。ジェンダー、セクシュアリティという概念について考える。
第2回	クィア・スタディーズとは何か？	クィア・スタディーズの基本概念について講義する。
第3回	第一波フェミニズム、第二波フェミニズム	フェミニズム運動の歴史について講義する。
第4回	第三波フェミニズム、ポストフェミニズム、	90年代から今日までのフェミニズム運動について考える。
#MeToo 運動		
第5回	同性愛の病理化からストーンウォールの暴動まで	LGBTQ運動の歴史を振り返る。
第6回	日本におけるLGBTQ運動	「府中青年の家」裁判について講義する。
第7回	クィア・スタディーズの誕生	クィア・スタディーズの誕生について講義する。
第8回	中間試験	第7回授業までの内容をまとめ、知識の習得を確認する授業内試験を行う。
第9回	ダイバーシティについて考える	現代社会における多様性について考える。

第10回	インターセクショナルリティ	インターセクショナルリティとトランスジェンダー問題について考える。
第11回	カミングアウトとアウティング	具体的な例を挙げながらカミングアウトとアウティングについて考える。
第12回	クィア・ベダゴジー	ジェンダー・セクシュアリティの教育について考える。
第13回	児童文学におけるジェンダー・セクシュアリティ	絵本や児童文学におけるジェンダー・セクシュアリティの表象について考える。
第14回	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献を事前に読む、授業内で示される課題（リアクション・ペーパー、レポート）対応など、準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

岩淵功一（編）『多様性との対話—ダイバーシティ推進が見えなくするもの』（青弓社年、2021年）
 菊池夏野、堀江有里、飯野由里子（編）『クィア・スタディーズをひらく1』（晃洋書房、2019年）
 清水晶子『フェミニズムってなんですか?』（文春新書、2022年）
 新ヶ江章友『クィア・アクティビズム はじめて学ぶ〈クィア・スタディーズ〉のために』（花伝社、2022年）
 森山至貴『LGBTを読みとく—クィア・スタディーズ入門—』（ちくま新書、2017年）
 トッド・マシュー『ヴィジュアル版 LGBTQ運動の歴史』（原書房、2022年）

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクション・ペーパー、グループワーク、ディスカッション：20%
 中間試験：40%
 学期末レポート：40% (2,000文字程度)
 毎回出欠を取ります。4回以上欠席があると失格になり、単位不認定になります。
 15分以上遅れる場合、欠席扱いとなります。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの論点をより具体的に示し、ファシリテーションする必要があることに気づいた。

【学生が準備すべき機器他】

レポート作成を行うためのパソコンなど。

【その他の重要事項】

基本的に教授言語は日本語ですが、英語の資料を使うこともあります。講義内容にセンシティブな内容が含まれている可能性があります。

【Outline (in English)】

This course is designed to enhance students' understanding of basic concepts in queer studies.

We cannot live unaffected by sex or gender. Every day we encounter and perform a wide range of social and cultural ideas and values that constitute the concept of gender.

In this class, students will study how our sexuality, bodies, and desires are historically and socially constructed. Students will understand the concept and historical background of gender and sexuality, and learn about the history of the feminist and LGBTQ+ movements in Japan and around the world.

Learning objectives:

By the end of the course, students should be able to do the following:

- a) Have basic knowledge of queer studies.
- b) Develop the ability to critically analyze representations of gender and sexuality.

Learning activities outside of the classroom:

Students are required to read the reference material by the next session and submit comment sheets (one to three hours for every session).

Grading criteria/Policy:

The final grade will be decided based on the following:

Discussion and participation (comment sheets, involvement during discussion): 20%

Active participation in class is required. Submit your comments via Hoppii at the end of each session.

Attendance will be taken every time. You will not receive credit for the course if you miss more than four classes.

Midterm exam: 40%

Final essay (1000-1500 characters): 40%

LIN300LA (言語学 / Linguistics 300)

異文化コミュニケーション論B 2017年度以降入学者

山本 そのこ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4
 単位数：2単位
 定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

近年「グローバル化」や「国際化」が加速度的に進み、異文化との接触は身近かつ無視できない問題となっている。その一方、異文化接触による摩擦問題が次々と表面化している。特に、外交やビジネスで異文化間の接触が予想される場面では、異文化間コミュニケーションの基本的な知識は必須となる。

この授業では、異なる文化を持つ集団や個人と接触したときに、いかにすれば互いによりスムーズなコミュニケーションが図れるのかを、具体的な例や既存の理論の検討、そして授業参加者の経験や意見の交換などを通して、理論面と実践面の双方から考える。

★日本人と外国人、様々な背景文化をもつ学生の積極的参加を期待する。

【到達目標】

- ①自分が今まで意識していなかった文化を意識化、また相対化する。
- ②異文化コミュニケーションに重要な役割を果たす言語行動パターンと非言語的要素を理解する。
- ③実際のコミュニケーションにおいて、知識や技能をどのように応用するかを考える。
- ④異文化コミュニケーションに関する基本的な学問的知識 (用語・概念・理論などの知識) を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・第1・2回目は講義と教室内活動中心。
- ・第3～13回は、指定の内容について、授業参加者が分担して報告。その後、クラス全員で内容を検討する。
- ・毎回の授業の最後に、リアクションペーパーを提出。次の回の授業冒頭でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 文化と異文化間コミュニケーション	・授業運営に関する打ち合わせ ・受講者アンケート記入 ・異文化コミュニケーションの背景とその領域
第2回	自分を知る	・対立管理スタイルと異文化適応力 ・秋学期プレゼンテーションの割り当て
第3回	コミュニケーション・スタイル① コンテキスト	・高コンテキスト文化と低コンテキスト文化 (学生発表と質疑応答。以下13回まで)

第4回	コミュニケーション・スタイル② ターニングとバラ言語	・「会話場面における」発話のターンの取り方の違い、文化差や特徴。 ・イントネーション、リズム、ポーズ、声質など、周辺言語の基本的知識と文化的な特徴
第5回	言語コミュニケーション① 褒め方・叱り方・謝り方	文化によって異なる「ほめ方・しかり方・謝り方」を例に、その根本にあるポライトネスポライトネス理論の基本的な概念を捉える。
第6回	言語コミュニケーション② 誘い方と断り方	第5回に引き続き、ポライトネス理論の立場から「誘い方と断り方」という言語行為を観察し、そこに現れる文化的な特徴について考える。
第7回	言語コミュニケーション③ 自己紹介と自己開示	・「自己紹介」の仕方、そこで好まれる話題や態度など。 ・「自己開示」の深さ、広さなどがコミュニケーションや対人関係に及ぼす影響と、文化的特徴。
第8回	非言語コミュニケーション① 表情・アイコンタクト	・人類共通の本能的、基本的な表情分析と、文化に依存する表情表現について。 ・視線によるコミュニケーション、いわゆるアイコンタクトに見られる文化差。
第9回	非言語コミュニケーション② しぐさとジェスチャー・タッチング	・異なる文化圏で見られる様々なしぐさやジェスチャー ・危険なしぐさ、あるいはコミュニケーションを円滑にするジェスチャーなどの具体例。 ・タッチングの文化差や性別、年齢、人間関係による変化。
第10回	非言語コミュニケーション③ 空間と対人距離	・ソーシャル・ディスタンスやパーソナルスペースなど、空間の扱いに見られる文化差。 ・対人距離がコミュニケーションに与える影響。
第11回	非言語コミュニケーション④ 時間感覚	・時間感覚の地域、時代、個人による差異。 ・MタイムとPタイム
第12回	価値観	・ことわざ、昔話などに見る基本的価値観 ・家族関係、道徳観など基本的価値観と異文化接触
第13回	コミュニケーション阻害要因と異文化コミュニケーション・スキル	・ステレオタイプと偏見・差別 ・アイデンティティとコミュニケーション ・異文化コミュニケーションのためのテクニックやメソッド
第14回	期末試験	・第1回～第13回までの内容についての筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・「プレゼンテーション」の期間は、割り当て個所の報告、内容に関する疑問点やコメントの準備をすること。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、1時間を標準とします。(ただし、発表担当の場合は例外。さらに多くの時間を要する)

【テキスト (教科書)】

適宜資料を配付する。

【参考書】

- R.E. ニスベット 『木を見る西洋人、森を見る東洋人』ダイヤモンド社
- 鍋倉健悦 『異文化間コミュニケーション論』丸善ライブラリー
- 池田理知子 E.M. クレーマー 『異文化コミュニケーション・入門』有斐閣アルマ
- 八代京子 他 『異文化コミュニケーションワークブック』三修社
- 吉田暁・石井敏 他 『異文化コミュニケーションキーワード』有斐閣
- E. ホール 『沈黙のことば-文化・行動・思考』南雲堂
- その他、必要に応じて授業時間内あるいはポータルサイトで紹介する

【成績評価の方法と基準】

授業参加度 15 %
リアクションペーパー 15 %
クイズ 10 %
発表 20 %
期末試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】

・グループ・ワークやディスカッションなど、双方向、多方向のやりとりの要望・評価が高い。今年度も履修者の積極的授業参加と授業内活動の活発化を図りたい。
・グループ活動時にメンバー構成の調整方法を改善したい。

【学生が準備すべき機器他】

・インターネット接続可能な機器：PC、タブレット端末、スマートフォン。
・期末試験時にはPCまたはタブレット端末
★事前に、グーグルクラスルームへの登録を行うこと。クラスコード：agl2taz

【その他の重要事項】

・受講希望者数によっては、第1回目の授業時に行うアンケートで選抜を行うので、履修希望者は必ず初回授業に出席すること。
・最新情報をHoppiiで確認すること。また、法政のメールアドレスをこまめにチェックすること。

【Outline (in English)】

(Outline)

This course will provide students with basic knowledge of multicultural communication, such as stereotypes, verbal/non-verbal communication, values, etc. The classes will consist of lectures, student presentations, and individual/group works. Interactions of participants with various cultural backgrounds are expected.

(Learning Objectives)

At the end of this course, students will be expected to have knowledge of the basic terms, concepts and to be able to apply them for their real lives in the multicultural society.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments before each class meeting. Your study time is at least 1 hour for each class meeting.

(Grading Criteria/Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination 40%
Presentation 20%
Reaction Paper Writing 15%
in class contribution 15%
Quiz 10%

*Students who have missed more than 3 class meetings will not be allowed to take the term-end exam, nor acquire credit.

ARSk300LA (地域研究 (地域間比較) / Area studies(Interregional comparison) 300)

比較文化A

2017年度以降入学者

D. ハイデンライヒ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火4/Tue.4

単位数：2単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

食、メディアと現代文化

「食」は異文化を知るための最初の手がかりです。食を通して、私たちは個人または文化的アイデンティティ、社会的団結、価値観、感情などを伝えることができます。このクラスではさまざまなプリントメディアや映像資料を通して、主に日本とヨーロッパの共通点と相違点を浮き彫りにし異文化・自文化理解力を高めます。

【到達目標】

- 自分の目で見て、自分の頭で考え、自分の言葉で表現する能力を培うこと。
- 固定化されたイメージ (ステレオタイプ) を見直し、明晰な思考を身につけること。
- 海外のメディアを効果的に活用する力 (メディア・リテラシー) を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

さまざまな形で教材化したテキストやメディアを用いて、数回の課題とリアクションペーパーの提出とフィードバックによって授業を構成する。提出用課題を出す場合は、次の授業にて解説を実施します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	授業の説明・選抜	シラバスを読み、授業内容を確認する。 ※ 定員を超える場合は選抜
②	絵と絵ことば	絵と絵ことば (ピクトグラム) による East meets Westの比較文化入門
③	Webの料理チャンネルの比較 (1)	Youtubeの料理チャンネルの比較から現代ヨーロッパの食の状況を理解する。
④	Webの料理チャンネルの比較 (2)	Youtubeの料理チャンネルの比較から現代ヨーロッパの食の状況を理解する。
⑤	Webの料理チャンネルの比較 (3)	Youtubeの料理チャンネルの比較から現代ヨーロッパの食の状況を理解する。
⑥	テレビの料理番組の比較 (1)	テレビの料理番組の比較から偏見を見直す。
⑦	テレビの料理番組の比較 (2)	テレビの料理番組の比較から偏見を見直す。
⑧	テレビの料理番組の比較 (3)	テレビの料理番組の比較から偏見を見直す。
⑨	テレビの料理番組の比較 (4)	テレビの料理番組の比較から偏見を見直す。

- | | | |
|---|--------------|------------------------|
| ⑩ | 映画の比較 (1) | (フードフィルムを含む) 映画の分析を学ぶ。 |
| ⑪ | 映画の比較 (2) | (フードフィルムを含む) 映画の分析を学ぶ。 |
| ⑫ | 映画の比較 (3) | (フードフィルムを含む) 映画の分析を学ぶ。 |
| ⑬ | 映画の比較 (4) | (フードフィルムを含む) 映画の分析を学ぶ。 |
| ⑭ | まとめ、課題もしくは試験 | 春学期に学んだ内容を確認する。 |

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業中に映画作品などの抜粋を視聴してもらいます。課題作成のためにHoppii学習支援システムにUPされた作品全体を観て比較する必要があります。

「本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。」

【テキスト (教科書)】

テキストは使わず、学習支援システムに事前に授業資料をアップします。各自プリントアウトして授業に持参してください。

【参考書】

教室で指定する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーと課題提出を含む平常点：50%

学期末試験 (課題)：50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii学習支援システムを利用するので、情報機器 (パソコン、プリンター)などを準備して下さい。これらの環境を整えることが難しい場合は、大学のPCやプリンター、wifiを利用して下さい。

【その他の重要事項】

定員は30人名程度です。受講希望者多数の場合には、第1回目の授業参加者の中から選抜を行います。受講希望者は必ず第1回目の授業に出席してください。

【Outline (in English)】

Food, Media and Contemporary Culture

Food is a powerful medium through which to enter another culture. Through food we can communicate cultural and personal identity, values and emotions. In this class we will compare mainly Japanese and European representations of food in various visual and printed media.

◦ To deepen understanding of different cultures and own culture.

◦ Review fixed images (stereotype) and acquire clear thinking.

◦ Acquire the ability to effectively utilize overseas media (media literacy).

Preparation and review.

The standard for preparatory study and review time for this class is 4 hours in total.

Ordinary score including reaction paper and assignment submission: 60%

Final exam: 40%

ARSA300LA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 300)

教養ゼミ I

2017年度以降入学者

大中 一彌

開講時期：サマーセッション/Summer Session | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
 単位数：2単位
 定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

【履修登録にかかわる特記事項】

●この科目「教養ゼミ I 夏季1週間講座 (8月上旬) : 人物と映像からみる『ポピュリズム』 (Q6605) の履修を希望する場合は、2024年4月11日 (木) 21:00:00までに学習支援システム-Hoppiiにて仮登録を行ってください。

●選抜結果は、4月12日 (金) 午前10:00:00に学習支援システム-Hoppii>「お知らせ」欄で発表し、同時に法政Gメールでも通知します。あなたが所属する学部の履修登録期間にあなた自身が履修登録を行ってください。

この教養ゼミ I 「夏季1週間講座 (8月上旬) : 人物と映像からみる『ポピュリズム』」は2024年8月2日 (金)・8月3日 (土)・8月5日 (月)・8月6日 (火) の4日間で開催される集中講座です (2単位)。世界各国の政治・経済・文化を揺り動かしているポピュリズムがテーマですが、こうしたテーマにあまり詳しくない人でも、「人物」や「映像」を軸に活動が組み立てられていますので理解がしやすく、視野が広がります。また集中講座であるため、短い日数で効率よく学べるのも利点です。映像や動画に興味がある人にとっては、見たことがない作品について知るきっかけにもなるでしょう。この授業のテーマを紹介するショート動画をご覧ください
<https://youtube.com/shorts/w5SZrNtcmek?feature=shared>

【到達目標】

コースの終わりまでに、学生の皆さんは次のことができるようになります：

- 1) 21世紀の私たちの社会にどのような政治文化がふさわしいかという考え (シティズンシップ) を身につけるための第一歩を踏み出している。
- 2) ポピュリズムという言葉の意味合いは、国や歴史時代により異なりますが、こうした異なる意味合いに関して基本的な洞察を持っている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- (ア) この教養ゼミ I の授業形態は、基本的に「対面」です。
- (イ) 2024年8月2日 (金)・8月3日 (土)・8月5日 (月)・8月6日 (火) の4日間に開催されます。
- (ウ) 希望者はZoomでも参加できます。下記の【授業計画/Schedule】で「併用あり」と記されているのがZoomで参加できる授業回です。
- (エ) 日程上、補講や、追加の課題を出すといった、欠席者への配慮のための時間を、8月6日以降にとることができません。
- (オ) そのため、課題の早期提出を認める予定です。
- (カ) 成績評価については下記【成績評価の方法と基準】を見てください。
- (キ) 課題の内容や、早期提出できる時期など詳細については、学習支援システム-Hoppii等をつうじて、ご連絡します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめまして！【8月2日 (金) 2限、Zoom併用あり】	シラバス (授業の概要と成績評価) や進行予定表の説明、自己紹介
2	クエスチョンを探そう【8月2日 (金) 3限、Zoom併用なし】	皆で資料からクエスチョンを掘り出す
3	メディアとポピュリズム【8月2日 (金) 4限、Zoom併用なし】	映像作品①について考える
4	考える・まとめる【8月2日 (金) 5限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	8月2日分の「まとめコメント」を作成・提出する。
5	他の人の意見を知る【8月3日 (土) 2限、Zoom併用なし】	初日のまとめコメントへの学生投票／人びとはどのようにして立ち上がるのか (政治的動員)
6	対立の構図を理解する【8月3日 (土) 3限、Zoom併用なし】	映像作品②と③について考える
7	考える・まとめる【8月3日 (土) 4限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	8月3日分の「まとめコメント」を作成・提出する。
8	他の人の意見を知る【8月5日 (月) 2限、Zoom併用なし】	2日目のまとめコメントへの学生投票／女性とポピュリズムの関係について、立ててみる価値がある問いを探す
9	ポピュリズムと女性【8月5日 (月) 3限、Zoom併用なし】	映像作品④について考える
10	ファンタジーとポピュリズム【8月5日 (月) 4限、Zoom併用なし】	映像作品⑤について考える
11	考える・まとめる【8月5日 (月) 5限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	8月5日分の「まとめコメント」を作成・提出する。
12	他の人の意見を知る【8月6日 (火) 2限、Zoom併用なし】	3日目のまとめコメントへの学生投票／ポピュリズムに私 (たち) はどう対応すべきなのか
13	ポピュリズムの《需要側》と《供給側》【8月6日 (火) 3限、Zoom併用なし】	映像作品⑥について考える
14	考える・まとめる【8月6日 (火) 4限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	8月6日分の「まとめコメント」を作成・提出する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

日本語の習熟度や、専門や関心の異なる多様な学生が、この教養ゼミ I に参加します。そのため、一律の時間の長さは定めません。大学設置基準によれば、2単位の講義及び演習の準備・復習時間は1回につき4時間以上とされています。

【テキスト (教科書)】

8月のサマー・セッションの時期を待つことなく、学習支援システム-Hoppii等をつうじ、4月から資料を事前に配布します。

【参考書】

購入は必須ではありませんが、ゼミでお話をするさいにしばしば出てきますので、読むことができれば、授業内容の理解がもっと進むでしょう。
 カス・ミュデ&クリストバル・ロビラ・カルトワッセル『ポピュリズム デモクラシーの友と敵』永井大輔&高山裕二訳、白水社、2018年。Cf. <https://www.hakusuisha.co.jp/book/b352020.html>

【成績評価の方法と基準】

1. 「まとめコメント」の量と質 = 70%

内訳は、8月2日（金）分=20点、8月3日（土）分=15点、8月5日（月）分=20点、8月6日（火）分=15点。これら4回分の「まとめコメント」は学習支援システム-Hoppii から早期提出できる対象となります。

2. 授業内活動への参加 = 30%

内訳は、クエスチョンを探そう（各10点）×3回分。授業当日に教室にいる人のみが参加できます（早期提出不可）。

3. その他

上記1. と2. の合計100%の枠外で、授業への各種貢献に対し5～20%の加点をします。教員側の各種機器の設定ミスや誤字脱字の指摘などを最初にくれた学生1名に加点しています。

【学生の意見等からの気づき】

・海外の文化や政治・経済についての学びは、必要そうではあるけれど、わかりづらそうで敬遠したくなるという方もいるようです。
・この教養ゼミIは、人物や映像を軸とした組み立てとすることにより、参加のハードルを下げ、そうした方が、必要な学びにアクセスできる場となることを目指しています。

【学生が準備すべき機器他】

資料の共有などに、Google ClassroomやHoppiiを使いますので、ノートパソコンやタブレットなどの情報端末が必要です。なお、市販されている映像作品の公衆送信は行いません。

【その他の重要事項】

・わからないことは、気兼ねなく、お問合せください。
・留学や大学院進学、就職などの相談もOKです。
・問い合わせ先や、取り上げる予定の映像作品については、次のリンク先をご覧ください【学内生のみ、要統合認証】 <https://docs.google.com/document/d/1JglNRIZdjh-3xQcbVx4AMLscgVEAVxyZunOUoVIUFcQ/edit?usp=sharing>

【Outline (in English)】

Populism, which includes opposition to globalization as one of its main components, is shaking the political foundations of countries around the world. In this spring semester course, Liberal Arts Seminar I, "Populism and the World: For Those Who Are Tired of Go Global," we will focus on xenophobia, the backlash against so-called identity politics, and the support for populism by the cultural "majority" voters. The class will be built around the students' opinions and questions concerning a central issue: "What kind of culture do we want in our society of the 21st century?"

【Learning Objectives】

It is not a goal of this seminar to acquire proficiency in English, Japanese, or any other language.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) taking the first step to acquire a notion of what kind of democratic culture is suitable for our society of the 21st century.
- 2) possessing a basic insight on the various ways in which the concept of populism has been used in different countries and at different periods.
- 3) understanding how to relate contemporary social issues to current cultural topics in which students are highly interested.
- 4) expressing thoughts and feelings appropriately through presentations using Google Slides, Google Docs, and Zoom screen sharing.

【Learning activities outside of classroom】

(a) Read the pages of the textbook listed in the "Schedule" in advance.

(b) Post the material for the topic (including links, etc.) in the designated LMS (Google Classroom) location in time before the course begins.

(c) The time required for preparation and revision for this seminar will be the time required to do (a) and (b) above. A diverse group of students with varying levels of proficiency in Japanese and other languages will participate in this seminar. Therefore, a uniform length of time is not specified. However, according to the Standards for the Establishment of Universities, the preparation and review time for each two-credit lecture and seminar should be at least four hours.

【Grading Criteria】

Your final grade in this seminar will be decided on the following:

1. Quantity and quality of "summary comments" = 70%
2. In-class activity participation and various contributions to the class = 30%

ARSA300LA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 300)

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

大中 一彌

開講時期：オータムセッション/Autumn Session | 曜日・時限：
集中・その他/intensive・other courses
単位数：2単位
定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

【履修登録にかかわる特記事項】

●この科目「教養ゼミⅡ 夏季1週間講座 (9月中旬) : 人物と映像からみる『移民社会』(Q6606)の履修を希望する場合は、2024年4月11日(木) 21:00:00までに学習支援システム-Hoppiiにて仮登録を行ってください。

●選抜結果は、4月12日(金)午前10:00:00に学習支援システム-Hoppii>「お知らせ」欄で発表し、同時に法政Gメールでも通知します。なお、この科目「教養ゼミⅡ 夏季1週間講座 (9月中旬) : 人物と映像からみる『移民社会』」の履修登録は大学側で行います。あなたが所属する学部履修登録期間に履修登録が完了しているか、確認を行ってください。

この教養ゼミⅡ「夏季1週間講座 (9月中旬) : 人物と映像からみる『移民社会』」は2024年9月13日(金)・9月14日(土)・9月16日(月)・9月17日(火)の4日間で開催される集中講座です(2単位)。世界各国の政治・経済・文化を揺り動かしている移民や難民の動きがテーマですが、こうしたテーマにあまり詳しくない人でも、「人物」や「映像」を軸に活動が組み立てられていますので理解がしやすく、視野が広がります。また集中講座であるため、短い日数で効率よく学べるのも利点です。映像や動画に興味がある人にとっては、見たことがない作品について知るきっかけにもなるでしょう。この授業のテーマを紹介するショート動画をご覧ください
<https://youtube.com/shorts/-N7dPRfaRRE?feature=shared>

【到達目標】

コースの終わりまでに、学生の皆さんは次のことができるようになります：

- 1) 人口1700万人強のオランダが、なぜ、非ヨーロッパ系の移民に対し、英語というよりは、オランダ語や市民的な自由について、基本的な知識をもつよう求めているのかという問いについて、過度な単純化を避けながら、ひとつの答えを思い描くことができる。
- 2) 欧州各国における「移民社会」化が、人びとのアイデンティティにもたらした光と影について考えるさいに、宗教をめぐる公的な位置づけのあり方(政教分離)や、就労を促進するための雇用の流動化(福祉国家の変容)といった要素を、考慮に入れることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- (ア) この教養ゼミⅡの授業形態は、基本的に「対面」です。
 (イ) 2024年9月13日(金)・9月14日(土)・9月16日(月)・9月17日(火)の4日間に開催されます。
 (ウ) 希望者はZoomでも参加できます。下記の【授業計画/Schedule】で「併用あり」と記されているのがZoomで参加できる授業回です。
 (エ) 日程上、補講や、追加の課題を出すといった、欠席者への配慮のための時間を、9月19日までの間にとることができません。
 (オ) そのため、課題の早期提出を認める予定です。
 (カ) 成績評価については下記【成績評価の方法と基準】をご覧ください。
 (キ) 課題の内容や、早期提出できる時期など詳細については、学習支援システム-Hoppii等をつうじて、ご連絡します。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめまして！【9月13日(金)2限、Zoom併用あり】	シラバス(授業の概要と成績評価)や進行予定表の説明、自己紹介
2	クエスチョンを探そう【9月13日(金)3限、Zoom併用なし】	「群衆」が感じる「問題」としての移民流入
3	避難民 migrants の暮らしを疑似体験する【9月13日(金)4限、Zoom併用なし】	映像作品①について考える
4	考える・まとめる【9月13日(金)5限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	9月13日分の「まとめコメント」を作成・提出する。
5	他の人の意見を知る【9月14日(土)2限、Zoom併用なし】	初日のまとめコメントへの学生投票
6	／グローバル・サウス出身の避難民が「先進国」で住民の1人として溶け込むのに何が必要か【9月14日(土)3限、Zoom併用なし】	映像作品②について考える
7	あなたがもし、移民出自の生徒を公立中学校で担任する教師だったら？【9月14日(土)4限、Zoom併用なし】	映像作品③について考える
8	考える・まとめる【9月14日(土)5限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	9月14日分の「まとめコメント」を作成・提出する。
9	他の人の意見を知る【9月16日(月)2限、Zoom併用なし】	2日目のまとめコメントへの学生投票/映像作品④について考える
10	クエスチョンを探そう【9月16日(月)3限、Zoom併用なし】	集団間の対立と他者の生の否定
11	考える・まとめる【9月16日(月)4限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	9月16日分の「まとめコメント」を作成・提出する。
12	他の人の意見を知る【9月17日(火)2限、Zoom併用なし】	3日目のまとめコメントへの学生投票/《ともに働き、生活すること》は、どのような場合なら、外国出身者への差別感情をなくすのに役立つか
13	受け入れ側社会の多数派が抱く恐怖感【9月17日(火)3限、Zoom併用なし】	映像作品⑤について考える
14	考える・まとめる【9月17日(月)4限、Zoom併用あり】※提出した人から帰宅する	9月17日分の「まとめコメント」を作成・提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本語の習熟度や、専門や関心の異なる多様な学生が、この教養ゼミⅡに参加します。そのため、一律の時間の長さは定めません。大学設置基準によれば、2単位の講義及び演習の準備・復習時間は1回につき4時間以上とされています。

【テキスト（教科書）】

9月のオータム・セッションの時期を待つことなく、学習支援システム-Hoppii等をつうじ、4月から資料を事前に配布します。

【参考書】

購入は必須ではありませんが、ゼミでお話をするさいにしばしば出てきますので、読むことができれば、授業内容の理解がもっと進むでしょう。

水島治郎『反転する福祉国家 オランダモデルの光と影』岩波現代文庫、2019年。Cf. <https://www.iwanami.co.jp/book/b431806.html>

【成績評価の方法と基準】

1. 「まとめコメント」の量と質 = 70%

内訳は、9月13日（金）分=20点、9月14日（土）分=20点、9月16日（月）分=15点、9月17日（火）分=15点。これら4回分の「まとめコメント」は学習支援システム-Hoppiiから早期提出できる対象となります。

2. 授業内活動への参加 = 30%

内訳は、クエスチョンを探そうor深めよう（各10点）×3回分。授業当日に教室にいる人のみが参加できます（早期提出不可）。

3. その他

上記1. と2. の合計100%の枠外で、授業への各種貢献に対し5～20%の加点をします。教員側の各種機器の設定ミスや誤字脱字の指摘などを最初にくれた学生1名に加点しています。

【学生の意見等からの気づき】

・海外の文化や政治・経済についての学びは、必要そうではあるけれど、わかりづらそうで敬遠したくなるという方もいるようです。
・この教養ゼミⅡは、人物や映像を軸とした組み立てとすることにより、参加のハードルを下げ、そうした方が、必要な学びにアクセスできる場となることを目指しています。

【学生が準備すべき機器他】

資料の共有などに、Google ClassroomやHoppiiを使いますので、ノートパソコンやタブレットなどの情報端末が必要です。なお、市販されている映像作品の公衆送信は行いません。

【その他の重要事項】

・わからないことは、気兼ねなく、お問合せください。
・留学や大学院進学、就職などの相談もOKです。
・問い合わせ先や、取り上げる予定の映像作品については、次のリンク先をご覧ください【学内生のみ、要統合認証】<https://docs.google.com/document/d/1i39NoO-bvtZI2bgXH21sEDtanXs42mNkVkrROqg25o/edit?usp=sharing>

【Outline (in English)】

What does it mean to accept "cultural and religious differences" in today's society where there is a lot of migration of people across borders? Does it mean that the majority must accept all cultures and religions of the minorities without exception? On the other hand, does it mean that a minority group must completely assimilate into the culture and religion of the host country? In this Liberal Arts Seminar II, which is scheduled for the fall semester, we will discuss the ideals and realities concerning such "cultural and religious differences", using as a case study the policy shift in the Netherlands, which has traditionally been known as a liberal and tolerant society. This course is a seminar designed around the topics, questions, and exchanges of opinions suggested by the students.

【Learning Objectives】

The goal of this seminar is not to become proficient in English, Japanese, or any other language.

By the end of the course, students should be able to do the following:

1) Conceptualizing, without oversimplification, an answer to the question of why the Netherlands, with a population of just over 17 million, requires non-European immigrants to have a basic knowledge of the Dutch language (rather than English) and civil liberties.

2) Having a basic insight into the different implications of "culture" and "religion" in different countries and historical periods.

3) Understanding how to relate contemporary social issues to current cultural topics in which students are highly interested.

4) Expressing thoughts and feelings appropriately through presentations using Google Slides, Google Docs, and Zoom screen sharing.

[Learning activities outside of classroom]

(a) Read the pages of the textbook listed in the "Schedule" in advance.

(b) Post the material for the topic (including links, etc.) in the designated LMS (Google Classroom) location in time before the course begins.

(c) The time required for preparation and revision for this seminar will be the time required to do (a) and (b) above. A diverse group of students with varying levels of proficiency in Japanese and other languages will participate in this seminar. Therefore, a uniform length of time is not specified. However, according to the Standards for the Establishment of Universities, the preparation and review time for each two-credit lecture and seminar should be at least four hours.

[Grading Criteria]

Your final grade in this seminar will be decided on the following:

1. Quantity and quality of "summary comments" = 70%

2. In-class activity participation and various contributions to the class = 30%

ARSA300LA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 300)

教養ゼミ I

2017年度以降入学者

ルルー 清野 ブレندان

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業の主な目的は、「日・欧米交流の歴史」に関するいくつかの側面に沿って、グローバル化の歴史の中で「日本 (文化) はどう伝わったのか?」というテーマについて学生とともに知識を共有し、考察することです。

もう一つの目的は、日本語 (と英語や他の言語) で歴史文書を読み、分析する方法について学び、使用することです。

【到達目標】

この授業では、学生達はグローバル化の歴史という背景における日本の歴史、とりわけ「日・欧米交流の歴史」の多様な側面を探求したり、論じたりします。授業終了時には、それらのトピックに関する様々な概念や問題点を深く理解し、以下のことができるようになるでしょう。

1. 主要な概念や考え方を理解し、説明することができる。
2. グローバル化の歴史という文脈の中で、「日・欧米交流の歴史」についてニュアンスと情報に基づいた理解を示すことができる。
3. 「日・欧米交流の歴史」に関する自分の考えを他者と議論することができる。
4. 様々な歴史的資料を批判的に検討するために、適切な分析手段を用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業では、学生達は様々な歴史的的文章を読解し、語彙を調べたり、それについて議論したり、質問に答えたりします。教員は重要な事実や概念を説明するためにスライドを使用し、できるだけ双方向的かつ参加型にする予定です。学生達はグループワーク等を通じて生徒同士で協力して史料を理解し、質問に答えることで、グローバル化の歴史の中で「日・欧米交流の歴史」そして「日本 (文化) はどう伝わったのか?」というテーマに関する共通の知識を築いていくことを目指します。

履修者は史料を見つけ出し、それについて発表を行うことも授業の重要な側面です。履修者の個人的背景によって、日本語や英語の他に、様々な言語の史料の紹介も期待できます。

この授業では、学生同士そして学生と教員とのやりとりは基本的に日本語で行われます。従って、履修者は大学レベルの日本語の基礎知識を持っていることが期待されます。しかしこの授業を受講するのに完璧な日本語力が必要ではありません。必要に応じて、難しい用語などを英語で補足説明をします。日本語を練習したいという意欲と、歴史や史料、特に「日・欧米交流の歴史」に興味があることはこの授業を履修する大きな動機付けと言えます。

この授業で成功する鍵は、毎週の予習と復習、そしてクラスでのディスカッションに積極的に参加することです。

宿題や質問事項等に関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが、Hoppiiを通じて行う場合もあります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業紹介	シラバスの確認 授業運営の紹介 アイスブレイカー
2	西洋への日本文化最初の紹介	西洋における、日本に関する最初の史料
3	第1次グローバル化における日本 (1)	世界の分割と日本
4	第1次グローバル化における日本 (2)	日本の「発見」
5	十字架、マスケット銃と「カステラ」(1)	マスケット伝来
6	十字架、マスケット銃と「カステラ」(2)	日本におけるキリスト教
7	十字架、マスケット銃と「カステラ」(3)	ラテン語、ポルトガル語、日本語
8	学生による発表①	史料の紹介と分析
9	学生による発表②	史料の紹介と分析
10	学生による発表③	史料の紹介と分析
11	学生による発表④	史料の紹介と分析
12	学生による発表⑤	史料の紹介と分析
13	学生による発表⑥	史料の紹介と分析
14	まとめ	前期に対する振り返りと話し合い・議論・総括

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

予習、復習、課題や発表の準備が毎回求められます。大学設置基準によれば、2単位の講義及び演習の準備・復習時間は1回につき4時間以上とされています。

【テキスト (教科書)】

ほぼ毎回授業中に配布しますので、教科書を購入する必要はありません。

【参考書】

必要に応じて授業中に指摘します。

【成績評価の方法と基準】

- ・グループワーク、小テスト等(授業内):25%
- ・宿題、「予習シート」(自宅):20%
- ・発表 (史料の紹介と説明) : 35%
- ・出席点:20%

※欠席1回につき、「出席点」が10%下がる。3回以上欠席した場合は不合格となり、単位はもらえない。何らかの理由で欠席した場合は、直ちに教員にメール等で連絡して説明すること。正当な理由なく20分以上遅刻した場合は、欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見等は特にありませんでした。

【学生が準備すべき機器他】

資料の共有などに、Google ClassroomやHoppiiを使用しますので、必要な機器や情報環境は備えておいた方が良いでしょう。

【その他の重要事項】

履修者の人数、個人背景 (言語レベル等)、希望等に応じて上記の【授業計画】が変更されることも考えられます。

【Outline (in English)】

The main purpose of this course is for students to acquire knowledge and think about "How Japan/Japanese culture was introduced to the West", mainly focusing on some aspects of the "history of Japan - European / American relations", setting them back in the context of the history of globalisation.

One other purpose is for the students to learn about and use methods to read and analyse historical documents, both in English and in Japanese.

It is not a goal of this seminar to acquire proficiency in English, Japanese, or any other language, therefore students are welcome whatever their language proficiency is.

Students will deal with reading various historical texts, study the vocabulary, and will discuss these and try to answer questions about them.

The format of the course will be as interactive and participatory as possible, with the help of screened slides in order to explain important facts and/or concepts. Classes will focus on group work, cooperation between students to understand the texts and answer questions, in order to build a common knowledge about the "history of Japan - European / American relations" in the context of the history of globalisation.

The key to success in this course is weekly preparation and review of the class content, and active participation during class discussion.

ARSA300LA (地域研究 (ヨーロッパ) / Area studies(Europe) 300)

教養ゼミ II

2017年度以降入学者

ルルー 清野 ブレندان

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金4/Fri.4

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業ではヨーロッパの近現代史をただ単に通史的に勉強するのではなく、「〇〇人とは何(誰)か?」、「国民はどう創られたのか?」というような問いについて考えながら、近現代ヨーロッパにおけるアイデンティティの問題を探っていきます。特に、近現代ヨーロッパにおける国民国家と言語(「国語」との関係性に重点を置きたいと考えます。

【到達目標】

この授業では、学生達は近現代ヨーロッパにおける国民の創造に関する多様な側面を探求したり、論じたりします。授業終了時には、それらのトピックに関する様々な概念や問題点を深く理解し、以下のことができるようになるでしょう。

- ①ヨーロッパについて基本的知識を獲得し、それらを説明できる。
- ②国民国家の概念を概ね理解できる。
- ③世の中の動きを歴史的に考えるための視点を獲得する。
- (④ヨーロッパへの留学に備える。)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業では、学生達は様々な資料(歴史的文章、論文、新聞記事、図…)を読解し、それについて議論したり、質問に答えたりします。教員は重要な事実や概念を説明するためにスライドを使用し、できるだけ双方向的かつ参加型にする予定です。学生達はグループワーク等を通じて学生同士で協力して資料を理解し、質問に答えることで、近現代ヨーロッパにおける国民(アイデンティティ)の創造というテーマに関する共通の知識を築いていくことを目指します。この授業では、学生同士そして学生と教員とのやりとりは基本的に日本語で行われます。従って、履修者は大学レベルの日本語の基礎知識を持っていることが期待されます。しかしこの授業を受講するのに完璧な日本語力が必要ではありません。必要に応じて、難しい用語などを英語で補足説明をします。日本語を練習したいという意欲と、歴史や資料、特に近現代ヨーロッパにおける国民(アイデンティティ)の創造に興味があることはこの授業を履修する大きな動機付けと言えましょう。

この授業で成功する鍵は、毎週の予習と復習、そしてクラスでのディスカッションに積極的に参加することです。

宿題や質問事項等に関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが、Hoppiiを通じて行う場合もあります。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業紹介	シラバスの確認 ヨーロッパとは何か? どこか? (受講生に対するアンケート)
2	ヨーロッパとは何か?	ヨーロッパに対するイメージとステレオタイプ
3	ケーススタディ①	カタルーニヤ「問題」について
4	ケーススタディ②	カタルーニヤの形成過程

5	ケーススタディ①	カタルーニヤとスペインにおける言語
6	ケーススタディ①	カタルーニヤと「国民国家」/「国民国家」と「想像の共同体」
7	ケーススタディ②	18世紀「ドイツ」の状況/ヘルダーと「国民語」
8	「国民語」を求めて	ヨーロッパにおける言語状況
9	「国民一つに、言語一つ?」①	フランス語の成立過程①
10	「国民一つに、言語一つ?」②	フランス語の成立過程②
11	国語の普及①	フランス
12	国語の普及②	イギリス
13	国語の普及③	ドイツ
14	共通の祖先を求めて	「我々の祖先はガリア人なり」

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

予習、復習、課題や発表の準備が毎回求められます。大学設置基準によれば、2単位の講義及び演習の準備・復習時間は1回につき4時間以上とされています。

【テキスト(教科書)】

ほぼ毎回授業中に配布しますので、教科書を購入する必要はありません。

【参考書】

ティエス、アンヌ＝マリ著『国民アイデンティティの創造：十八～十九世紀のヨーロッパ』(勁草書房、2013) / 配架場所＝市:1F、請求記号＝230/TH、資料番号＝21032000079280

それ以外の参考書については必要に応じて授業中に指摘します。

【成績評価の方法と基準】

- ・発表やリフレクションシート、小テスト(クイズ等)：約70%
- ・出席点：約30%

※欠席1回につき、「出席点」が10%下がる。3回以上欠席した場合は不合格となり、単位はもらえない。何らかの理由で欠席した場合は、直ちに教員にメール等で連絡して説明すること。正当な理由なく20分以上遅刻した場合は、欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

(初めての授業内容なので、該当しない。)

【学生が準備すべき機器他】

資料の共有などに、Google ClassroomやHoppiiを使いますので、必要な機器や情報環境は備えておいた方が良いでしょう。

【その他の重要事項】

履修者の人数、個人背景(言語レベル等)、希望等に応じて上記の【授業計画】が変更されることも考えられます。

【Outline (in English)】

The main purpose of this course is for students to acquire knowledge and think about "How national identities were forged in Europe".

One other purpose is for the students to learn about and use methods to read and analyse diverse categories of documents, written in different languages.

It is not a goal of this seminar to acquire proficiency in Japanese, or any other language, therefore students are welcome whatever their language proficiency is.

Students will deal with reading various documents, study the vocabulary, and will discuss these and try to answer questions about them.

The format of the course will be as interactive and participatory as possible, with the help of screened slides in order to explain important facts and/or concepts. Classes will focus on group work, cooperation between students to understand the texts and answer questions, in order to build a common knowledge about the "creation of the national identities in Europe".

The key to success in this course is weekly preparation and review of the class content, and active participation during class discussion.

The grading criteria shall be as follows:

- ・Presentations, reflection papers, short tests, etc: app.70%
- ・Attendance:app. 30%

LANf200LA (フランス語 / French language education 200)

時事フランス語 I

2017年度以降入学者

大中 一彌

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：1単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この科目「時事フランス語 I」の目的は、あなたのフランス語を、できる限り専門的な学びに近づけ、就職など実社会で役立てていくための、いわば基礎体力を作ることにあります。毎週、フランス語圏の公共放送のニュースサイト (TV5Monde や Radio France Internationale) で提供されている無料の教材に、皆で取り組みます。やさしい内容から始まりますので、1年生でも心配はいりません。この授業のテーマを紹介するショート動画をご覧ください <https://youtube.com/shorts/0NmZ4iyvSQ?feature=shared>

【到達目標】

リスニング力や語彙 (ごい) 力を増すことが「時事フランス語」科目の全体としての目標です。ただし、スタート地点が、人により異なりますので、ゴールとして目指すべき到達目標も人により異なります。次のA~Cのカテゴリー分けを参考に、あなた自身の到達目標を設定しましょう。

・カテゴリーA (大学で初めてフランス語を学んだ人の場合)：「時事フランス語 I」「時事フランス語 II」の2科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルA1. 1、「実用フランス語技能検定試験」4級~5級にあたるリスニング力や語彙 (ごい) 力をもっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、第1言語 (日本で主に学校教育を受けた人なら日本語) であれば、言語表現としておおむね適切なやりとりをすることができる。

・カテゴリーB (フランス語の既習者の場合)：「時事フランス語 I」「時事フランス語 II」の2科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルA1~B2、「実用フランス語技能検定試験」準1級~3級にあたるリスニング力や語彙 (ごい) 力をもっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、フランス語で、その人の語学レベルに見合ったやりとりをすることができる。

・カテゴリーC (中学や高校における教育を主にフランス語圏で受けてきた学生や、フランス語圏からの留学生の場合)：「時事フランス語 I」「時事フランス語 II」の2科目を履修し終えた時点で、教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、フランス語で、言語表現として適切な形で組み立てられた論評 (commentaire) を述べるることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】で示した2つのニュースサイトに掲載されている教材に、皆で取り組みます。外国人向けに「やさしいフランス語 français facile」で制作された番組にもとづく、実践的な教材が多いです。聞き取り (リスニング) やシャドーイング、内容面の理解 (時事問題に関する知識) を確認しながら、授業は進みます。この授業では、わからない、知らないからという理由で怒られたり、馬鹿にされたりすることはありません。質問するのが恥ずかしいという受け身の学校文化から、フランス語で分からないこと、できないことを1つずつ減らしていこうという積極的な方向に意識を変えるのが、この授業の狙いです。この授業は基本的に対面ですが、体調不良等を理由とするリアルタイム・オンラインでの参加に積極的に対応します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Séance 1	世界を知るためのもう1つの視点	パリ18区に住む小学3年 (CE2) 生たちのなぞなぞから見える世界
Séance 2	現代フランスの生活風景	結婚のプロポーズ (同性婚) やスクワット (空き住居の不法占拠) など
Séance 3	フランス移住の第一歩は共和主義の理解から	国歌ラ・マルセイエーズが歌えるのは、フランスではポイント高いです。
Séance 4	グローバル化 (mondialisation) に対するフランス的見方 = ものづくりの衰退	フランスの伝統的な産品を知っているアジアからの留学生がいたら、フランスの人は喜ぶでしょう。
Séance 5	グアドループ：中南米のカリブ海に浮かぶフランスの海外県	クレオール語に代表される文化の混雑で有名。1980年代には「ワールド・ミュージック」としてグアドループ発信のズークが流行
Séance 6	デモやストライキ	ストライキになると色々不便だと怒る人もいる一方、ストライキは労働者の重要な権利とみなされてもいます。
Séance 7	フランス語で炎暑は canicule といいます	毎夏、山火事や40度を超える高温が南ヨーロッパを中心に伝えられるようになりました。
Séance 8	カンヌ映画祭	この季節に毎年開かれる有名文化イベント。娯楽作よりも芸術性の高い作品が受賞する傾向があり、日本人の活躍が目立ちます。
Séance 9	ラップとユーチューバー	さまざまな国や地域の出身者が、フランス語ラップのYouTube動画を制作
Séance 10	男女平等の理想と現実	女性の就業率が比較的高いフランスだが、男女の賃金格差など課題も残る。女性の権利への関心は高い。
Séance 11	ツール・ド・フランス	この季節に毎年開かれる有名スポーツイベント。7月の3週間、フランスや隣接国の路上を自転車レースが駆け抜ける。
Séance 12	格差社会アメリカの批判	大企業の経営者たちとその従業員の給与格差が大きすぎるというのも、フランス語圏のメディアではありがちな話題
Séance 13	環境問題の語彙 (ごい)・表現①	絶滅危惧種を守ることをめぐる外交。「フカヒレ」や「象牙」が登場します。
Séance 14	環境問題の語彙 (ごい)・表現②	コンゴ民主共和国 (RDC) はフランス語圏ニュースではよく登場する国です。内戦などの要因で安全を脅かされる国立公園職員たちの話題

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

・「時事フランス語 I」のような科目では、1回の授業につき、1時間以上、授業時間外に学習をおこなうことが、法政大学では標準になっています。

・「毎回授業内容表 Tableau de bord / Dashboard」等に教材へのリンクが置いてあります。

・(ア) 音声ファイルの内容でシャドーイングできる範囲を、1単語→1文→複数の文、のように広げていくことや、(イ) 番組内でひんぱんに使われる語彙 (ごい) を分野ごとに整理して覚えるといったことに取り組むと、実践的な語学力が向上します。

・「毎回授業内容表」は次のリンクから閲覧してください <https://docs.google.com/spreadsheets/d/13mVYBE9PZHL3Bx5cPerl8-TLmgnDYe1pshhEHCELDQ/edit?usp=sharing> (学内生のみ、要統合認証)

【テキスト (教科書)】

1. Radio France Internationale - RFI Savoirs <https://savoirs.rfi.fr/fr>

2. TV5Monde - Apprendre le français <https://apprendre.tv5monde.com/fr>

※フランス語圏の公共放送が提供し、無料、かつ全世界のフランス語学習者が用いている教材です。

【参考書】

仏和辞典が必要です。持っていない人は、法政大学図書館オンラインデータベース上で『ボケプロ仏和』『ロバール仏和』が利用できます (自宅など学外からもアクセス可)。

【成績評価の方法と基準】

1. 授業への毎週の参加 (50%)
 2. 授業への貢献の量と質、到達目標の達成に向けた努力 (50%)
 3. 実用フランス語技能検定試験 (仏検) や DELF や TCF を受検したか、また合格したか (100%の枠外で5~20%程度の加点をします)
- ※期末試験、期末レポートはありません。

【学生の意見等からの気づき】

・フランスに留学して、リスニング力や語彙 (ごい) の不足を痛感したという声をよく耳にします。その一方で、リスニング力や語彙を伸ばす目的で、TV5Monde や Radio France Internationale (RFI) を留学先で勉強したという経験談も聞きます。TV5Monde や RFI は、日本でも視聴できますが、フランス語圏に詳しくない人が独りで学ぼうとしても、ニュースの内容がよく理解できない場合があります。この「時事フランス語 I」を履修すれば、日本語によるニュースや表現の解説を、あなたのフランス語発音に対する指導とともに、学ぶことができます。

・努力を続けるにはモチベーションが必要です。モチベーションを高めるには、じっさいに手の届きそうな目標をもつとよいでしょう。下記のリンク先にある資料が、目標やモチベーションについて考えるための、参考となればさいわいです <http://bit.ly/3UKWrRw>

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンやタブレット、ノートパソコン等の情報端末が必要です。

【その他の重要事項】

「時事フランス語」って怖いのかな、自分に向いているのかどうか...と迷っている方は、次のリンク先にあるプレイズメント・テストをお試し受験してみてください。問題文は英語とフランス語で書かれています。「Commencer」と書かれたボタンをクリックすると問題が表示されます。 <https://savoirs.rfi.fr/fr/apprendre-enseigner/langue-francaise/test-de-placement-a1/1>

もし半分ぐらい正答できるようなら、この授業を履修するのにちょうど良いレベルではないかと思います。

【Outline (in English)】

【Outline and objectives】

This course aims to promote students' understanding of French society, politics, and news media. An emphasis is placed on oral communication and using specialized vocabulary. By participating in proposed activities, students will become familiar with French-speaking news websites.

【Goal】

The goals to be achieved differ according to the starting level of the student.

* Learning objective for false beginners and intermediate learners: the student will be able to acquire, at the end of the two semesters of "Jiji-Furansugo", a linguistic ability equivalent to level A2 of the European Framework of Reference for Languages or to Futsuken jun 2 kyû.

** Pedagogical goal for those who already have a more or less good command of the French language (learners at the higher level as well as French-speaking international students): the student will be able to formulate relevant comments that demonstrate a solid understanding of local and global issues covered by the French-speaking media.

【Method(s)】

In each class session, the teacher will suggest materials available on the Internet. Learners will be asked to identify the essential elements. To do so, they are allowed to consult books and dictionaries written in their respective first language (the "mother tongue"). However, all participants are expected to express themselves in French, and to contribute to the discussion on what is said in the material.

The language of instruction in the classroom is primarily French, while administrative information will be provided in Japanese via LMS and e-mail.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

1) Try to make use of the learning materials yourself. The URLs for these materials are already listed in the Dashboard for Jiji-Furansugo.

2) According to the Standards for the Establishment of Universities, the minimum time of preparation and review required to earn two credits for a lecture or seminar is four hours per session.

【References】

1. Nexis Unis (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)

2. PressReader (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)

3. Cairn.info (Hosei University Library - E Database : Overseas articles)

4. Encyclopædia Universalis (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/Encyclopedias)

5. Shogakukan Robert Grand Dictionnaire Français-Japonais (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/Encyclopedias - « JapanKnowledge »)

Note: Off-campus access to these databases requires a connection through a Virtual Private Network ("VPN"). See the Hosei Network System Service website for information on how to connect to the university VPN. URL <https://netsys.hosei.ac.jp/>

【Grading criteria】

Your final grade in this seminar will be decided on the following:

1. Quantity and quality of "summary comments" = 50%

2. In-class activity participation and various contributions to the class = 50%

【Equipment student needs to prepare】

A stable and unlimited internet connection as well as a personalized IT device such as a computer, tablet or smartphone are required. Two LMS platforms are used, of which (1) Google Classroom is mainly used to share documents and (2) learners can consult some notes on the Hoppii website. In case of remote courses, video conferencing systems such as Zoom or Google Meet will be used to ensure the educational continuity.

【Others】

1) If you are uncertain of your language level, try taking a "placement test" at the A1 level on the RFI website <https://savoirs.rfi.fr/en/apprendre-enseigner/langue-fran%C3%A7aise/test-de-placement-a1/1> Enroll in this course if you can answer more than half of the questions correctly.

2) The above schedule is still subject to change.

LANf200LA (フランス語 / French language education 200)

時事フランス語Ⅱ

2017年度以降入学者

大中 一彌

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

単位数：1単位

定員制 (30)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この科目「時事フランス語Ⅱ」の目的は、あなたのフランス語を、できる限り専門的な学びに近づけ、就職など実社会で役立てていくための、いわば基礎体力を作ることにあります。毎週、フランス語圏の公共放送のニュースサイト (TV5Monde や Radio France Internationale) で提供されている無料の教材に、皆で取り組みます。やさしい内容から始まりますので、1年生でも心配はいりません。この授業のテーマを紹介するショート動画をご覧ください <https://youtube.com/shorts/RQtay4cmhW8?feature=shared>

【到達目標】

リスニング力や語彙 (ごい) 力を増すことが「時事フランス語」科目の全体としての目標です。ただし、スタート地点が、人により異なりますので、ゴールとして目指すべき到達目標も人により異なります。次のA～Cのカテゴリー分けを参考に、あなた自身の到達目標を設定しましょう。

・カテゴリーA (大学で初めてフランス語を学んだ人の場合)：「時事フランス語Ⅰ」「時事フランス語Ⅱ」の2科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルA1. 1、「実用フランス語技能検定試験」4級～5級にあたるリスニング力や語彙 (ごい) 力をもっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、第1言語 (日本で主に学校教育を受けた人なら日本語) であれば、言語表現としておおむね適切なやりとりをすることができる。

・カテゴリーB (フランス語の既習者の場合)：「時事フランス語Ⅰ」「時事フランス語Ⅱ」の2科目を履修し終えた時点で、ヨーロッパ言語共通参照枠のレベルA1～B2、「実用フランス語技能検定試験」準1級～3級にあたるリスニング力や語彙 (ごい) 力をもっている。教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、フランス語で、その人の語学レベルに見合ったやりとりをすることができる。

・カテゴリーC (中学や高校における教育を主にフランス語圏で受けてきた学生や、フランス語圏からの留学生の場合)：「時事フランス語Ⅰ」「時事フランス語Ⅱ」の2科目を履修し終えた時点で、教材でとりあげられた時事問題の内容に関し、フランス語で、言語表現として適切な形で組み立てられた論評 (commentaire) を述べるることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】で示した2つのニュースサイトに掲載されている教材に、皆で取り組みます。外国人向けに「やさしいフランス語 français facile」で制作された番組にもとづく、実践的な教材が多いです。聞き取り (リスニング) やシャドーイング、内容面の理解 (時事問題に関する知識) を確認しながら、授業は進みます。この授業では、わからない、知らないからという理由で怒られたり、馬鹿にされたりすることはありません。質問するのが恥ずかしいという受け身の学校文化から、フランス語で分からないこと、できないことを1つずつ減らしていこうという積極的な方向に意識を変えるのが、この授業の狙いです。この授業は基本的に対面ですが、体調不良等を理由とするリアルタイム・オンラインでの参加に積極的に対応します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Séance 1	多様性と出会うためのもう1つの入り口	フレキシタリアン・ダイエットのフランスの駄菓子 (食文化から近づいてみる)
Séance 2	気が早いですがクリスマスの話題	宗教を信じる・信じない、家族のあり方、消費社会について考えます。
Séance 3	移民の気持ちを (教員の補助付きで) 疑似体験してみる。	移民を念頭にいたフランス語検定試験の例題に取り組む。
Séance 4	職業と平等	職業名の女性形を認めさせるといふフェミニズムのかたち
Séance 5	デパートの歴史	19世紀のパリの文化的影響力は大きく、鉄筋とガラスで作られたデパートは最先端の建築やファッションの舞台だった
Séance 6	フランスの「サラメシ」	フランスの会社員たちは昼食に何をどんな風に食べているのか?
Séance 7	モナ・リザを一言でたとえるなら?	ポルトレ・シノワについて学びます。
Séance 8	ある日のニュースのヘッドライン	年金問題やローマ教皇が登場
Séance 9	少子化問題	2010年を越えたあたりから出生率が低下傾向のフランス。その原因は?
Séance 10	コートジボワールから見た世界	起業家の女性が訪れたいと夢見る国は?
Séance 11	ブルキナファソから見た世界	外からの支援ではなく、地元で根差した住宅の改善とは?
Séance 12	アフリカやアジアからヨーロッパを目指す多くの避難民を渡航させる業者たち	どんな国にでも行けるパスポートは、あなたを含めた世界の1握りの人しかもっていない。
Séance 13	ポーヴォワール	« On ne naît pas femme, on le devient. » という文を知っておきましょう。
Séance 14	エメ・セゼール	ネグリチユードとは?

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

・「時事フランス語Ⅱ」のような科目では、1回の授業につき、1時間以上、授業時間外に学習をおこなうことが、法政大学では標準になっています。

・「毎回授業内容表 Tableau de bord / Dashboard」等に教材へのリンクが置いてあります。

・(ア) 音声ファイルの内容でシャドーイングできる範囲を、1単語 → 1文 → 複数の文、のように広げていくことや、(イ) 番組内でひんぱんに使われる語彙 (ごい) を分野ごとに整理して覚えるといったことに取り組むと、実践的な語学力が向上します。

・「毎回授業内容表」は次のリンクから閲覧してください <https://docs.google.com/spreadsheets/d/13mVYBEm9PZHL3Bx5cPerl8-TLmgndYe1pshhEHCeLDQ/edit?usp=sharing> (学内生のみ、要統合認証)

【テキスト (教科書)】

1. Radio France Internationale - RFI Savoirs <https://savoirs.rfi.fr/fr>
2. TV5Monde - Apprendre le français <https://apprendre.tv5monde.com/fr>

※フランス語圏の公共放送が提供し、無料、かつ全世界のフランス語学習者が用いている教材です。

【参考書】

仏和辞典が必要です。持っていない人は、法政大学図書館オンラインデータベース上で『ポケプロ仏和』『ロベール仏和』が利用できます (自宅など学外からもアクセス可)。

【成績評価の方法と基準】

1. 授業への毎週の参加 (50%)

2. 授業への貢献の量と質、到達目標の達成に向けた努力（50%）
3. 実用フランス語技能検定試験（仏検）やDELFLやTCFを受検したか、また合格したか（100%の枠外で5～20%程度の加点をします）※期末試験、期末レポートはありません。

[学生の意見等からの気づき]

・フランスに留学して、リスニング力や語彙（ごい）の不足を痛感したという声をよく耳にします。その一方で、リスニング力や語彙を伸ばす目的で、TV5MondeやRadio France Internationale (RFI)を留学先で勉強したという経験談も聞きます。TV5MondeやRFIは、日本でも視聴できますが、フランス語圏に詳しくない人が一人で学ぼうとしても、ニュースの内容がよく理解できない場合があります。この「時事フランス語 I」を履修すれば、日本語によるニュースや表現の解説を、あなたのフランス語発音に対する指導とともに、学ぶことができます。

・努力を続けるにはモチベーションが必要です。モチベーションを高めるには、じっさいに手の届きそうな目標をもつとよいでしょう。下記のリンク先にある資料が、目標やモチベーションについて考えるための、参考となれば幸いです。 <https://bit.ly/42ZK1ax>

[学生が準備すべき機器他]

音声ファイルやストーリーミング動画をWifiのある環境で視聴したり、学習支援システム-HoppiiやGoogle Classroomを閲覧するために、タブレットやノートパソコン等の情報端末が必要です。

[その他の重要事項]

「時事フランス語」って怖いかな、自分に向いているのかどうか…と迷っている方は、次のリンク先にあるプレイズメント・テストをお試し受験してみてください。問題文は英語とフランス語で書かれています。◀ Commencer ▶と書かれたボタンをクリックすると問題が表示されます。 <https://savoirs.rfi.fr/fr/apprendre-enseigner/langue-francaise/test-de-placement-a1/1>

もし半分ぐらい正答できるようなら、この授業を履修するのにちょうど良いレベルではないかと思います。

[Outline (in English)]

[Outline and objectives]

This course aims to promote students' understanding of French society, politics, and news media. An emphasis is placed on oral communication and using specialized vocabulary. By participating in proposed activities, students will become familiar with French-speaking news websites.

[Goal]

The goals to be achieved differ according to the starting level of the student.

* Learning objective for false beginners and intermediate learners: the student will be able to acquire, at the end of the two semesters of "Jiji-Furansugo", a linguistic ability equivalent to level A2 of the European Framework of Reference for Languages or to Futsuken jun 2 kyū.

** Pedagogical goal for those who already have a more or less good command of the French language (learners at the higher level as well as French-speaking international students): the student will be able to formulate relevant comments that demonstrate a solid understanding of local and global issues covered by the French-speaking media.

[Method(s)]

In each class session, the teacher will suggest materials available on the Internet. Learners will be asked to identify the essential elements. To do so, they are allowed to consult books and dictionaries written in their respective first language (the "mother tongue"). However, all participants are expected to express themselves in French, and to contribute to the discussion on what is said in the material.

The language of instruction in the classroom is primarily French, while administrative information will be provided in Japanese via LMS and e-mail.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

1) Try to make use of the learning materials yourself. The URLs for these materials are already listed in the Dashboard for Jiji-Furansugo.

- 2) According to the Standards for the Establishment of Universities, the minimum time of preparation and review required to earn two credits for a lecture or seminar is four hours per session.

[References]

1. Nexis Unis (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)
2. PressReader (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)
3. Cairn.info (Hosei University Library - E Database : Overseas articles)
4. Encyclopædia Universalis (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/Encyclopedias)
5. Shogakukan Robert Grand Dictionnaire Français-Japonais (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/Encyclopedias - « JapanKnowledge »)

Note: Off-campus access to these databases requires a connection through a Virtual Private Network ("VPN"). See the Hosei Network System Service website for information on how to connect to the university VPN. URL <https://netsys.hosei.ac.jp/>

[Grading criteria]

Your final grade in this seminar will be decided on the following:

1. Quantity and quality of "summary comments" = 50%
2. In-class activity participation and various contributions to the class = 50%

[Equipment student needs to prepare]

A stable and unlimited internet connection as well as a personalized IT device such as a computer, tablet or smartphone are required. Two LMS platforms are used, of which (1) Google Classroom is mainly used to share documents and (2) learners can consult some notes on the Hoppii website. In case of remote courses, video conferencing systems such as Zoom or Google Meet will be used to ensure the educational continuity.

[Others]

- 1) If you are uncertain of your language level, try taking a "placement test" at the A1 level on the RFI website <https://savoirs.rfi.fr/en/apprendre-enseigner/langue-francaise/test-de-placement-a1/1> Enroll in this course if you can answer more than half of the questions correctly.
- 2) The above schedule is still subject to change.

